7 離婁章句上

れでいくらでも直線、四角、円、水平をつくることができる。耳の

水準器を作り、直線、四角、

円、水平をつくるようにした。そ

をつくった。それで仁は天下をおおう。だから言う。高いものを作 すことができる。心を尽し、さらに人をそこなうのが忍べない法度 働きを尽し、さらに調律器で音を正した。それでいくらでも音を正

離婁章句上

7

今まで一度もない。聖人は目の働きを尽して、さらに定規、コンパ 典に因り、古い法典に従っている。」先王の法に従い過ったことは ことができない。先王の道を行なわないからだ。だから言う。善の 律はできない。堯舜の道は法度を用いて天下を治める。今、仁の心、 本文訳 きない。詩経に言う。「過ちがない。欠けている所もない。古い法 心だけでは政をするのに不足である。法だけでも政をすることはで 仁の評判があるのに、民は恩沢を受けていないし、後世の範とする はできない。師曠のように耳がよくても、竹管を使わないと音の調 離婁のように目がよく見えても、公輸子のように細工に巧みで 孟子は言う。 円や四角をつくる道具を使わなければ、円や四角をつくること

> 章通し番号62~89 通し番号378 462

るには、 たない。 に作る。政をするのに先王の道によらないと、 集まらないのは、 くないことは、国の災いでない。田野が開発されていない、財貨が いのは幸運である。だから言う。城壁が完備していない、 ていない。高位の者は義を犯し、民は法を犯す。これで国が滅びな 守ることがない。朝廷にいる者は道を信じていない。民は法を信じ の者が道理を学ぶことがなければ、賊民が起こる。 を衆にまくことになる。上は義と理を考えることがない。下は法を 仁者だけが高位におるべきである。不仁な者が高位におれば、悪 丘陵の上に作る。低いものを作るには川や沢のある低い所 国を害するものでない。上の者に道理がなく、下 智と言えようか。 滅ぶのに日を待 武器が多

従するさまである。君に仕えて義がない、 怠慢し悦従すること無かれ。」泄泄は沓沓のようなもので怠慢し悦詩経に言う。「天はまさに国をくつがえそうとしている。泄泄と 善を言って君の邪心を防ぐのは敬と言う。 先王の道を謗るのは、詩経の言う怠慢、悦従のようなものだ。だか うのは賊と言う。 ら言う。人が君に言いにくいことを言って君を正すのは、恭と言う。 自分の君はできないと言 進退に礼がない、 言えば

通し番号378

390

章内番号1

; 13

181

通し番号 378 章内番号1 章通し番号62

識別番号7・

1

本

文

治天下、 不能正五音、 孟子曰、 5不能成方員、 2離婁之明、 9堯舜之道、 6師曠之聰、 3公輸子之巧、 10不以仁政、 7不以六律、 11不能平 4 8 規

qiǎo, 4 bù yǐ guī jǔ, 5 bù néng chéng fāng yuán, 6 néng píng zhì tiān xià, yīn, 9 yaó shùn zhī daò, 10 bù yĭ rén zhèng, 11 bù kuàng zhī cōng, 7 bù yǐ liù lù, 8 bù néng zhèng wǔ $1~{\rm mèng}$ zǐ yuē, $2~{\rm li}$ lóu zhī míng, $3~{\rm g\bar{o}ng}$ shū zǐ zhī $sh\bar{i}$

能わず、 成すこと能わず、師曠の聡、六律以てせざれば、五音を正すこと 孟子曰く、 堯舜の道は、仁政以てせざれば、天下を平治すること能 離婁の明、 公輸子の巧、規矩以てせざれば、 方はなん

①明:よく見える 心有るが如し)」とある。 り、耳目有れば、則ち聡明の徳有り、父子有れば、 を明と謂う) 則有聰明之德、有父子、則有慈孝之心(物有れば必ず法有 通し番号668-17朱注に「有物必有法、如有耳 見人所不見、謂之明(人の見ざる所を見る、 則ち慈孝の

②規矩:円や四角をつくる道具 (朱注) 方員之至也 (規矩は、 方員の至りなり)」とある。 通し番号391-2に「規

(3) 方:四角 正方形 正日方(正は方と曰う) 方者中矩(方は矩

> に中る) とある。 通し番号300-39朱注に「買田一方(田一方を買う)」

(4) 員^えん 円 て方員平直を爲る)」とある。 之以規矩準繩、以爲方員平直(之に継ぐに規矩準縄を以て、 員、通圓(員、 円に通ず) 通し番号382-2に

(5) 聡: 耳がさとい 耳徹爲聰(耳徹るは聡と爲す)

⑥六律:竹を切って作った竹管 五音の音程を調節する(朱注) 夾鍾、仲呂、林鍾、南呂、応鍾の六つの音程がある。 紫皇に かんだ なんこ せんしょ かんこう なんこ なんこ はっしょ 大呂には、姑洗、蕤賓、夷則、無射の六つの音程があり、六呂には、 ずつ穴をあけて、12の音程の調節ができる。六律は黄鍾、 のは、 確には六律は陽の六音を調節するもので、陰の六音を調節する 六呂と言う。六律と六呂の竹管の長さが違うため、 60

音と言う。 : 音を清濁高下により分類したもの。宮、商、 (朱注) 羽を五

(8)平治:治める とある。 だ天下を平治するを欲せざるなり)」とある。 治なり) 通し番号470-1に「君子平其政(君子其政を平 通し番号267-1に「夫天未欲平治天下也(夫天未 平にも「治める」の意味がある じ

朱 注

陰也、 爲陽、 此言治天下不可無法度、 之上下、17黄鍾、18太蔟、19姑洗、 師、12知音者也、 7所以爲員之器也、8矩、 1離婁、 24 大 呂、 31五音、32宮、33商、34角、 2古之明目者、 25夾鍾、26仲呂、27林鍾、 13 六律、 3公輸子、 39仁政者、 9所以爲方之器也、 14截竹爲筩、 35 徵、 20 蕤賓、 4名班、5魯之巧人也、6規、 40治天下之法度也、 15陰陽各六、 36羽也、 28 南 呂、 21 夷則、 10師曠、 29應鍾、 37范氏曰、 22無射、 16以節五音 11晉之樂 30 爲 23

tiān xià zhī fă dù ye, zhì tiān xià bù kẽ wú fã dù, 39 rén zhèng zhě, 40 zhì 34 jiǎo, 35 zhēng, 36 yǔ yě, 37 fàn zhī yuē, 38 cǐ yán bīn, 21 yí zé, 22 wú shè, 23 wéi yáng, 24 dà lǚ, 25 jiā shàng xià, 17 huáng zhōng, 18 tài cù, 19 gū xiăn, 20 ruí zhú wéi tŏng, 15 yīn yáng gĕ liù, 16 yĭ jié wǔ yīn zhī qì yĕ, 8 jũ, 9 suǒ yǐ wéi fāng zhī qì yĕ, 10 shī kuàng bān, 5 lǔ zhī qiǎo rén yě, 6 guī, 7 suŏ yǐ wéi yuán zhī 1 lí lóu, 2 gữ zhī míng mù zhě, 3 gōng shū zǐ, 4 míng 11 jìn zhī yuè shī, 12 zhī yīn zhě yĕ, 13 liù lù, 14 jié 30 wéi yīn yĕ, 31 wŭ yīn, 26zhòng lử, 27 lín zhōng, 28nán lử, 29yīng 32 gōng, 33 shāng,

度なり すなり、 各式、 以て員を爲る所の器なり、矩、以て方を爲る所の器なり、 天下を治めるは法度無かるべからず、仁政は、天下を治めるの法 晋の楽師なり、 陽と爲し、大呂、夾鍾、仲呂、林鍾、南呂、応鍾、陰と爲 古の明目なる者なり、公輸子、名は班、魯の巧人なり、 以て五音の上下を節す、 五音、 宮、商、角、徴、羽なり、范氏曰く、 音を知る者なり、 黄鍾、太蔟、 六律、 竹を截り筩を爲る、 姑さ洗れ 蕤賓、 此言えらく、 師曠、 夷則、 陰陽

(2)器:道具 哭(1)巧人:細工師 器、 巧は「細工」の意味がある 所以操事

672-3朱注に「蕢、 草器也(蕢、草の器なり)」とある。(器、以て事を操る所なり) 通し 通し番号

朱注訳

(4)載る:切る

断つ

截、斷也(截、

断なり)

通し番号275.

2:竹管

第、斷竹也 (第、

断竹なり)

5朱注に「絶、

猶截也(絶、

猶截のごときなり)」とある。

陰である。五音は宮、商、角、徴、羽である。范氏は言う。これ 夷則、無射が陽である。大呂、夾鍾、 ずつつくり、五音の上下を調節する。 る道具である。師曠は晋の音楽家であり、 魯の細工師である。規は円をつくる道具である。矩は四角をつく 離婁は古の目がよく見えるものである。公輸子は名は班であり、 める法度であると言う。 は、天下を治めるのは法度がなければならない、 ある。六律は竹を切って竹管をつくり、 仲呂、林鍾、太族、 それに陰と陽の穴を六つ 音がわかっている者で 仁政は天下を治 姑洗洗 応鍾が 蕤っないひん

通し番号 379 章内番号2 章通し番号62 識別番号7 1

2

本

世者、 今有仁心仁聞、 4不行先王之道也、 2而民不被其澤、 3不可法 於後

1 jīn yoŭ rén xīn rén wén, kẽ fã yú hòu shì zhě, 4 bù xíng xiān wàng zhī daò yế 2 'ermín bù bèi qí zé, 3 bù

今仁心仁聞有り、而るに民其沢を被らず、後世に於て法とすべか らざるは、先王の道を行わざるなり、 ①仁心:人を愛する心 (朱注)

②仁聞:人を愛しているという評判(朱注)

(3)沢:恩沢 通し番号566-6に「施澤於民久(沢を民に施すこと久し)」 澤、恩澤也(沢、恩沢なり)(通し番号256-7朱注)

聲、 不忍一牛之死、12以羊易之、13可謂有仁心、14梁武帝終日一食蔬 南大亂、23其故何哉、24有仁心仁聞而不行先王之道故也、 18可謂有仁聞、19然而宣王之時、 聞、 7聞於人也、 15宗廟以麪爲犧牲、16斷死刑必爲之涕泣、17天下知其慈仁、 2去聲、3○仁心、4愛人之心也、5仁聞者、6有愛人之 8先王之道、9仁政是也、 20齊國不治、21武帝之末、 10范氏曰、11齊宣王

shí, 20 qí guó bù zhì, 21 wữ dì zhī mò, 22 jiāng nán dà rén, 18 kẽ wèi yoǔ rén wén, 19 rán ér xuān wáng zhī yì zhī, 13 kẽ wèi yoǔ rén xīn, 14 liáng wǔ dì zhōng rì yuē, 11 qí xuān wáng bù rěn yī niú zhī sĭ, 12 yĭ yáng yĕ, 8 xiān wàng zhī daò, 9 rén zhèng shì yĕ, 10 fàn zhī 5 rén wén zhě, 6 yoù ài rén zhī shēng, 7 wén yú rén 1 wén, 2 qù shēng, 3 16 duàn sĩ xíng bì wèi zhī tì qì, 17 tiān xià zhī qí cí shí shū sù, 15 zōng miaò yĭ 0 rén xīn, 4 ài rén zhī xīn yĕ miàn wéi xī shēng

> luàn, 23 qí gù hé zāi, 24 yoǔ rén xīn rén wén ér xíng xiān wàng zhī daò gù yĕ bù

故なり、 南大いに乱る、其故何ぞや、 死刑を断じて必ず之が爲に涕泣す、 し、梁の武帝終日に一たび蔬素を食す、宗廟麪以て犠牲と爲す、 斉の宣王一牛の死を忍びず、羊以て之に易う、仁心有りと謂うべ 聞、去声、○仁心、人を愛するの心なり、仁聞は、人を愛するの声 と謂うべし、然り而して宣王の時、斉国治まらず、 有りて、人に聞こえるなり、先王の道、仁政是れなり、范氏曰く、 仁心仁聞有りて先王の道を行わざる 天下其慈仁を知る、 武帝の末、江 仁聞有る

(1) 聞、 去声:現代中国語では第二声に発音するため、第二声でピンイ ンをつける。

(2) 声:名 すること能わずと雖も、亦自ずから其声問の美を墜とさず)」と 注に「雖不能殄絶其慍怒、亦不自墜其聲問之美(其慍怒を殄絶名 誉れ 聲、名也(声、名なり) 通し番号956-19朱

(3)易う:換える 交換する ず)」とある。 - 2に「柳下惠不以三公易其介(柳下恵は三公以て其介を易え 換、易也(換、易なり) 通し番号873

(4)終日:一日 不獲一禽(終日にして一禽を獲ず)」とある。 日を終えるまで 通し番号327-2に「終日而

(5) 蔬素:野菜の質素なもの すべきもの、通名は蔬と爲す) しは素と日う) 凡草菜可食者、通名爲蔬(凡そ草菜食 凡物無飾曰素(凡そ物飾り

無

(6) 動: 麦粉 麪、麥屑末也(麪、麦の屑末なり)

(7)断ず:決める 通し番号502-11朱注に「蓋言斷之在己(蓋し之を断ずるは己 断定する 斷、猶決也(断、 猶決のごときなり)

(8) 第位:涙を流して泣く -17朱注に「故涕泣而以女與之(故に涕泣して女以て之に与う)」 涕、涙也 (涕、涙なり) 通し番号406

に在るを言う)」とある。

仁聞があると言うことができる。しかし宣王の時斉は治まらな を決めるとその者のために泣いた。天下はその慈愛を知っていた。 末なものを食べた。宗廟に犠牲のかわりに麦粉をささげた。死刑 という評判が人の間で聞こえる。先王の道は仁政である。范氏は 聞は去声である。仁心は人を愛する心である。仁聞は人を愛する 仁聞があって先王の道を行わなかったからである。 かったし、 心があると言うことができる。梁の武帝は一日に一食で野菜の粗 斉の宣王は一頭の牛を殺すことが忍べず、羊に換えた。仁 武帝の末には江南は大いに乱れた。どうしてか。仁心、

章内番号3 章通し番号62 識別番号7・ 1 3

通し番号380

故曰、 2徒善不足以爲政、 3徒法不能以 八自行、

1 gù yuē, 2 tú shàn bù zú yĭ wéi zhèng, 3 tú fă bù

故に曰く、徒善は以て政を爲すに足らず、néng yǐ zì xíng. うこと能わず、 徒法は以て自ずから行

朱注

(2)徒法:政があって心がない

關睢、 7無其心、8是謂徒法、9程子嘗言、10爲政須要有綱紀文章、 12審量、13讀法、14平價、15皆不可闕、 18麟趾之意、19然後可以行周官之法度、 2猶空也、 3有其心、 4無其政、5是謂徒善、 20正謂此也、 16而又曰、17必有 6有其政、

guān zhī fă dù, 20 zhèng wèi cĭ yĕ, guān jū, 18 lín zhǐ zhī yì, 19 rán hòu kẽ yǐ xíng zhoū fă, 9 chéng zĭ cháng yán, 10 wéi zhèng xū yaò yoŭ wèi tú shàn, 6 yoǔ qí zhèng, 7 wú qí xīn, 8 shì wèi tú 1tú, 2yóu kòng yế, 3yo
ủ qí xīn, 4 wú qí zhèng, 5 shì 14 píng jià, 15 jiē bù kẽ quē, 16 ér yoù yuē, 17 bì yoŭ gāng jì wén zhāng, 11 jĭn quán, 12 shĕn liàng, 13 dú fǎ,

正に此を謂うなり、 必ず関雎、鱗趾の意有り、 かにし、法を読み、価を平す、皆闕くべからず、 を爲すは須く綱紀文章有ることを要すべし、権を謹み、量を審ら 其政有りて、 徒、猶空のごときなり、其心有りて、其政無し、是れ徒善と謂う、 其心無し、是れ徒法と謂う、程子嘗て言えらく、政 然る後以て周官の法度を行なうべし、 而して又曰く、

①綱紀:大綱と細則 大縄其綱なり、 如網罟、大繩其綱也、網目其紀也 網目其紀なり 網罟:あみ) (網 罟 朱

注

- (2)文章:礼楽法度 礼楽法度なり)」と注す。 其文章有り)」とあり、朱子は「文章、禮樂法度也(文章、 『論語』泰伯19に「煥乎、 其有文章(煥乎とし
- ③権:手段が常道に反して結果が道に合う 有り権有り、 有正有權、正者萬世之常、權者一時之用(天下の道は、正 経に反して善きなり) 通し番号458-13朱注に「天下之 正は万世の常、権は一時の用なり)」とある。 權者、 反經而善也(権
- (5)番らかにする:つまびらかにする(4)量:制度 量、度也(量、度なり 量、 度也(量、度なり)
- なり) (心存すれば、則ち以て夫得失の幾を審らかにすること有り)」 通し番号415-3朱注に「心存、則有以審夫得失之幾 知り尽す 審、悉也(審、
- (6)読む:文章語句の意味をくみとる。 抽繹其義、蘊至於無窮、 蘊 是之
- 平 平 正なり)
- (8) (7) 瞬かです: 欠ける 之の字無し、疑うらくは闕文なり)」とある。 注に「王公下、 闕、 諸本多無之字、疑闕文也(王公の下、阙、缺也(闕、欠なり) 通し番号6 諸本多く
- (9)関雎:詩経の周南の最初の編名。周南は詩経の最初にあり周王朝の に次の一文がある。 容貌ともに美しい女性) 而して善を傷つけるの心無し、是れ関雎の義なり 進めることに在り、其色に淫ならず、窈窕を哀み、 を以て関睢は淑女を得て以て君子に配するを楽しみ、愛は賢を 不淫其色、哀窈窕、思賢才、 初めの時代の盛治の時を歌っている。周南には序があり、それ 是以關睢樂得淑女以配君子、愛在進賢、 而無傷善之心焉、是關睢之義也(是 賢才を思う、 窈窕:心、
- (10) | 蘇趾:詩経の周南の最後に鱗之趾という編名がある。 者之風、繋之周公(然らば則ち関雎麟趾の化、王者の風なり、 には序があり、それに次の一文がある。「然則關雎麟趾之化、 詩経、 周南

之を周公に繋ぐ)」とある。

田南官:周礼のこと。十三経の一つであり、『儀礼』『礼記』『周礼』を 三礼とする。周公旦が書き残したものとされ、官制とその職掌 を細かく記述している。

朱注訳

度を行なうことができる。まさにこのことである。 必ず詩経の関雎、麟趾の心を持って後に、周礼に書かれている法 くくみ取る、値段を正す、これらはどれも欠くことができない。 ことは注意深くする、 善と言う。その政があってその心がないのを徒法と言う。 徒は空のようなものである。その心があってその政がないのを徒 かつて言う。政は綱紀、礼楽、法度が必要である。 制度を詳らかにする、 先王の法の意味をよ 常道に反する 程子は

心がないと国は治まらない。これは一個人と接する場合も同じ から行うこと能わず」である。 しないと相手は服さない。孟子の言うように「徒法は以て自ず しかし法だけでは国は治まらない。 現代日本は法治国家である。法律で国を治めようとしている。 法律的に正しいことを言っても、 法律的に正しくても仁愛の 仁愛の心で相手に接

通し番号381 章内番号4 章通し番号62 識別番号7・1 4

本 文

而過者、 1詩云、 5未之有也、 2不愆不忘、 3率由舊章、 4 遵先王之法

yún, 2 bù qiān

bù wàng, 3

lǜ yóu jiù zhāng

つ者は、未だ之有らざるなり、 「云う、愆らず忘れず、旧章に率い由る、先王の法に遵いて4 zūn xiān wàng zhī fǎ ér guò zhě, 5 wèi zhī yoǔ yĕ, (1) 愆る:誤る (朱注) 先王の法に遵いて過

- 未足爲愆也(是を以て小弁の怨は、未だ愆ちと爲すに足らざる:誤る(朱注) 通し番号737-11朱注に「是以小弁之怨、 なり)」とある。
- ②忘れる:落ちている 欠けている 令德不過誤不遺失、循用舊典之文章(成王の令徳は過誤せず遺 遺失は「落とす」である。 旧典の文章を循用す)」としており、忘は遺失にあたり、 「不愆不忘」を鄭玄は「成王之
- (3)章:典法 (朱注)
- (4)率う:従う 是也(中庸謂う所の性に率う之道と謂う、 遵、循也 通し番号951-11朱注に「中庸所謂率性之謂道、 遵泛 循なり) 是れなり)」とある。

(5) 遵う:従う

典法也、 詩、 2大雅假樂之篇、3愆、 9所行不過差不遺忘者、 4過也、5率、6循也、 10以其循用舊典故也、 7 章、 8

> 詩、 古の法に従っているからである。 詩は大雅の仮楽の篇である。愆は過ちである。 う所過差せず遺忘せざるは、其旧典を循用するを以ての故なり、 bù yí wàng zhě, 10 yǐ qí xún yòng jiù diăn gù yě, 6 xún yẽ, 7 zhāng, 8 diặn fã yẽ, 9 suố xíng bù guô chà 1 shī, 2 dà yă jiă lè zhī piān, 3 qiān, 4 guò yĕ, 5 (3)遺忘:落とす (2)過差:過失 (1)循:従う 大雅仮楽の篇、愆、過なり、率、 に非ざる莫し、順にして之に循えば、則ち大智と爲る)」とある。「事物之理、莫非自然、順而循之、則爲大智(事物の理、自然 差、失也(差、失なり) 遺、忘也(遺、忘なり) 順也(循、 順なり) 循なり、 通し番号512-19朱注に 忘 章、 率は循である。 失也(忘、 典法なり、 、 失なり)

朱注訳

は典法である。行なう所に過ちがなく、落ちている所がないのは、

通し番号 382 章内番号5 章通し番号62 識別番号7 1

5

本

員平直、 六律、7正五音、 10繼之以不忍人之政、 1聖人旣竭目力焉、 4不可勝用也、 8不可勝用也、 2繼之以規矩準繩、 11而仁覆天下矣、 5旣竭耳力焉、 9 旣竭 心思焉 6繼之以 3以為方

zhī yǐ bù rĕn rén zhī zhèng, 11 ér rén fù tiān xià yĭ, shéng, 3 yĭ wéi fāng yuán píng zhí, 4 bù kĕ wǔ yīn, 8 bù kĕ shèng yòng yĕ, 9 jì jié xīn sī yān, 10 jì yòng yĕ, 5 jì jié ĕr lì yān, 6 jì zhī yĭ liù lù, 7 zhèng 1 shèng rén jì jié mù lì yān, 2 jì zhī yǐ guī jữ zhŭn shèng

を爲れば、 ぐに六律を以て、五音を正せば、勝げて用うべからざるなり、既 聖人既に目力を竭し、之に継ぐに規矩準縄を以て、以て方員平直 に心思を竭し、 天下を覆う、 勝げて用うべからざるなり、既に耳力を竭し、之に継 之に継ぐに人に忍びざるの政を以てす、而して仁

(1)竭す:つくす 注に「人君但當竭力於其所當爲(人君但当に力を其の当に爲す べき所に竭すべし)」とある。 竭、盡也(竭、尽なり) 通し番号12 1 26 朱

番号635-9に「其直如矢(其直は矢の如し)」とある。 直、不曲也(直、曲がらざるなり) 通し

(5)勝げて:あげて ことごとく と有らしべば、則ち義勝げて用うべからず)」とある。 勝用矣(其臣をして能く是心に因りて将に之に順わんとするこ 謂う、之を用い尽きるべからざるは、亦勝がらずと言う) し番号244-19朱注に「使其臣有能因是心而將順之、則義不可 亦言不勝(重き物挙ぐべからざるは、之を勝がらずと 重物不可擧者、謂之不勝、 用之不 通

6心思:目力、耳力とあり、この力は「はたらき」の意味である。 うのが心のはたらきだから心思としたのだろう。 思

朱 注

以徧天下、12及後世、13故制爲法度、14以繼續之、15則其用不窮、 8被也、9此言古之聖人、10旣竭耳目心思之力、11然猶以爲未足 16而仁之所被者廣矣、 2平聲、3○準、 4所以爲平、5繩、6所以爲直、 7 覆、

5 shéng, 6 suǒ yǐ wéi zhí, 7 fù, 8 bèi yĕ, 9 cǐ yán gữ 16 ér rén zhī suŏ bèi zhĕ guăng yĭ, yǐ wéi wèi zú yǐ biàn tiān xià, 12 jí hòu shì, 13 gù zhì zhī shèng rén, 10 jì jié ĕr mù xīn sī zhī lì, 11 rán yóu 1 shèng, 2 píng shēng, 3 wéi fă dù, 14 yĭ jì xù zhī, 15 zé qí yòng bù qióng 0 zhun, 4 suŏ yĭ wéi píng,

而して仁の被う所のもの広し、 爲す、故に法度を制爲し、以て之に継続す、 然れども猶以て、 覆、被なり、此言えらく、古の聖人、既に耳目心思の力を竭す、 平声、○準、以て平を爲る所なり、縄、以て直を爲る所なり、 未だ以て天下に徧くし、 後世に及ぶに足らずと 則ち其用窮まらず、

①勝、平声:「耐える」の意味では昔は第一声に発音していたが、 在では第四声のため、第四声でピンインをつける。

(2) 平: 水平 水平之を準と謂う) 天下莫平於水、 水平謂之準(天下水於平かなること莫

髮がおおう)」とある。 也(被髪に冠を纓して往きて之を救れば、 通し番号529-2に「被髪纓冠而往救之、 則ち惑いなり

勝は平声である。準は水平にするものである。繩は直線をつくる にはまだ不足であると考えた。だから法度をつくった。それで用 いて尽きることがなく、仁のおおう所は広くなった。 心の働きを尽したが、天下にあまねくゆきわたり、後世に及ぶの ものである。覆はおおう。次のように言う。古の聖人は目、耳、

通し番号383 章内番号6 章通し番号62 識別番号7 1 6

文

政不因先王之道、 1故日、 2為高必因丘陵、 5可謂智乎、 3為下必因 川澤、 4為

wèi zhì hū, chuān zé, 4 wéi zhèng bù yīn xiān wàng zhī daò, 5 kẽ 1 gù yuē, 2 wéi gaō bì yīn qiū líng, 3 wéi xià bì yīn

故に曰く、 に因る、政を爲すに先王の道に因らざれば、 高きを爲るは必ず丘陵に因る、下きを爲るは必ず川沢 智と謂うべけんや

①乎:反語を示す

朱 注

矣、 1丘陵本高、2川澤本下、3爲高下者因之、4則用力少而成功多 5鄒氏曰、 6自章首至此、7論以仁心仁聞行先王之道、

189

rén wén xíng xiān wàng zhī daò, 5 zoū zhī yuē, 6 zì zhāng shoŭ zhì cĭ, 7 lùn yĭ rén xīn zhě y
īn zhĩ, 4 zé yòng lì shǎo ér chéng gōng duō 1 qiū líng běn gaō, 2 chuān zé běn xià, 3 wéi gaō xià

自り此に至るは、仁心仁聞以て先王の道を行うこち力を用いること少なくして功を成すこと多し、 丘陵本より高し、川沢本より下し、高下を爲る者之に因れば、 仁心仁聞以て先王の道を行うことを論ず、 鄒氏曰く、 章首 則

朱注訳

では、仁の心、仁の名があって、先王の道を行なうことを論じる。 功をなすことは多くなる。鄒氏は言う。この章の始めからここま を作るには、丘陵や川沢によると、力を用いることが少なくて、 丘陵はもとより高く、川沢はもとより低い。高いもの、 低いもの

然低い土地にものを建てる人より高いものを建てることが容易 るのである。だから高い丘の上にものを建てることになる。当 母国語はまるで自分が生来持っていたかのように思っている 葉、母国語を話す。ものを考える時も母国語を用いて考える。 でものを考えるようになる。優れた人に親しむ環境がそうさせ に親しむと、知らずに優れた人の言葉を話し、優れた人の言葉 が、そうではなく環境が得さしめたものである。優れた人の言 ない。人間は言葉を話すが、その人の生まれ育った母国の言 人間は社会の産物であり、 社会の影響を受けていない人間は

通し番号384

章内番号7

章通し番号62

識別番号7

1

7

である。 常に優れた人に親しむことが大事である所以である。

文

其惡於衆也 1是以惟仁者宜在高位、 2不仁而在高位、 3是播

1 shì yĭ wéi gaō wèi, 3 shì bō qí è yú zhòng yĕ rén zhě yí zaì gaō wèi, 2 bù rén ér zai

是を以て惟仁者宜しく高位に在るべし、不仁にして高位に在るは、 是れ其悪を衆に播くなり、

(1) 播く:まく - 2に「播種而耰之(種を播きて之を耰う)」とある。 播、猶種也(播、猶種のごときなり) 通し番号670

朱

悪於衆、 仁者、 5謂貽患於下也 2有仁心仁聞而能擴而充之、3以行先王之道者也、 4 播

yú zhòng, 5 wèi yí huàn yú xià ye, chōng zhī, 3 yǐ xíng xiān wàng zhī daò zhě yě, 1 rén zhě, 2 yoù rén xīn rén wén ér néng kuò ér 4 bō e,

を信ぜず、

君子は義を犯し、

小人は刑を犯して、

国の存する所は

なう者なり、悪を衆に播くは、患を下に貽るを謂うなり、 仁心仁聞有りて能く拡めて之を充し、以て先王の道を行

> (1)拡む:広める 章、前聖未だ発さざる所を拡む)」とある。 通し番号168-22朱注に「孟子此章、擴前聖所未發(孟子の此 擴、張小使大也(拡、小を張り大ならしめるなり)

(2) 點る:贈る 胎、贈遺也 (胎、贈遺なり)

朱注訳

行なう者である。 仁者は仁の心、仁の名があって、 悪を衆に播くは、 それを広め満たし、 災いを下に贈ることを言う。 先王の道を

通し番号385 章内番号8 章通し番号62 識別番号7 1 8

本

幸也、 不信度、 上無道揆也、 5君子犯義、 2下無法守也、 6小人犯刑、 3朝不信道、 7國之所存者 4 工

上は道揆無きなり、下は法守無きなり、朝は道を信ぜず、 fàn xíng, 7 guó zhī suŏ cún zhĕ xìng yĕ, xìn daò, 4 gōng bù xìn dù, 5 jūn zǐ fàn yì, 1 shàng wú daò kuí yĕ, 2 xià wú fă shoŭ уĕ, 3 6 xiaŏ rén zhāo bù 工⁽⁵⁾ は 度⁽⁶⁾

幸いなり、 ⑴ここは「上は道揆無きなり」が上の「不仁にして高位に在る」によっ

かることがないのである。「下は法守無きなり」は「其悪を衆に て起こることである。不仁者が上にいるから、 義理で事物をは

ここで切れると考えるのが自然である、前の二つも「國之所存 無道揆也、下無法守也」と最初の二つには「也」がついており、 其国必ず亡ぶ、其亡びざるものは僥倖のみ」とするが、「幸いな 所は幸いなり」は一つのまとまりである。「朝は道を信ぜず」 ことである。「君子は義を犯し、小人は刑を犯して、国の存する り」にかかるのは、後の二つ、あるいは後の四つだけである。「上 の存する所は幸いであるとする。朱子は「此六なるもの有れば、 人は刑を犯す」が起こる。君子は義を犯し小人は刑を犯して国 ら、「君子は義を犯す」が起こり、「工は度を信ぜず」から「小 ている。「下は法守無きなり」とは百工つまり民が法を信じない あたる。「工は度を信ぜず」は「下は法守無きなり」を言い換え 理で考えることがないことである。朝は朝廷にいる人で、 きなり」を言い換えている。「上は道揆無きなり」とは上が義と を守ることがないのである。「朝は道を信ぜず」は「上は道揆無 播くなり」で起こることを言っている。悪を下にまき、 上に か

②道揆:義と理で事物をはかりよいようにする(朱注) に「先聖後聖、其揆一也 度であるとし、 「はかる」の意味がある。 (先聖後聖、其揆一なり)」とある。 通し番号466 朱子は揆は

者幸也」にかかると考えるのは無理がある。

(4)朝:朝廷にいる人 趙注は「朝廷之士、不信道徳(朝廷の士、(3)法守:自ら法度を守る(朱注) 喜(侍するを得て同朝甚だ喜ぶ)」とある。 を信ぜず)」としている。 通し番号246-3に「得侍同朝甚

⑤工:もろもろの職人 民の代表としてもろもろの職人をあげている 民とほぼ同じ意味 百工也 (伊藤仁斎)

(6) 度:法(朱注) 諸侯の度と爲る)」とある。 通し番号81-15に「一遊一豫、爲諸侯度(一遊一

(7)刑:法 (寡妻に刑となる)」とある。 法也(刑 法なり) 通し番号45-7に「刑于寡妻

朱 注

度、 22無道揆、23則朝不信道、 也、18君子小人、19以位而言也、20由上無道揆、21故下無法守、 制其宜、12法守、 6揆、7度也、8法、9制度也、 1 朝、 27而小人犯刑、 2音潮、 3○此言不仁而在高位之禍也、 13謂以法度自守、 28有此六者、 24而君子犯義、 10道揆、 29其國必亡、 14 工、 15官也、 25無法守、 11謂以義理度量事物而 30其不亡者僥倖而 4 道、 16 度、 5義理也、 26則工不信 17 卽法

jūn zǐ fàn yì, 25 wú fă shoŭ, wáng, 30 qí bù wáng zhě jiǎo xìng ér yǐ, 27 ér xiaŏ rén fàn xíng, 28 yoŭ cĭ liù zhě, 29 qí guó bì fă shoŭ, 22 wú daò kuí, 23 zé zhāo bù xìn daò, 24 ér zhì qí yí, 12 fã shoǔ, 13 wèi yǐ fã dù zì shoǔ, 14 gōng dù yĕ, 10 daò kuí, 11 wèi yĭ yì lǐ dù liáng shì wù ér zhī huò yĕ, 4 daò, 5 yì lĭ yĕ, 6 kuí, 7 dù yĕ, 8 fă, 9 1 zhāo, 2 yīn cháo, 3 wèi ér yán yĕ, 20 yóu shàng wú daò kuí, 21 gù xià wú 15 guān yĕ, 16 dù, 17 jí fã yĕ, 18 jūn zĭ xiaŏ rén, 19 yĭ o cĭ yán bù rén ér 26 zé gōng bù xìn dù, zaì gaō wèi zhì

は道を信ぜず、 度量して其宜を制するを謂う、 義理なり、 上は道揆無きに由る、故に下は法守無し、 工、官なり、度、即ち法なり、 音は潮、○此は不仁にして高位に在るの禍を言うなり、 揆、度なり、 而して君子は義を犯す、 法、制度なり、 法守、 君子小人、位以てして言うなり、 法度以て自ら守るを謂う、 道揆は、 法守無ければ、 道揆無ければ、 義理以て事物を 則ち工は 則ち朝 道、

必ず亡ぶ、其亡びざるものは僥倖のみ、 度を信ぜず、 而して小人は刑を犯す、此六なるもの有れば、 其国

(1) 僥倖:思いもかけぬ幸せ 通し番号1 18-13朱注に「不可僥倖

法を守らない。義と理を考えないと、朝廷にいる者は道を信じず、 民は法を犯す。この六つがあれば、国は必ず滅ぶ。滅ばないのは 位の高い者は義を犯す。法を自ら守らないと、官吏は法を信じず、 ている。上は義と理を考えることをしない。それで下にいる者は ることを言う。工は官である。度は法である。 義理である。揆は度である。法は制度である。道揆は、義と理で 朝は音は潮である。これは不仁な者が高位にいる禍を言う。道は 幸運なだけである。 ものを考慮し、 よいようにすることである。法守は法度を自ら守 君子小人は位で言

通し番号386 章内番号9 章通し番号62 識別番号7・1 9

文

xìng, 11 sàng wú rì yĭ, 1 gù yuē, 2 chéng guō bù wán, 3 bīng ji bù duō, 4 feī guó zhī hài yĕ, 8 shàng wú lĭ, 9 xià wú xué, 10 zeí mín guó zhī zāi yĕ, 5 tián yĕ bù pì, 6 huò caí bù jù, 7 feī

故に曰く、城郭完からず、兵甲多からざるは、国の災に非ざるな

礼が無く、下は学ぶことが無ければ、賊民興り、喪ぶこと日無し、 り、田野辟けず、貨財聚まらざるは、国の害に非ざるなり、上は (1)城郭:城壁 内側を城、外側を郭と言う。 ぜず、惟黍之に生ず、城郭宮室、宗廟祭祀の礼無し)」とある。 不生、 城と曰い、外は郭と曰う) 惟黍生之、無城郭宮室、宗廟祭祀之禮(夫貉は、五穀生 通し番号775-2に「夫貉、五穀 内日城、外日郭(内は

②兵甲:兵は「武器」、甲は「革」の意味。兵甲は人を傷つける兵(武

器)と人を守る革を並べて戦闘の道具を示している。

兵、戈、

(3) からく・ひらく 鎧なり) 不堅利也(兵革堅利ならざるに非ざるなり)」とある。 が一つのものが戈で、二つのものが戟である。 戟、劍、矢也(兵は、戈、戟、剣、矢なり)ほこは長い柄の先 に刀をつけた武器である。戈と戟の違いは、先についている刀 兵甲は兵革とも言う。通し番号205-3に「兵革非 辟、叚借爲闢(辟、叚借して闢と爲す)

辟かず)」とある。 (闢、開なり) 通し番号137-9に「地不改辟矣(地改め

(5)上が礼無し:物の道理を考えない (4)聚まる:集まる に「窊下之地、水所聚也(窊下の地、水聚まる所なり)」とある。 聚也(集、 聚なり) 上無礼は無道揆に応ず、礼は 通し番号13-21朱注

即道の節文なり(中村惕斎)節文は「ほどよく切り盛りする」

1故曰、 5田野不辟、 9下無學、 2城郭不完、 6貨財不聚、 10賊民興、 3兵甲不多、 7非國之害也、 11喪無日矣、 4非國之災也、 8上無

7下不知學、 所以責其君、 2與闢同、 8則易與爲亂、 3喪、4去聲、5○上不知禮、6則無以敎民、 9鄒氏曰、10自是以惟仁者至此、 11

zhì cĭ, 11 suŏ yĭ zé qí jūn, yŭ wéi luàn, 9 zoū zhī yuē, 10 zì shì yĭ wéi rén zhě 1 pì, 2 yữ pì tóng, 3 sàng, 4 qù shēng, 5zhī lǐ, 6 zé wú yǐ jiāo mín, 7 xià bù zhī xué, o shàng bù 8 zé yì

えること無し、下が学を知らざれば、則ち乱を爲すことに与し易 辟、闢と同じ、喪、去声、○上が礼を知らざれば、則ち以て民に教 鄒氏曰く、 是以惟仁者自り此に至る、 以て其君を責むる所な

(1)教える:善に導く を長めて其失を救うなり) 教也者、 長善而救其失也(教なるものは、 善

ことがない。下が学ぶことをしないと乱をなしやすい。 是以惟仁者からここまでは、君を責めている。 闢と同じ。 喪は去声である。上が礼を知らないと民に教える 鄒氏は言

障が脅かされると考える。それで核武装に邁進することになる。 想敵国が核武装すると、自国も核武装しなければ自国の安全保 国家の安全保障を考える時は、まず軍備の拡張を考える。 仮

> 通し番号387 と言う。上の者が道理を考えず、下の者が道理を考えないと国 は日ならずして滅ぶのである。 理を考えず、 に、武力は必要ないことを示している。仮想敵国の上の者が道 家は日ならずして滅ぶと言う。このことは仮想敵国を滅ぼすの ところが孟子は国家に強大な武力がないのは、国の災いでない 下の者が道理を学ばないようにすれば、 章内番号10 章通し番号62 仮想敵国 10

本

識別番号7

1

1詩日、 2天之方蹶、3無然泄泄

然く泄泄とすること無かれ、

(1)方に:まさに~する に宋牼方に楚王に見えんと欲す)」とある。 通し番号740-3朱注に「時宋牼方欲見楚王 叚借爲當爲將(方、叚借して当と爲し

(4) **** **** **** **** **** **** **** (今十 (2) 蹶る:くつがえる (朱注) 、・ドキの辞 然、狀事之詞也(然、事を状すの詞なり)是氣也(今夫蹶く者趨る者は、是れ気なり)」とある。 通し番号150-10に「今夫蹶者趨者

|泄泄:怠慢し喜び従うさま

朱 注

1 蹶、 2居衛反、 3泄、 4弋制反、 5 ○詩、 6大雅板之篇、 7 蹶、

臣無得泄泄然、13不急救正之、 8顚覆之意、9泄泄、10怠緩悅從之貌、11言天欲顚覆周室、 12 群

shì, 12 qún chén wú dé xiè xiè rán, 13 bù jí jiù zhèng băn zhī piān, 7 jué, 8 diān fù zhī yì, 9 xiè xiè, 10 dài 1 jué, 2 jū wèi făn, 3 xiè, 4 yì zhì făn, 5 huăn yuè cóng zhī maò, 11 yán tiān yù diān fù zhoū o shī, 6 dà yă

臣泄泄然として、 居衛反、泄、弋制反、〇詩、 怠緩悦従の貌、言えらく、 急ぎ之を救正せざるを得ること無かれ、 天は周室を顚覆せんと欲す、 大雅の板の篇、蹶、顚覆の意、 群

(2) 怠緩:怠り緩む 怠慢(1) 顚覆:くつがえること 顚覆、 言反倒(顚覆、

反倒を言う)

(3)悦従:喜び従う

朱注訳

で従うだけで急いで救い正そうとしないことがあってはならな 天は周室をくつがえそうとしている。群臣は怠慢で君の意に喜ん 蹶はくつがえることである。泄泄は怠慢で喜び従うさまである。 蹶は居衛反である。泄は弋制反である。詩は大雅の板の篇である。

通し番号 388 章内番号11 章通し番号62 識別番号7 1

11

本 文

1泄泄、 2猶沓沓也、

1 xiè xiè, 2 yóu tà tà yĕ, 猶沓沓のごときなり、

朱

1 沓、 注 2徒合反、3○沓沓、 4卽泄泄之意、 5蓋孟子時人語如此、

このようになるのだろう。 沓は徒合反である。沓沓は泄泄の意味である。 孟子の時の言葉は

朱注訳

如し、

沓、徒合反、○沓沓、

即ち泄泄の意なり、

蓋し孟子の時人の語此

1 tà, 2 tú hé făn, 3 o

tà tà,

4 jí xiè xiè zhī yì, 5

gaì

mèng zĭ shí rén yŭ rú cĭ,

朱 注

猶沓沓のごときなり、

①非る:そしる

-2に「非之無舉也(之を非るに挙げること無きなり)」とある。:そしる 非者、譏也(非は、譏なり) 通し番号100c

通し番号1007

君に事え義無し、

進退礼無し、

言えば則ち先王の道を非る者は、

zhī daò zhě, 4 yóu tà tà yě,

 $1\ {\rm shì}\ j\bar{\rm un}\ {\rm w\'u}\ {\rm y\`i},\ 2\ jin\ {\rm tu\'i}\ {\rm w\'u}\ {\rm l\'i},\ 3\ {\rm y\'an}\ {\rm z\'e}$

feī xiān wàng

1 非、 2 詆毀也、

1 feī, 2 dĭ huĭ yĕ,

非、诋毀なり、

(1) 诋毀:そしる **呰**なり) 祗にも毀にも「そしる」意味がある。 些 口毀也(呰、 口毀なり) 毀、 謗也 誇也 (毀、謗な 詆、呰也(詆、

非はそしる。

通し番号390 章内番号13 章通し番号62 識別番号7 1

13

本 文

本

文

4猶沓沓也、 1事君無義、

2進退無禮、

3言則非先王之道者

通し番号389

章内番号12

章通し番号62

識別番号7・1

. 12

謂之敬、 1故曰、 6吾君不能、 2責難於君、 7謂之賊、 3謂之恭、 4 陳善閉 5

るは、之を敬と謂う、吾君能わずというは、之を賊と謂う、 故に曰く、 bì xié, 5 wèi zhī jìng, 6 wú jūn bù néng, 7 wèi zhī zeí, 1 gù yuē, 2 zé nán yú jūn, 3 wèi zhī gōng, 4 chén shàn 難を君に責めるは、之を恭と謂う、 善を陳べ邪を閉ず

①難:人が言うのをはばかること 多く、 るは、 なり、 難い先王の道」と読んだのでは、通し番号4-4との統一が取れ 決して難しいものでない。たやすいものである。ここを「行い らざるは、是れ枝を折るの類なり」とあるように、先王の道は 取るのが一般的である。通し番号4-4に「故より王の王たらざ のをはばかること」と取るべきである。臣下は君に媚びる者が ない。ここは「人が難しとすること」つまり「臣下が君に言う 君の過ちを言わないものである。 太山を挾み以て北海を超ゆの類に非ざるなり、 人が忌憚する所なり) ここは「行い難い先王の道」と 難、憚也、人所忌憚也(難は憚 王の王た

(2) 陳ぶ:のべる 君の爲に各之を陳べるなり)」とある。 君各陳之也(此は王政の本、常の生の道なり、 通し番号57-7朱注に「此王政之本、常生之道、 述、陳也(述、陳なり)(通し番号81-5朱注) 故に孟子斉梁の 故孟子爲齊梁之

朱

之地者、 臣、15○鄒氏曰、16此章言、17爲治者、18當有仁心仁聞以行先王 賊害其君之甚也、 之大也、5開陳善道、6以禁閉君之邪心、7惟恐其君或陷於有過 范氏曰、 19而君臣又當各任其責也、 8敬君之至也、9謂其君不能行善道、10而不以告者、 2人臣以難事責於君、3使其君爲堯舜之君者、4尊君 12鄒氏曰、13自詩云天之方蹶至此、14所以責其 11

1 fàn zhī yuē, 2 rén chén yĭ nán shì zé yú jūn, 3 shĭ zhī zhì yĕ, 9 wèi qí jūn bù néng xíng shàn daò, 10 ér zhī zhèng, 19 ér jūn chén yoù dāng gĕ rèn qí zé yĕ, zhě, 18 dāng yoŭ rén xīn rén wén yĭ xíng xiān wàng qí chén, 15 \circ zoū zhī yuē, 16 cǐ zhāng yán, 17 wéi zhì yuē, 13 zì shī yún tiān zhī fāng jué zhì cĭ, 14 suŏ yĭ zé bù yǐ gaò zhě, 11 zeí hài qí jūn zhī shèn yě, 12 zoū zhī 5 kaī chén shàn daò, 6 yǐ jìn bì jūn zhī xié xīn, 7 wéi qí jūn wéi yaó shùn zhī jūn zhě, 4 zūn jūn zhī dà yě kŏng qí jūn huò xiàn yú yoŭ guò zhī dì zhě, 8 jìng jūn

めるは、 詩云天之方蹶自り此に至るは、以て其臣を責むる所なり、○鄒氏 以て告げざる者は、其君を賊い害するの甚だしきなり、鄒氏曰く、 范氏曰く、 することの至りなり、其君善道を行なうこと能わざると謂いて、 此章言えらく、 惟其君過ち有るの地に陥ること或るを恐れるは、君を敬 君を尊ぶことの大なり、善道を開陳し、以て君の邪心を 人臣が難事以て君を責し、其君をして堯舜の君爲らし 治を爲す者、当に仁心仁聞有りて以て先王

の政を行うべくして君臣又当に各其責を任ずべきなり

- (2) 或り:有り 或、(1)開陳:開きのべる 則ち時に義に害有ること或り)」とある。925-5朱注に「荀執於辭、則時或有害於義(苟辞に執すれば、 **段借爲有(或、段借して有と爲す)** 通し番号
- (3) 賊う:そこなう と謂う)」とある。 通し番号103-2に「賊仁者謂之賊(仁を賊者之を賊 賊、害也(賊、害なり)(通し番号1 03-1朱

朱注訳

范氏は言う。臣は人が言うのをはばかることを君に言って君を正 はそれぞれその責務を果たすべきであると言っている。 仁の心、仁の名があり、さらに先王の政をすべきであり、 よりここまでは、臣を責めている。この章は、治政をする者は、 とが甚だしい。鄒氏は言う。「詩に曰う、天の方に蹶らんとす」 なうことができないと言って、君に告げないのは、 を恐れるのは、君を非常に敬していることである。 である。善道を言い君の邪心を閉じて、ただ君が過ちに陥ること し、君を堯舜のような君にするのは、君を尊ぶことが大きいこと 君が善道を行 君を害するこ 君と臣

通し番号391~395

本文訳

章番号2

章通し番号63

章内番号1

5

の王は幽、厲という諡をつけられる。孝行で慈愛のある子孫でもそ滅ぶ。民を虐げることがひどいと、身は危うく国は侵略される。そ の諡を改めることはできない。詩経に言う。「殷王朝の鏡とすべき だけである。」民を虐げることが非常にひどいと、身は殺され国は ないのは、民を害することだ。孔子は言う。「道は仁と不仁の二つ えないのは、君を敬さないことだ。堯が民を治めるように民を治め 君の道、臣の道は堯舜に則るだけだ。舜が堯に仕えるように君に仕 君の道を尽す。臣にふさわしい者になろうとすれば、臣の道を尽す。 る。聖人は人倫を極めている。君にふさわしい者になろうとすれば、 ものは遠くにない。近い夏王朝にある。」これはこのことを言って る。 孟子が言う。定規、 コンパスは四角や円をつくることを極めてい

通し番号391 章内番号1 章通し番号63 識別番号7・2・1

本

倫之至也、 -孟子曰、 2規矩、 3方員之至也、 4聖人、 5人

文

4 shèng rén, 5 rén lún zhī zhì yĕ, 1 mèng zĭ yuē, 2 guī jŭ, 3 fāng yuán zhī zhì

孟子曰く、規矩は、方員の至りなり、 聖人は、 人倫の至りなり

朱 注

聖人盡所以爲人之道、 1至、2極也、3人倫說見前篇、 4規矩盡所以爲方員之理、 5 猶

yĭ wéi rén zhī daò, suǒ yǐ wéi fāng yuán zhī lǐ, 5 yóu shèng rén jìn suǒ 1 zhì, 2 jí yẽ, 3 rén lún shuō jiàn qián piān, 4 gu
ī jù jìn

すは、猶聖人以て人爲る所の道を尽すがごとし、 極なり、 人倫の説前篇に見ゆ、規矩以て方員爲る所の理を尽

(1) 説:言論 を啓発すること有り)」とある。 朱注に「文公見孟子而聞性善堯舜之說、 (文公孟子に見い性善堯舜の説を聞き、則ち固より以て其良心 **說、謂論說(説、論説を謂う)** 則固有以啓發其良心矣 通し番号280

(2)前篇:滕文公章句上 朋友信有り)」とある。 を以てす、父子親有り、 君臣有義、夫婦有別、長幼有序、 通し番号308-11に「教以人倫、 君臣義有り、 夫婦別有り、長幼序有り 朋友有信(教えるに人倫 父子有

朱注訳

や円の形をつくるのを極めている。 至は極である。人倫のことは前篇にある。定規やコンパスは四角 うなものである。 聖人が人の道を極めているよ

通し番号 392 章内番号2

章通し番号63

識別番号7・2・2

文

舜而已矣、 1 欲為君盡君道、 6不以堯之所以治民治民、7賊其民者也、 4不以舜之所以事堯事君、 2 欲為臣盡臣道、 3二者皆法堯 5不敬其君

事えざるは、其君を敬せざる者なり、堯の以て民を治める所を以なるものは皆堯舜に法るのみ、舜の以て堯に事える所を以て君に 君爲るを欲せば君の道を尽す、臣爲るを欲せば臣の道を尽す、二 て民を治めざるは、其民を賦う者なり yaó zhī suŏ yĭ zhì mín zhì mín, 7 zeí qí mín zhě yĕ suǒ yǐ shì yaó shì jūn, 5 bù jìng qí jūn zhě yě, 6 bù yĭ 1 yù wéi jūn jìn jūn daò, 2 yù wéi chén jìn chén daò, 3 èr zhě jiē fă yaó shùn ér yĭ yĭ, 4 bù yĭ shùn zhī

道性善、 法堯舜以盡君臣之道、 4而稱堯舜也、 2猶用規矩以盡方員之極、 3此孟子所以

1 fă yaó shùn yǐ jìn jūn chén zhī daò, 2 yóu yòng guī xìng shàn, 4 ér chēng yaó shùn yĕ, jữ yĩ jìn fãng yuán zh
ī jí, 3 cĩ mèng zĩ suố yĩ

堯舜に法り以て君臣の道を尽すは、猶規矩を用いて以て方員の極 を尽すがごとし、此孟子以て性善を道い、而して堯舜を称する所

なり、

(1)道う:言う ず)」とある。 し番号130- 41朱注に「故不道管仲之事(故に管仲の事を道わ 道、言也(道、言なり)(通し番号35-1

朱注訳

堯舜に則って君臣の道を尽すのは、定規、コンパスを用いて四角 言い堯舜を賞賛する。 と円の極みを致すようなものである。これがために孟子は性善を

通し番号393 章内番号3 章通し番号63 識別番号7 2 3

本 文

1孔子曰、 2道二、 3仁與不仁而已矣、

孔子曰く、道は二、仁と不仁のみ、 l kŏng zĭ yuē, 2 daò èr, 3 rén yŭ bù rén ér yĭ yĭ,

注

不仁矣、5二端之外、 1 法堯舜、2 則盡君臣之道而仁矣、 6更無他道、 7出乎此、 3不法堯舜、 8則入乎彼矣、

3 bù fă yaó shùn, 4 zé màn jūn zeí mín ér bù rén yĭ, 1 fă yaó shùn, 2 zé jìn jūn chén zhī daò ér rén

5èr duān zhī waì, 6 gēng wú tā daò, 7 chū hū cǐ, 8 zé rù hū bǐ yǐ, 9 kẽ bù jǐn zāi,

れば、則ち身危うく国削らる、之を名づけて幽厲と曰う、孝子慈其民を暴うこと甚しければ、則ち身弑せられ国亡ぶ、甚しからざ

xiào zĭ cí sūn, 7 băi shì bù néng gaĭ yĕ,

則ち君に慢り民を賊いて不仁なり、二端の外、 堯舜に法れば、則ち君臣の道を尽して仁なり、 此を出ずれば、則ち彼に入る、謹まざるべけんや、 堯舜に法らざれば、 更に他の道無し、

孫と雖も、

百世改めること能わざるなり、

(1)暴う:そこなう

(2)更に:さらに (1)慢る:怠る 号149-15朱注に「而不必更求其助於氣(必ずしも更に其助を に「是上慢而殘下也(是れ上慢りて下を残うなり)」とある。 気に求めず)」とある。 慢、怠惰也(慢、怠惰なり) 再也、復也(更、再なり、復なり) 通し番号115-9 通し番

(2)試す:殺す

うこと有るべからざるなり)」とある。

下殺上也(弑は、下が上を殺すなり)(通し番 通し番号364-3に「臣弑其君者有之、子弑

番号422-2に「自暴者、不可與有言也(自ら暴う者、・・そこなう しいたげる 暴、虐也(暴、虐なり)

与と に言 し

号4-28朱注)

君に怠り、 堯舜に則ると、君臣の道を尽して仁である。堯舜に則らないと、 方に入る。 謹まないでおれようか。 民を害す。この二つの他に道はない。一方を出ると他

通し番号 394 章内番号4 章通し番号63 識別番号7・2・ 4

1暴其民甚、 5名之曰幽厲、 2則身弑國亡、3不甚、 6雖孝子慈孫、 7百世不能改 4則身危國

4 bào qí mín shèn, 2 zé shēn shì guó wáng, 3 bù shèn, zé shēn weī guó xiāo, 5 míng zhī yuē yoū lì, 6 suī

朱

(3)慈孫:仁愛の心のある孫

慈、謂愛之深也(慈、愛の深きを謂う

り)」とある。

其父者有之(臣其君を弑する者之有り、子其父を弑する者之有

禍必至於此、11可懼之甚也、 子慈孫、8愛其祖考之甚者、 1幽、2暗、3厲、4虐、5皆惡諡也、 9亦不得廢公義而改之、 6 苟得其實、 7則雖有孝 10言不仁之

を改めることを得ず、 慈孫、其祖考を愛するの甚しき者有りと雖も、 幽は、暗、厲は、虐、皆悪き諡なり、苟其実を得れば、 zhī huò bì zhì yú cǐ, 11 kẽ jù zhī shèn yế zhě, 9 yì bù dé fèi gōng yì ér gaĭ zhī, 10 yán bù rén 1 yoū, 2 àn, 3 lì, 4 nüè, 5 ji
ē è shì yĕ, 6 goǔ dé qí shí, zé suī yoŭ xiào zĭ cí sūn, 8 ài qí zŭ kaŏ 不仁の禍必ず此に至り、 懼るべきの甚だし 亦公義を廢して之 則ち孝子

朱

可不謹哉、 4則慢君賊民而 9

きを言うなり、

- し)」とある。

 し)」とある。

 し)」とある。

 し)」とある。
- 4)公義:私のない首里 無私為公(私無しを公と爲す) 義、首也當如祖考也(然れば之を敬するは当に祖考の如きなり)」とある。考(父死すれば考と称う) 通し番号659-6朱注に「然敬之3)祖考:亡祖父と亡父 祖、父之父也(祖、父の父なり) 父死稱
- も、亦公義を廢す)」とある。(4公義:私のない道理 無私爲公(私無しを公と爲す) 義、道也(義、道なり) 義者、理也(義は、理なり) 通し番号507(義、道なり) 義者、理也(義は、理なり) 通し番号507

朱注訳

ずこのようになり、非常に恐れるべきであることを言う。も、公の道理を廃して諡を改めることはできない。不仁の禍は必なら、孝行な子、慈愛のある孫がいて、父と祖父をとても愛して幽は暗である。厲は虐である。みな悪い諡である。その実がある

通し番号39 章内番号5 章通し番号63 識別番号7・2・5

本文

-詩云、2殷鑒不遠、3在夏后之世、4此之謂也、

詩に云う、殷鑒遠からず、夏后の世に在り、 (1) 鑒: 鏡 4 cĭ zhī wèi yĕ, 1 shī yún, 2 yīn jiàn bù yuăn, 3 zaì xià hòu zhī shì, (2)夏后:禹の国名。 地未有過千里者也(夏后、殷、周の盛、地未だ千里を過るもの て呼ぶ意味がある。 子となった。后は君の意味で、譲られた天子となったのをほめ 爲鏡(鑑、叚借して鏡と爲す) 有らざるなり)」とある。 或書作鑒(鑑、或いは書いて鑒に作る) 夏とも、 通し番号137 夏后氏とも言う。 此を之謂うなり、 1に「夏后、殷、 禹は舜から譲られて天 鑑、叚借 周之盛、

朱注

而孟子引之、6又欲後人以幽厲爲鑒也、1詩、2大雅蕩之篇、3言商紂之所當鑒者、4近在夏桀之世、5

1 shī, 2 dà yǎ dàng zhī piān, 3 yán shāng zhòu zhī suǒ dāng jiàn zhē, 4 jìn zaì xià jié zhī shì, 5 ér mèng zǐ yǐn zhī, 6 yoù yù hòu rén yǐ yoū lì wéi jiàn yĕ, 法雅蕩の篇、言えらく、商の紂の当に鑒るべき所のものは、 なる の はの 世に在り、而して孟子之を引き、又後人幽厲以て鑒と為すことを欲するなり、

鑑者、所以能見也(鑑は、以て能く見る所なり)(1)鑒る:かんがみる 鑑、或書作鑒(鑑、或いは書いて鑒に作る)

主沢

詩は大雅の蕩の篇である。商(殷)の紂が見るべき所は近い夏の

鏡とすることを願う。 桀にあることを言う。孟子はこれを引用して、後世の人が幽厲を

本文訳

章番号3

章通し番号64

通し番号396

399

章内番号1

ς 4

孟子が言う。夏、殷、周の三代が天下を得たのは、仁によってである。これは酔うのを嫌うのに、酒を強いるようなものである。天下を失ったのは不仁によってである。国の存亡興廃もまたと、家を保つことができない。士や民が不仁であると、身を保つことができない。卿大夫が不仁であると、家を保つことができない。士や民が不仁であると、身を保つことができない。諸とが言う。夏、殷、周の三代が天下を得たのは、仁によってである。これは酔うのを嫌うのに、酒を強いるようなものである。

通し番号39 章内番号1 章通し番号4 識別番号7・3・1

本 文

下也、5以不仁、1孟子曰、2三代之得天下也、3以仁、4其失天

1 mèng zǐ yuē, 2 sān dài zhī dé tiān xià yĕ, 3 yĭ rén, 4 qí shī tiān xià yĕ, 5 yĭ bù rén,

孟子曰く、三代の天下を得るや、仁を以てす、其天下を失うや

朱 注

不仁を以てす、

仁得之、10桀、11紂、12幽、13厲、14以不仁失之、1三代、2謂夏、3商、4周也、5禹、6湯、7文、8武、9以

1 sān dài, 2 wèi xià, 3 shāng, 4 zhoū yĕ, 5 yŭ, 6 tāng, 7 wén, 8 wŭ, 9 yĭ rén dé zhī, 10 jié, 11 zhòu, 12 yoū, 13 lì, 14 yĭ bù rén shī zhī,

を得る、桀、紂、幽、厲は、不仁を以て之を失なう、三代は、夏、商、周を謂うなり、禹、湯、文、武は、仁を以て之

の犬戎と連合し反乱を起こした。戦乱で都は破壊された。の子の伯服を太子にした。それで申后の父、申侯が怒り、蛮族愛し、正室の申后、太子の宜臼を廃して、褒姒を正室とし、その第12代の王、姫宮涅のこと。虐政を行った。また褒姒を寵

②厲:周の第10代の王 暴虐を極めた。暴動が発生し、厲王は都から

朱注訳

紂、幽、厲は不仁で天下を失った。三代は夏、商、周を言う。禹、湯、文、武は仁で天下を得た。桀

通し番号 397 章内番号2 章通し番号64 識別番号7・3

2

文

國之所以廢興存亡者亦然

国の廃興存亡する所以のもの亦然り、 1 guó zhī suŏ yĭ fèi xìng cún wáng zhĕ yì rán,

朱

1 國、 2謂諸侯之國、

guó, 2 wèi zhū hoú zhī guó,

國は、 諸侯の国を謂う、

朱注訳

国は諸侯の国を言う。

通し番号398 章内番号3 章通し番号64 識別番号7・3 3

文

8不保四體、 1天子不仁、 5卿大夫不仁、 2不保 四海、 6不保宗廟、 3諸侯不仁、 7士庶人不仁、 4不保社

l tiān zĭ bù rén, 2 bù baŏ sì haĭ, 3 zhū hoú bù rén

> miaò, 7 shì shù rén bù rén, 8 bù baŏ sì tĭ, 4 bù baŏ shè jì, 5 qīng dà fū bù rén, 6 bù baŏ zōng

たず、 卿大夫不仁なれば、宗廟を保たず、 天子不仁なれば、四海を保たず、諸侯不仁なれば、社稷を保たず、 士庶人不仁なれば、 四体を保

(1)四海:天下 553-26に「三年四海遏密八音(三年四海は八音を遏密す)」 四方にある海の内の意味で天下になる。 通し番号

り)」とある。 を安んずる臣なる者有り、 通し番号843-1に「有安社稷臣者、以安社稷爲悅者也(社稷 后稷能殖百穀、祀以爲稷(句龍能く水土を平む、之を祀りて以 ら、転じて国家のことも言う。 この二神を王宮の右に祭り、宗廟を左に祭る。 て社と爲す、后稷能く百穀を殖てる、祀りて以て稷と爲す) 国家存すれば社稷の祭が行われ、亡べば廃せられることか 稷には農業の神の后稷を祭る。君主が居城を建てる時は 社は土地の神、稷は五穀の神。 社稷を安んずるを以て悦と爲す者な 句龍能平水土、 社には地の神の句龍を 君を社稷の主と 祀之以爲社、

(3)宗廟:祖先を祭る所 ある。 先祖形貌所在也(廟、 の遺骨を祭り、仏壇で先祖の位牌を祭るが、このようなもので味があり、廟には「祭る所」の意味がある。日本では墓で先祖 祖先を祭ることができなくなるのである。宗には「一族」 廟を毀ち、其重器を遷せば、之を如何ぞ其可ならん)」とある。 如之何其可也(若し其父兄を殺し、其子弟を係累し、 同祖曰宗(祖を同じくするを宗と曰う) 通し番号235-5に「自天子達於庶人(天子 「若殺其父兄、係累其子弟、毀其宗廟、 「宗廟を保たず」と言うのは家が滅びるから、 貌なり、先祖の形貌在る所なり) 遷其重 貌也、 通し の意

(4)庶人:一般の人々

自り庶人に達る)」とある。

(5)四体:両手両足 体全体でなく体の一部を体と言う。 頭目鼻口、 皆体なり 皆體也(身の支分、之を体と謂う、手足頭目鼻口は、 支分:分けたもの)(中井履軒) 体は現代の意味と孟子の頃の意味でずれがある。 身之支分、謂之體、手足

朱

注

める者有り)」とある。

朱 注

1言必死亡、

1 yán bì sĩ wáng,

必ず死亡するを言う、

朱注訳

必ず死に滅ぶことを言う。

通し番号399 章内番号4 章通し番号64 識別番号7 3 4

本 文

今惡死亡而樂不仁、 2是猶惡醉而強酒

1 jīn è sĭ wáng ér lè bù rén, 2 shì yóu è zuì ér qiăng

とし、 今死亡を悪みて不仁を楽しむ、 是れ猶醉を悪みて酒を強いるがご

①今:これ ここに 番号613-2に「今有禦人於國門之外者(今人を国門の外に禦 今、指事之詞也(今、指事の詞なり)

通し

8而推言之也、 1悪、2去聲、 3 樂、 4音洛、 5 強、 6 上聲、 7 ○此承上章之意、

悪、去声、楽、音は洛、 して之を言うなり、 7 º cĩ chéng shàng zhāng zhī yì, 8 ér tuī yán zhī yě 1 è, 2 qù shēng, 3 lè, 4 yīn luò, 5 強、 上声、 ○此は上章の意を承けて、 qiăng, 6 shàng shēng, 推

の章の意を受けて、 悪は去声である。楽は音は洛である。 それを推して言う。 強は上声である。 これは前

章番号4 章通し番号65 通し番号400 402 章内番号1

3

本文訳

考え正理に合い、 自分の身が正しければ、天下が自分に帰する。詩経に言う。 私は人を礼しているのに、人が答えないなら、 自分の仁に反る。私が人を治めて治まらないなら、自分の智に反る。 かをして望むことを得ることができないと、みな自分に反り求める。 孟子が言う。私は人を愛しているのに、 自ら多福を求める。」 人が私を愛さないなら、 自分の敬に反る。何

203

通し番号400 章内番号1 章通し番号65 識別番号7・4

1

文

5反其智、 1孟子曰、 6禮人不答、 2愛人不親、 7反其敬、 3反其仁、 4治人不治

らざれば、其智に反る、人を礼して答えざれば、其敬に反る、 孟子曰く、 1 mèng zĭ yuē, 2 ài rén bù qìng, 3 făn qí rén, 4 zhì rén bù zhì, 5 făn qí zhì, 6 lǐ rén bù dá, 7 făn qí jìng, 人を愛して親さざれば、其仁に反る、 人を治めて治ま

(1)親す:愛す えるか)」とある。 夷子信以爲人之親其兄之子、爲若親其鄰之赤子乎(夫夷子信に 人の其兄の子を親すること、其鄰の赤子を親する若く爲すと以爲 親、愛也(親、愛なり) 通し番号321 10に「夫

朱

1治人之治、2平聲、3不治之治、4去聲、5○我愛人而人不親 6則反求諸己、7恐我之仁未至也、8智、9敬放此、

zhū jǐ, 7 kŏng wŏ zhī rén wèi zhì yĕ, 8 zhì, 9 jìng fàng shēng, 5 \circ wǒ ài rén ér rén bù qìng wǒ, 6 zé făn qiú 1 zhì rén zhī zhì, 2 píng shēng, 3 bù zhì zhī zhì, 4 qù

治人の治、 さざれば、 なり、 智、 敬此に放う、 平声、不治の治、去声、 則ち諸を己に反り求む、 我の仁未だ至らざるを恐れる ○我が人を愛して人が我を親

> (1)治人の治、平声、不治の治、 つける。 る。今は両方とも第四声で発音するため、第四声でピンインを 詞に使う場合と自動詞で使う場合で昔は声調が異なったのであ 去声:朱子の注釈によると、治は他動

朱注訳

治人の治は平声である。不治の治は去声である。私は人を愛して 分の仁がまだ十分でないことを恐れる。 いるのに、人が私を愛さないなら、これを已に反って求める。自 智、 敬もこれにならう。

通し番号401 章内番号2 章通し番号65 識別番号7・ 4 2

本 文

1行有不得者、 2皆反求諸己、 3其身正而天下歸

zhèng ér tiān xià guī zhī, 1 xíng yoŭ bù dé zhě, 2 jiē făn qiú zhū jĭ, 3 qí shēn

天下之に帰す、 行いて得ざるもの有れば、皆諸を己に反り求む、 其身正しくして

(1)諸:これ 叔殷以て畔くなり、諸有りや)」とある。 管叔監殷、管叔以殷畔也、有諸(管叔をして殷を監さしむ、管 諸、之也 (諸、之なり) 通し番号243-6に「使

7反求諸己、8謂反其仁、9反其智、10反其敬也、11如此、12則 2謂不得其所欲、3如不親、 13而身無不正矣、4天下歸之、15極言其效也、 4不治、5不答、6是也、

9 făn qí zhì, 10 făn qí jìng yẽ, 11 rú cĭ, 12 zé qí zì zhì 1 bù dé, 2 wèi bù dé qí suŏ yù, 3 rú bù qìng, 4 bù zhì zhī, 15 jí yán qí xiào yĕ, yì xiáng, 13 ér shēn wú bù zhèng yǐ, 14 tiān xià guī 5 bù dá, 6 shì yế, 7 făn qiú zhū jĩ, 8 wèi făn qí rén,

と益。詳して、身正しからざる無し、 ざるが如き、是なり、諸を己に反り求むは、其仁に反り、 得ざるは、其欲する所を得ざるを謂う、親まず、治まらず、答え めて言うなり、 其敬に反るを謂うなり、此如ければ、則ち其自ら治めるこ 天下之に帰すは、其效を極

(2)極めて:きわめて 詳す:尽す 謂悉盡也(詳、悉尽を謂うなり)

えずのようなものがこれになる。諸を己に反り求むは、仁に反り、 ことをさらに尽すことになり、身が正しくないことがなくなる。 得ざるは、 天下之に帰すは、その効果を極言している。 敬に反ることを言う。このようにすれば自分を治める 望むことを得ないことを言う。愛さず、治まらず、

> 民は政治家を信用しなくなる。だから国は治まらない 政治家も修身をしようとせず、権謀術数で政治をしようとする。 のでもない。だから資本主義社会では修身は重んじられない。 成長しないのである。資本主義社会では修身は害悪以外の何も がたまるだけである。人が皆修身に努めれば不況になり経済は の人が物を買おうとしないから物が売れない。生産しても在庫 ら修身にうるさい。資本主義社会で修身をうるさく言うと、 る。自分の身が正しければ天下は自ずと治まると考える。 きれいなことを言ってもすることが違っている政治家を見て国 くの人が寡欲になる。寡欲になると物を買おうとしない。多く 儒学は天下を治めようとせず、自分の身を正しくしようとす 多

通し番号402 章内番号3 章通し番号65 識別番号7 4

3

本 文

詩云、 2永言配命、 3自求多福

詩に云う、永く言い命に配う、自ら多福を求む、 1 shī yún, 2 yŏng yán pèi mìng, 3 zì qiú duō fú

(2) 赤し:長い 永、(1)詩:大雅文王の篇、 (3) 言う:思う -7朱注) 言、猶念也(言、猶念のごときなり)(通し番号176 永、長也(永、長なり)(通し番号176-5朱注)

(4)命:正理 命字意輕、 猶言天意也、 正理之謂矣(命の字は意軽

②配う:合う 配、合也(配、合なり)(通し番号176‐9朱注)。 猶天意と言うがごときなり、正理の謂なり)(中井履軒)

宋 注 注

1 iik iiàn qián niān ?○ vì cháng s

解前篇に見ゆ、○亦上章を承けて言う、 1 jiě jiàn qián piān, 2 ○ yì chéng shàng zhāng ér

①前篇:公孫丑章句上 通し番号176

朱 注 :訳

解説は前篇にある。また前の章を受けて言う。

君子はただ正理に合うことを長く考え行動するのである。私たちは何を長く考え行動しているのだろうか。政治家は人々のたちは何を長く考え行動する。テレビ関係の人は視聴率を上げることを長く考え行動する。学者は自分の論文が高い評価を得ることを長く考え行動する。学者は自分の論文が高い評価を得ることを長く考え行動する。から正理は後に追いやられる。その結果とを長く考え行動するから正理は後に追いやられる。私とを長く考え行動するから正理は後に追いやられる。私とを長く考え行動するのである。私君子はただ正理に合うことを長く考え行動するのである。私君子はただ正理に合うことを長く考え行動するのである。私君子はただ正理に合わない行動をする。それで自ら災いを求めることになる。

本文訳

章番号5

章通し番号66

通し番号403

章内番号1

ある。
孟子が言う。人は常に言うことがある。みな天下国家のことを言

通し番号40 章内番号1 章通し番号66 識別番号7・5・

1

本文

天下之本在國、6國之本在家、7家之本在身、1孟子曰、2人有恆言、3皆曰、4天下國家、

5

1 mèng zǐ yuē, 2 rén yoǔ héng yán, 3 jiē yuē, 4 tiān xià guó jiā, 5 tiān xià zhī bĕn zaì guó, 6 guó zhī bĕn zaì jiā, 7 jiā zhī bĕn zaì shēn,

り、国の本は家に在り、家の本は身に在り、孟子曰く、人恆の言有り、皆曰う、天下国家、天下の本は国に在

朱 注

之、10大學所謂自天子至於庶人、11壹是皆以脩身爲本、12爲是故之有序也、7故推言之、8而又以家本乎身也、9此亦承上章而言1恆、2胡登反、3○恆、4常也、5雖常言之、6而未必知其言

也、

1 héng, 2 hú dēng făn, 3 o héng, 4 cháng yĕ, 5 suī cháng yán zhī, 6 ér wèi bì zhī qí yán zhī yoŭ xù yĕ, 7 gù tuī yán zhī, 8 ér yoù yǐ jiā bĕn hū shēn yĕ, 9 cĭ yì chéng shàng zhāng ér yán zhī, 10 dà xué suŏ wèi zì tiān zǐ zhì yú shù rén, 11 yī shì jiē yǐ xiū shēn wéi bĕn, 12 wèi shì gù yĕ,

是為の故なり、○恆、常なり、常に之を言うと雖も、未だ必ずしも関、胡登反、○恆、常なり、故に推して之を言う、而して又家以て身を本とするなり、此は亦上章を承けて之を言う、而して又家以て身を本とするなり、此は亦上章を承けて之を言う、而して又家は、胡登反、○恆、常なり、常に之を言うと雖も、未だ必ずしも

(1) 壹是:すべて一切 壹是、一切也(壹是、一切なり)(『大学』の

注訳

のためである。個は常である。常に言うけれど、その言に順恆は胡登反である。恆は常である。常に言うけれど、その言に順恆は胡登反である。恆は常である。常に言うけれど、その言に順

章番号6 章通し番号67 通し番号44 章内番号1

本文訳

人々も服する。一国の人々が服する人君には、天下の人々が服する。臣に怨まれないようにする。代々の家臣が服する人君には、一国の孟子は言う。人君が政をするのは、難しいことでない。代々の家

その恩恵と命令は天下にあふれる。

通し番号40 章内番号1 章通し番号67 識別番号7・6・1

8故沛然德敎溢乎四海、之所慕、5一國慕之、6一國之所慕、7天下慕之、1孟子曰、2為政不難、3不得罪於巨室、4巨室

1 mèng zǐ yuē, 2 wéi zhèng bù nán, 3 bù dé zuì yú jù shì, 4 jù shì zhī suǒ mù, 5 yī guó mù zhī, 6 yī guó zhī suǒ mù, 7 tiān xià mù zhī, 8 gù pèi rán dé jiaò yì hū sì haĭ.

教四海に溢る、一国の慕う所、天下之に慕う、故に沛然として徳一国之に慕う、一国の慕う所、天下之に慕う、故に沛然として徳孟子曰く、政を爲すは難からず、罪を巨室に得ず、巨室の慕う所、

(2) 慕う:向かう(朱注) 通し番号935-24朱江(1) 巨室:代々国に功のある家臣や富貴な家(朱注) 不以貧賤而有慕於外(言えらく、聖人の心は、貧賎以てして外 通し番号935-24朱注に「言聖人之心、

(3)徳教: 恩恵と命令 徳教は政を云う (中村惕斎) に慕うこと有らず)」とある。

無きを言うなり)」とある。 人、言無怨無德也(国人、猶路人と言うがごとし、 下が効る所なり) は恩施を謂うなり) 教、上所施、下所効也(教は上が施す所、 通し番号472-15朱注に「國人、猶言路 **德、謂恩施也**(徳 怨み無く徳

朱

充滿也、 服其心故爾、47正此類也 德教無所留礙、 然或者不脩其本、34而遽欲勝之、35則未必能勝、36而適以取禍、 25吾身旣脩、26則人心之難服者先服、27而無一人之不服矣、 22此亦承上章而言、23蓋君子不患人心之不服、24而患吾身之不脩、 9向也、 邑人祝齊桓公曰、6願主君無得罪於羣臣百姓、7意蓋如此、8慕、 1巨室、 承宗斂手削地、 37故孟子推本而言、38惟務脩德以服其心、39彼旣悅服、 林氏曰、 19則國人皆服、20而吾德教之所施、21可以無遠而不至矣、 29戰國之世、30諸侯失德、31巨室擅權、32爲患甚矣、 15蓋巨室之心、16難以力服、17而國人素所取信、18今旣 10心悅誠服之謂也、11沛然、12盛大流行之貌、13溢、 2世臣大家也、3得罪、 44非朝廷之力能制其死命、45特以處置得宜、 41可以及乎天下矣、42裴度所謂韓弘輿疾討賊、 4謂身不正而取怨怒也、5麥丘 40則吾之 28 33

取るを謂うなり、麦丘の邑人斉の桓公に祝りて曰く、願わくば主 巨室は、世臣の大家なり、罪を得るは、身正しからずして怨怒を zhì dé yí, 46 néng fù qí xīn gù ĕr, 47 zhèng cĭ lèi yĕ, 44 feī zhāo tíng zhī lì néng zhì qí sǐ mìng, 45 tè yǐ chǔ suǒ liú ài, 41 kẽ yǐ jí hū tiān xià yǐ, 42 péi dù suǒ wèi yǐ fù qí xīn, 39 bǐ jì yuè fù, 40 zé wú zhī dé jiaò wú shèng zhī, 35 zé wèi bì néng shèng, 36 ér shì yǐ qữ xiū, 26 zé rén xīn zhī nán fù zhě xiān fù, 27 ér wú yī shī, 21 kẽ yǐ wú yuăn ér bù zhì yǐ, 22 cǐ yì chéng 1 jù shì, 2 shì chén dà jiā yĕ, 3 dé zuì, 4 wèi shēn bù hán hóng yú jí taŏ zeí, 43 chéng zōng liăn shoŭ xiāo dì huò, 37 gù mèng zǐ tuī běn ér yán, 38 wéi wù xiū dé shèn yĭ, 33 rán huò zhẽ bù xiū qí bĕn, 34 ér jù yù 30 zhū hoú shī dé, 31 jù shì shàn quán, 32 wéi huàn rén zhī bù fù yǐ, 28 \circ lín zhī yuē, 29 zhàn guó zhī shì, bù fù, 24 ér huàn wú shēn zhī bù xiū, 25 wú shēn jì shàng zhāng ér yán, 23 gaì jūn zǐ bù huàn rén xīn zhī yuè fù, 19 zé guó rén jiē fù, 20 ér wú dé jiaò zhī suŏ 16 nán yǐ lì fù, 17 ér guó rén sù suŏ qǔ xìn, 18 jīn jì zhī maò, 13 yì, 14 chōng măn yĕ, 15 gaì jù shì zhī xīn, chéng fù zhī wèi yĕ, 11 pèi rán, 12 chéng dà liú xíng xìng, 7 yì gaì rú cĭ, 8 mù, 9 xiàng yĕ, 10 xīn yuè gōng yuē, 6 yuàn zhǔ jūn wú dé zuì yú qún chén bǎi zhèng ér qũ yuàn nù yẽ, 5 mài qiū yì rén zhù qí huán

弘は疾を輿して賊を討つ、承宗手を斂めて地を削る、朝廷の力能吾の徳教留礙する所無く、以て天下に及ぶべし、裴度謂う所の韓 惟徳を脩めるを務め以て其心を服す、彼既に悦びて服せば、則ちわずして、適に以て禍を取らんとす、故に孟子本を推して言う、 ずして、遽に之に勝たんと欲せば、則ち未だ必ずしも勝つこと能 巨室権を擅にし、患を爲すこと甚だし、然れども或者其本を脩め 吾身既に脩まれば、則ち人心の服し難き者先ず服す、而して一人 蓋し君子人心の服さざるを患えず、而して吾身の脩らざるを患う、 以て遠くして至らざること無かるべし、此亦上章を承けて言う、 するのみ、正に此類なり、 く其死命を制するに非ず、特処置宜を得るを以て、能く其心を服 の服さざること無し、○林氏曰く、戦国の世、諸侯徳を失ない、 る所なり、今既に悦服す、則ち国人皆服して、吾徳教の施る所は、 心悦び誠に服するの謂なり、沛然は、盛大流行の貌、溢は、充満 君罪を羣臣百姓に得ること無かれ、意蓋し此如し、慕、 蓋し巨室之心、力以て服し難し、而して国人素より信を取 向なり、

①世臣:代々国に功のある家臣 うに非ざるなり、世臣有るの謂なり)」とある。 木之謂也、有世臣之謂也(謂う所の故国は、喬木有るの謂を謂 し番号95-1朱注) 通し番号95-2に「所謂故國者、 者也(世臣は、累世勳旧の臣、国と休戚を同じくする者なり)(通 世臣、累世勳舊之臣、與國同休戚 非謂有喬

(4) (3) 麦丘: 村、里 (2)大家:富貴な家 謂う) 大家、 謂富貴廣大之家(大家、 富貴広大の家を

邑

猶里也(邑、猶里のごときなり)

通し番号226

う)」とある。 - 7 朱注に「邑有先君之廟曰都(邑が先君の廟を有するを都と曰

(5) 祝る:祈る

(6) 羣·群 に「歴序羣聖之統 (羣聖の統を歴序す)」とある。 羣俗作群 (羣俗に群と作る) 通し番号1013-19朱注

(7)流行:ゆきわたる 命を伝えるより速かなり)」とある。 **段借して延と爲す**) 行者、移也(行は、 139-2に「徳之流行、速於置郵而傳命(徳の流行、置郵して 流、覃也(流、覃なり) 移なり) 覃、叚借爲延(覃、 通し番号

(8)素より:もとより り)」とある。 道を興し治を致すを望みて、今果たして望む所の如しを言うな 4朱注に「言人素望其興道致治、而今果如所望也(人素より其 素、本也(素、本なり) 通し番号824

(9)施る:ゆきわたる 善道なり)」とある。 4に「守約而施博者、 施、 善道也(守り約にして施ること博きは、 、延也(施、延なり) 通し番号986

、擅にする:ほしいままにする 擅に易えることを得ず)」とある。 号758-15朱注に「已立世子、 擅、專也(擅、専なり) 不得擅易(已に世子を立てれば、 通し番

①或者:あるいは おそらくは 或者可ならざるか)」とある。 (通し番号209-5朱注) _ 今日弔、或者不可乎(訾ff) | 或者、疑辭(或者は、疑辞なり) 通し番号209-3に「昔者辭以 今日弔す、

(12) 遽に:にわかに 注に「脩己者、 に憂喜を爲すべからず)」とある。 遽、 不可以是遽爲憂喜(己を脩めるは、是を以て遽遽、疾(遽、疾なり) 通し番号450-12朱 疾(遽、疾なり)

(13) 適に:まさに 事有り)」とある。 通し番号901-8朱注に「時又適有此事(時に又適に此 まさしく 適、猶正也(適、猶正なるがごときな

(4) 留礙:とどめる 止也(礙、 止なり

(16) (15) 韓弘 : 唐の人

とする。 疾を輿す:病気で車に乗る

(17)

(18)承宗:三国時代の蜀の人、王嗣の字

(2)特:ただ 特、但也(特、但なり) 通し番号534-22朱注に(2)特:ただ 特、但也(特、但なり) 通し番号534-22朱注に(9)手を斂める:手を出さない 斂、藏之也(斂、之を蔵するなり)

1

用する。 を言う。 ない。 修めずに代々の家臣に勝とうとしても、必ずしもにわかに勝つこ をほしいままにし、諸侯の大きな憂いになっていた。しかし本を 林氏は言う。戦国の世は諸侯に徳がなかった。代々の家臣が権力 また前の章を受けて言う。君子は人が服さないことを憂うことは 代々の家臣の心は力で服し難い。国民はもとより代々の家臣を信 君が群臣や百姓に罪を得ないことを願います。」これはこのよう を受けることを言う。麦丘の村の人が祈って斉の桓公に言う。「主 巨室は代々の家臣である。罪を得るは身が正しくなく怨みや怒り とはできない。そればかりか災いが起こることになる。だから孟 しにくい者がまず服す。そして服さない者は一人もいなくなる。 る。自分の恩恵と命令は遠くまで及び至らない所がない。これは な意味だろう。慕は向である。心から喜び、まことに服すること 自分の身が修まらないことを憂う。自分の身が修まれば服 今、 沛然は盛大でゆきわたることを言う。溢は充満である。 代々の家臣がよろこんで服するなら国民もみな服す

をすれば人の心を服することができる。まさにこの類である。領土を得た。朝廷の力が死命を制するのでなく、理にかなうこといいるものはなく、天下に及ぶことができる。裴度は言う。韓臣の心を服する。代々の家臣が喜んで服せば、自分の恩恵と命令臣の心を服する。ただ徳を修めることに務め、代々の家子は本を推すことを言う。ただ徳を修めることに務め、代々の家子は本を推すことを言う。ただ徳を修めることに務め、代々の家子は本を推すことを言う。ただ徳を修めることに務め、代々の家子は本を推すことを言う。

分の身にあると言っているが、この家はここの巨室になる。 得罪於巨室」になると言っているのである。前章で家の本は自 は三年の喪をしないのが正しかったことになってしまう。ここ 滕の文公が三年の喪をしようとした時、 るし天下も服する。しかし代々の家臣が服するようにと政治を れば代々の家臣は自ずと服す。代々の家臣が服すれば国も服す まり代々の家臣を治める本は人君の身にある。 た。代々の家臣が気に入るようにするのが政治なら、滕の文公 家臣が気に入るような政治をしろ」と解釈される恐れがある。 家臣に怨まれないようにしろ」と解釈するのが一般的である。 するのでない。ただ人君の身を修める。人君の身が修まれば代々 の「不得罪於巨室」の意味は人君の身を修めることで自ずと「不 しかしそう読むと、「代々の家臣に怨まれないように、 家臣は自ずと服するのである。 「不得罪於巨室」 を「巨室に罪を得ざれ」 代々の家臣は皆反対し と読み、 人君の身が修ま 一代々 代々 0 0)

章番号7 章通し番号88 通し番号40~41 章内番号1~6

本文訳

使われ、 をぬらさないで持つことができようか。」 を望むのに、仁をなそうとしない。これは熱い物を持つ前に手をぬ きない。」国君が仁を好めば天下に敵はない。天下に敵がないこと 文王を師とするのに及ぶものはない。文王を師とすれば、大国は五 が師の命令を受けることを恥じるようなものだ。これを恥じるなら とはできない。呉の言うことを受けないと呉と国交を絶つことにな 逆らう者は滅ぶ。斉の景公は言う、「私は命令を出して呉を使うこ 二つは自然の理である。自然の理に従う者は生き延び、自然の理に らさないようなものである。詩経に言う。 は都で裸献の礼を助けた。」孔子は言う。「仁には衆をなすことはで 子孫は周に服した。天命は常がない。殷の臣の才徳が優れ敏達な者 の子孫はその数は十万を下らない。上帝はすでに命令を出し、 いる。ところが大国の命令を受けることを恥じている。これは弟子 孟子が言う。 小さい者は大きい者に使われ弱い者は強い者に使われる。この 小国は七年で政を天下に行うことができる。詩経に言う。 涙を流して娘を呉に嫁がせた。今では小国は大国を師として 智が乏しい者は智が豊かな者に使われる。天下に道がな 天下に道があれば、徳が乏しい者は徳の豊かな者に 「熱い物を持つのに、 殷の 「殷 丰

本文

通し番号405

章内番号1

章通し番号68

識別番号7

· 7

1

者天也、9順天者存、10逆天者亡、大賢、5天下無道、6小役大、7弱役強、8斯二1孟子曰、2天下有道、3小德役大德、4小賢役

1 mèng zǐ yuē, 2 tiān xià yoǔ daò, 3 xiaŏ dé yì dà dé,
4 xiaŏ xián yì dà xián, 5 tiān xià wú daò, 6 xiaŏ yì dà,
7 ruò yì qiáng, 8 sī èr zhĕ tiān yĕ, 9 shùn tiān zhĕ cún,
10 nì tiān zhĕ wáng,

天なり、天に順う者は存し、天に逆らう者は亡ぶ、天下道無ければ、小は大に役し、弱は強に役す、斯二なるものは孟子曰く、天下道れば、小徳は大徳に役し、小賢は大賢に役する、

(1)役す:使われる 仕える ここは「小徳は大徳に役せらる」と受りに読むのが一般的である。しかしこれは受身の形でなく、それる」という受身の意味が入っているのである。 役、助也(役、れる」という受身の意味が入っているのである。 役すの意味の中に「使われる」という受身の形でなく、それる」というである。 しかしこれは受身の形でなく、それる」というでは、

②小は大に役し、弱は強に役す:ここの小、大、弱、強も国のことがは大に役し、弱は強に役す:ここの小、大、弱、強も国のことがある。そうならば対になっている小、大、弱、強も国のことがは大に役し、弱は強に役す:ここの小、大、弱、強を国にかけ、

朱

5人不脩德、6則但以力相役而已、7天者、8理勢之當然也、 1有道之世、 2人皆脩德、3而位必稱其德之大小、4天下無道、

1 you daò zhī shì, 2 rén jiē xiū dé, 3 ér wèi bì chēng 6 zé dân yĭ lì xiâng yì ér yĭ, 7 tiān zhĕ, 8 lĭ shì zhī qí dé zhī dà xiaŏ, 4 tiān xià wú daò, 5 rén bù xiū dé, dāng rán yĕ,

道有るの世は、人皆徳を脩む、而して位は必ず其徳の大小に称う、 理勢の当然なり、 天下道無ければ、人徳を脩めず、 則ち但力以て相役うのみ、天は、

(1)称う:合う る - 3に「中古棺七寸、槨稱之(中古棺七寸、槨之に称う)」とあ 稱、 適物之宜(称、 、物の宜に適う) 通し番号235

道がある世は人はみな徳を修める。位は必ずその徳の大きさに合 するだけである。天は理と勢から当然のことを言う。 う。天下に道がないと、人は徳を修めず、ただ力で人を使おうと

通し番号406 章内番号2 章通し番号88 識別番号7・7・ 2

本 文

1齊景公 日、 2既不能令、 3又不受命、 4是絶物

也、 5涕出而女於吳

mìng, 4 shì jué wù yĕ, 5 tì chū ér nữ yú wú, 1 qí jǐng gōng yuē, 2 jì bù néng lìng, 3 yoù bù shòu

を絶つなり、涕出て呉に女す、 斉景公曰く、 既に令すること能わず、又命を受けざるは、 是れ物

命:言いつけること 命、告也(命は、告なり)

(2)女す:めあわす め、二女は焉に女す)」とある。 九男事之、二女女焉(堯の舜に於るや、其子九男は之に事えし するを女と日う) 嫁入りさせる 通し番号627-1に「堯之於舜也、 以女妻人曰女(女以て人に妻と

朱 注

12以女與人也、13吳、14蠻夷之國也、15景公羞與爲昏、 出令以使人也、 17故涕泣而以女與之、 2 去聲、 7受命、8聽命於人也、 3○引此以言小役大、 4弱役強之事也、 9 物、 10猶人也、 5 令、 16而畏其 11 女、

qiáng, 17 gù tì qì ér yĭ nữ yữ zhī, guó yĕ, 15 jǐng gōng xiū yǔ wéi hūn, 16 ér wèi qí 7 shòu mìng, 8 tīng mìng yú rén yĕ, 9 wù, 10 yóu rén 1 nù, 2 qù shēng, 3 o yĭn cĭ yĭ yán xiaŏ yì dà, 4 ruò yì qiáng zhī shì yĕ, 11 nữ, 12 yĩ nữ yữ rén yẽ, 13 5 lìng, 6 chū lìng yĭ shĭ rén yĕ, wú, 14 mán yí

女、去声、 うなり、令は、令を出し以て人を使うなり、 ○此を引き以て小は大に役し、弱は強に役する事を言 命を受けるは、 命を

るなり、 るに其強を畏る、故に涕泣して女以て之に与う、 人に聴くなり、 呉は、蛮夷の国なり、景公与に昏を爲すことを羞ず、而 物は、猶人のごときなり、女は、女以て人に与え

- (1)女、去声:「おんな」の意味の時は第三声だが、 の意味になる時は第四声だとする。 「嫁入りさせる」
- (2)女:娘 と曰う、人に適ぐを婦と曰う) まだ嫁いでいない女性 適、 謂往嫁也(適は往きて嫁すを謂うなり) 處子曰女、適人曰婦(処子は女 處子、處女也 (処子、 処女な
- (3)蛮夷:野蛮人 ある。 号734-11朱注に「越、蠻夷國名(越、 四夷(東夷、西戎、南蛮、 北狄) のこと 蛮夷の国名なり)」と
- (4) 昏:婚姻 るは、陽往きて陰来るなり るの礼は、季以て明に奪じ、1 禮、以昏爲期、因以名焉、必以昏者、陽往而陰來(士が妻を娶禮、以昏爲期、因以名焉、必以昏者、陽往而陰來(士が妻を娑 るの礼は、昏以て期と爲す、 昏:日暮れ 因りて以て名づく、必ず昏以てす 期:時)
- (5)涕泣:涙を流して泣く 通し番号37

朱注訳

て娘を嫁がせた。 と婚姻をすることを恥じたが、その力を恐れた。それで涙を流し は娘を人に与えることである。呉は蛮夷の国である。景公は呉国 女は去声である。これを引用して小国は大国に使われ、 命を受けるは、人の命令を聞く。物は人のようなものである。女 国に使われることを言う。令は命令を出して人を使うことである。 弱国は強

通し番号407 章内番号3 章通し番号88 識別番号7 7 3

本 文

恥受命於先師也, 1今也小國師大國、 2而恥受命焉、 3是猶弟子而

3 shì you dì zǐ ér chǐ shòu mìng yú xiān shī ye, l jīn yĕ xiaŏ guó shī dà guó, 2 ér chĭ shòu mìng yān,

にして先師に命を受くるを恥ずるがごときなり、 今や小国は大国を師とす、而して命を受くるを恥ず、 是れ猶弟子

- (1)命:言いつけること 命、 告也(命は、 告なり)
- (2) 先師:師 きなり) 立つ 導く」の意味がある。 るがごときなり)」としており、先師を師としている。 趙注は「譬猶弟子不從師也(譬えば猶弟子師に従わざ 道、叚借爲導(道は、叚借して導と爲す) 先、猶道也(先は、猶道のごと
- (3)命:教え 子憮然として間を爲して曰く、之に命えり)」とある。 9朱注) 命、猶敎也(命は、猶教のごときなり)(通し番号323 通し番号323-2に「夷子憮然爲閒曰、命之矣(夷

朱 注

1言小國不脩德以自強、2其般樂怠敖、 4而獨恥受其敎命、 5不可得也、 3皆若效大國之所爲者、

shòu qí jiaò mìng, 5 bù kẽ dé yẽ, áo, 3 jiē ruò xiào dà guó zhī suŏ wéi zhĕ, 4 ér dú chĭ 1 yán xiaŏ guó bù xiū dé yĭ zì qiáng, 2 qí bān lè dài

(方は、板なり)

策、

篇簡也(策は、篇簡なり)

篇、謂書

方、

板也

(5) 方策:文書

布ねる:つらねる 言葉をならべる

布、列也(布、

列なり)

方は板、策は竹ふだを綴じ合わしたもの

在り)」になっている。

皆大国の爲す所に效う者の若し、 言えらく、 を恥ずるは、得べからざるなり、 小国徳を脩めて以て自ら強くせず、其れ般楽。怠敖し、 而るに独り其教命を受くること

(1)般楽:楽しみに楽しむ 旋なり、 是自求禍也(今国家間暇たり、是時に及び般楽怠敖すれば、是 藤仁斎) 般楽は、楽しみて又楽しむの意なり 通し番号174-1に「今國家閒暇、及是時般樂怠敖、 般、 旋也、 般樂、 樂而又樂之意(般は、 旋:めぐる) (伊

(4) 教命:言いつけること (3) 変う:ならう 效、象 (2) 怠敖:怠り遊ぶ 敖、 はないならうとならうとなった。 れ自ら禍を求めるなり)」とある。 敖、遊也(敖、 、遊なり)

效、象也(效、象なり)

命、告也(命は、告なり) 教、猶告也(教は、 猶告のごときなり)

朱注訳

うだ。それでいて大国の命令を受けることだけは恥じる。しかし 楽しみに楽しむ。これはみな大国のしていることを真似ているよ 次のように言う。 そういうことをしていると、大国の命令を受けざるを得ない。 小国が徳を修めて自らを強くしない。怠り遊び

通し番号408 章内番号4 章通し番号88 識別番号7 . 7 4

5小國七年、 1如恥之、 2 莫若師文王、 6必為政於天下矣 3師文王、 4 大國五年、

> 4 dà guó wữ nián, 5 xiaŏ guó qī nián, 6 bì wéi zhèng 1 rú chỉ zhī, 2 mò ruò shī wén wáng, 3 shī wén wáng

れば、大国は五年、 如し之を恥じれば、文王を師とするに若くは莫し、 yú tiān xià yĭ, 文王を師とす

(1)若く:しく 及ぶ に処り、是に由り以て堯舜の道を楽しむことに若かんや)」とあ る。 -4に「我豈若處畎畝之中、 小国は七年にして、 若、 如也(若は、如なり) 由是以樂堯舜之道哉(我豈畎畝の中 必ず政を天下に爲す、 通し番号57

朱 注

凡此類、17學者皆當思其作爲如何、 反爲吾役矣、13程子曰、 爲差、9蓋天下雖無道、 5舉而行之、6所謂師文王也、7五年七年、 1此因其愧恥之心、2而勉以脩德也、3文王之政、 10然脩德之至、 14五年七年、 18乃有益耳、 15聖人度其時則可矣、 11則道自我行、 8以其所乘之勢不同 4布在方策、 12而大國

xíng, 12 ér dà guó făn wéi wú yì yĭ, 13 chéng zĭ yuē, zhī, 6 suǒ wèi shī wén wáng yĕ, 7 wǔ nián qī nián, 3 wén wáng zhī zhèng, 4 bù zaì fāng cè, 5 jǔ ér xíng 14 wǔ nián qī nián, 15 shèng rén dù qí shí zé kẽ yǐ xià suī wú daò, 10 rán xiū dé zhī zhì, 11 zé daò zì wŏ 1 cĭ yīn qí kuì chǐ zhī xīn, 2 ér miăn yĭ 16 rán fán cĭ lèi, 17 xué zhě jiē dāng sī qí zuò wéi rú yǐ qí suǒ chéng zhī shì bù tóng wéi chà, 9 gaì tiān xiū dé yĕ,

れば、挙げて之を措くのみ)」とある。

⑦役:使われるもの 乃禽(心が形の役と爲れば、乃ち獣なり乃ち禽なり)」とある。 通し番号706-9年注に「心爲形役、乃獸

朱注訳

王の政は、布ねて方策に在り、

挙げて之を行うは、謂う所の文王

を師とするなり、五年七年、其乗る所の勢同じからざるを以て差

蓋し天下道無しと雖も、然れども徳を脩めるの至りは、

此は其愧恥の心に因りて、勉めるに徳を脩めるを以てするなり、文

18 năi you yì er,

国がかえって私に使われることになる。程子は言う。 天下は無道だが、徳を極限まで修めると、道は我より行われて大 ある。五年、七年と違うのは、その勢いが同じでないからである。 文書にのっている。それを用いて行うのが文王を師とすることで これはその恥の心によりて徳を修めることを勧める。 は学ぶ者はただ、 は、聖人がその時間を考えることは可である。しかしこういう類 何をなすべきかを考えれば益がある。 五年、 文王の政は 七年

学ぶ者皆当に其作爲如何を思うべければ、乃ち益有るのみ、

愧、猶辱也(愧、猶辱のごときなり)

辱、恥也(辱、

(1) 愧: 恥

恥なり)

志さしめるなり)」とある。

之使志於仁也(此は亦人の愧恥の心に因りて、之を引きて仁に

通し番号193-1朱注に「此亦因人愧恥之心、而引

五年七年は、聖人其時を度れば則ち可なり、然れども凡そ此類、 則ち道我自り行わる、而して大国反て吾が役と爲る、程子曰く、

『中庸』は「文武之政、布在方策(文武の政は、布ねて方策にの政は、布ねて方策に在り:ここは『中庸』を本にしている。 文

(3)文王の政は、

なり)」とある

而して之に教えるに非を遂め過を文るを以てすることを責むる其君に勉めるに善に遷り過を改めることを以てすること能わず、

猶勸也(勉、

猶勧なり)

5侯于周服、6侯服于周、7天命靡常、 1詩云、 9裸將于京、 2商之孫子、 10孔子曰、 3其麗不億、 11仁不可為衆也、 4上帝旣命、 ∞殷士膚 12

jì mìng, 5 hoú yú zhoū fù, 1 shī yún, 2 shāng zhī sūn zǐ, 3 qí lì bù yì, 4 shàng dì 6 hoú fù yú zhoū, ~1 tiān

本

通し番号409

章内番号5

章通し番号88

識別番号7

7

5

於簡冊可編者也(篇は、簡冊に書きて編むべきものを謂う 猶用のごときなり) 通し番号 夫國君好仁、13天下無敵、

(6)挙ぐ:用いる 300-18朱注に「如有用我者、舉而措之耳(如し我を用いる者 む:綴じ連ねる) 猶用也(挙、

jūn haò rén, 13 tiān xià wú dí, mìng mĩ cháng, 8 yīn shì fū mĭn, 9 guàn jiang yú jing 10 kŏng zĭ yuē, 11 rén bù kĕ wéi zhòng yĕ, 12 fū guó

て似たすく、 服す、 侯周に服すは、天命常靡し、殷士膚で敏なるは、京に裸し 孔子曰く、仁には衆を爲すべからざるなり、夫国君仁を 天下敵無し、 商の孫子、 其麗億のみならず、上帝既に命ず、侯周に

(1)孫子:子孫 ある。 朱注に「大王、公劉九世孫 (大王は、公劉の九世の孫なり)」と 孫子、子孫也(孫子、子孫なり) 通し番号91-7

(3) 億:十万(朱注)

達者、

36皆執裸獻之禮、37助王祭事于周之京師也、

詩而言、39有仁者則雖有十萬之衆、

40不能當之、

41故國君好仁、

38孔子因讀此

(4)上帝:天の神 天帝

(5) 侯:発語の辞 (朱注)

(6)靡し:ない の黎民、孑遺有ること靡し)」とある。無なり) 通し番号554-27に「周餘黎民、靡有孑遺(周の余無なり) 通し番号554-27に「周餘黎民、靡有孑遺(周の余 打ち消しの助辞 靡、 一日、無也(靡は、一に曰く、

(7)殷:商のこと 王の紂の時に滅んだ。この王朝名は商と言ったり殷と言っ ぼして建てた王朝名は商である。第19代王である盤庚の時に亳塔のこと 朱子は商士として説明している。湯王が夏の桀を滅 に遷都し、王朝名を殷に変更した。紀元前1122年、 第 30 代 たり

膚:大きい (朱注) 大きいと取っては意味が通じにくい。 中村惕斎は才徳が大きいとしている。 体格が

(9)敏:達している (朱注)

(10)京:都 (朱注) (中村惕斎) 京師は都のことである 君子の居城のある土地 京とは周の京師をさす

⑴祼:宗廟の祭で鬱鬯の酒を地に注ぎ、神を降す(朱注)

(12)将く:助ける (朱注)

朱 注

王之篇、9孟子引此詩及孔子之言、10以言文王之事、11麗、12數 2音灌、 3夫、4音扶、5好、 6去聲、7○詩、 8大雅文

以然者、 降神也、25將、26助也、27言商之孫子衆多、28其數不但十萬而已、 19大也、 也、13十萬日億、14侯、15維也、16商士、17商孫子之臣也、18膚、 29上帝旣命周以天下、 20 敏、 33以天命不常、 21達也、 30則凡此商之孫子、 35歸于有德故也、35是以商士之膚大而敏 22 裸、 23宗廟之祭、 31皆臣服于周矣、 24以鬱鬯之酒灌地而

42則必無敵於天下也、43不可爲衆、 yù chàng zhī jiŭ guàn dì ér jiàng shén yĕ, 25 jiāng shī ji kŏng zĭ zhī yán, 10 yĭ yán wén wáng zhī shì, yú zhoū yĭ, 32 suŏ yĭ rán zhĕ, 33 yĭ tiān mìng bù tiān xià, 30 zé fán cǐ shāng zhī sūn zǐ, 31 jiē chén fù shù bù dàn shí wàn ér yǐ, 29 shàng dì jì mìng zhoū yĭ 16 shāng shì, 17 shāng sūn zĭ zhī chén yĕ, 18 fū, 19 dà 11 lì, 12 shù yĕ, 13 shí wàn yuē yì, 14 hoú, 15 wéi yĕ, 1 guàn, 2 yīn guàn, 3 fū, 4 yīn fú, 5 haò, 6 qù shēng, 26 zhù yĕ, o shī, 8 dà yă wén wáng zhī piān, 9 mèng zǐ yǐn cǐ 20 mĭn, 21 dá yĕ, 22 guàn, 23 zōng miaò zhī jì, 24 yĭ 27 yán shāng zhī sūn zĭ zhòng duō, 28 qí 4猶所謂難爲兄難爲弟云爾、

は、 るを鬱と曰う、 **鬯爲鬱鬯**(黒黍を醸し酒を爲るを鬯と日う、 以て擣く所なり)) 鬱以て鬯に合わせ鬱鬯を爲る 芳草を築き以て煮 築、所以擣也(築

(3) 達ぐ:注ぐ 注、灌也(注は、灌なり)

(4) 京師:都 する所を以て京と爲すなり) 曰く、謂う所の京師は、蓋し此より起こり、 なり、師は、衆なり、京師は、高山にして衆く居るなり、所謂京師者、蓋起於此、其後、世因以所都爲京也(京は、 京、 高丘也、師、 衆也、京師、高山而師居也、 其後、世因りて都 董氏日、 董;高 氏 丘

(6) (5) 当する:敵する 当、敵也(当は敵なり)

(云爾) : 文を収める辞 子之に姑く徐徐にせよと謂うがごとし(云爾))」とある。之臂、子謂之姑徐徐云爾(是れ猶或るひと其兄の臂を終るに、 通し番号900-2に「是猶或紾其兄

十万を億と曰う、侯は、維なり、商士は、商の孫子の臣なり、膚

敏は、達なり、裸は、宗廟の祭に、鬱鬯の酒以て地

大なり、

此詩を引き孔子の言に及び、以て文王の事を言う、麗は、数なり、

音は灌、夫、音は扶、好、去声、

○詩、大雅文王の篇、孟子

44 yóu suǒ wèi nán wéi xiōng nán wéi dì yún ĕr,

yīn dú cǐ shī ér yán, 39 yoŭ rén zhě zé suī yoŭ shí

zhù wáng jì shì yú zhoū zhī jīng shī yĕ, 38 kŏng zĭ

cháng, 34 guī yú yoŭ dé gù yĕ, 35 shì yĭ shāng shì zhī

ér mĭn dá zhě, 36

jiē zhí guàn xiàn zhī lǐ.

wàn zhī zhòng, 40 bù néng dāng zhī, 41 gù guó jūn haò

zé bì wú dí yú tiān xià yĕ, 43 bù kĕ wéi zhòng

rén, 42

難く弟と爲り難しのごとし

(云爾)、

天下に敵無きなり、衆を爲すべからざるは、猶謂う所の兄と爲り

之に当すること能わず、故に国君仁を好めば、

則ち必ず

孔子此詩を読むに因りて言う、仁有る者なれば則ち十万の衆有る

なる者は、皆裸献の礼を執り、王の祭事を周の京師に助けるなり、

有徳に帰する故を以てなり、是を以て商士の膚大にして敏達

則ち凡そ此商の孫子、皆周に臣服す、以て然る所は、天命常なら なり、其数但十万のみならず、上帝既に周に命じるに天下以てす、 に灌ぎて神を降すなり、將は、助なり、言えらく、商の孫子衆多

②鬱圏:くろきびを原料にしてつくった酒が圏である。鬱金草という (1)維:発語の辞 のが鬱鬯である。 においのある草をついて煮たものが鬱である。鬱を鬯に加えた 醸黒黍爲酒曰鬯、 築芳草以煮日鬱、 以鬱合

者はみな裸献の礼をして、王の祭事を周の都で助けた。孔子はこ 商(殷)の子孫はみな周に臣として服した。天命は常なく、徳が 維である。商士は商の子孫の臣である。膚は大である。敏は達で 雅の文王の篇である。孟子はこの詩を引用して孔子の言葉に言及 裸は音は灌である。夫は音は扶である。好は去声である。 の詩を読んで言う。 ある所に帰するからである。 ある。裸は宗廟の祭りで鬱鬯という酒を地に注いで神を降ろすの して、文王のことを言う。麗は数である。十万を億と言う。侯は てその数は十万だけでない。上帝はすでに周に天下を命じたので、 である。将は助である。次のように言う。商(殷)の子孫は多く 仁者には十万の衆がいても敵対することがで 商(殷)の子孫の才徳が優れ敏達な 詩は大

ある。 べからざるは、兄と爲り難く、弟と爲り難いと言うようなもので きない。だから国君が仁を好めば必ず天下に敵がない。衆を爲す

文

通し番号10

章内番号6

章通し番号88

識別番号7

7

6

不以濯也、 今也欲無敵於天下、 4詩云、 5誰能執熱、 2而不以仁、 6逝不以濯、 3是猶執 而

1 jīn yĕ yù wú dí yú tiān xià, 2 ér bù yĭ rén, 3 yóu zhí rè ér bù yǐ zhuó yĕ, 4 shī yún, 5 shéi néng zhí rè, 6 shì bù yĭ zhuó, shì

今や天下に敵無きを欲して、 るに以て濯わざるがごときなり、 逝に以て濯わざる、 仁以てせず、是れ猶熱きを執る、 詩に云う、 誰か能く熱きを執る 而

①是猶執熱而不以濯也(是れ猶熱きを執る、而るに以て濯わざるがご いものを持ったからやけどがひどくならないように手を水で洗味である。水で手を洗って熱いものを持てばやけどしない。熱ときなり):「熱いものを持つ時には手を水で洗う」という意 物を執らんとすれば、 うという意味ではない。災いが起こる前に処置をするのが賢人 ること能わざるなり) 將執熱物、 (安井息軒) 必ず先其手を覆う、則ち熱が手を傷つけ必先濯其手、則熱不能傷手也(将に熱い必 必先濯其手、

(2)執る:とる - 5朱注に「質者、 持つ 士執雉、庶人執鶩、 持也(執は、持なり) 相見以自通者也(質なる 通し番号628

(4)逝に:語助 (朱注)

(3) たう:洗う 漢以濯之(江漢以て之を濯う)」とある。 洗、濯也(洗、 濯なり) 通し番号313-20に「江

じるものなり)」とある。

ものは、士は雉を執り、庶人は鶩を執り、

相見え以て自らを通

朱 注

言誰能執持熱物、 王、5是不以仁也、 13 則聽天所命、 □恥受命於大國、2是欲無敵於天下也、3乃師大國、 14脩德行仁、15則天命在我、 11而不以水自濯其手乎、12○此章言不能自強、 6詩、7大雅桑柔之篇、 8逝、 9語辭也、 4而不師文 10

qiáng, zì zhuó qí shoŭ hū, 12 \circ Cí yǐ rén yĕ, 6 shī, 7 dà yǎ sāng róu zhī piān, 8 shì, 9 yǔ yĕ, 3 năi shī dà guó, 4 ér bù shī wén wáng, 1 chỉ shòu mìng yú dà guó, 2 shì yù wú dí yú tiān xià 15 zé tiān mìng zaì wŏ, yẽ, 10 yán shéi néng zhí chí rè wù, 11 ér bù yĭ shuĭ 13 zé tīng tiān suŏ mìng, 14 xiū dé xíng rén, cĭ zhāng yán bù néng zì 5 shì bù

を脩め仁を行えば、 を執り持つ、而るに水以て自ら其手を濯わざるや、 は、大雅桑柔の篇、逝は、語辞なり、 に大国を師として、 命を大国に受けるを恥ず、是れ天下に敵無きを欲するなり、 く、自ら強くすること能わざれば、則ち天の命ずる所を聴く、 則ち天命我に在り、 文王を師とせず、 言えらく、 是れ仁以てせざるなり、 誰か能く熱き物 ○此章言えら 乃る 詩

(1)別に:而に同じ 足らざるなり)」とある 乃に能く我に先だちて心を動かさず、 此亦未足爲難也(孟子言えらく、告子 42-9朱注に「孟子言告子未爲知道、乃能先我不動心、 猶而也 页 告子未だ道を知ると爲さず、 猶而のごときなり) 則ち此亦未だ難と爲るに 則

②逝は、語辞なり:語辞は語助の意味で使っている。 は発語の辞なり) 逝、 發語辭(逝

朱注訳

水で手を洗わない者があろうかと言う。この章は言う。 は大雅の桑柔の篇である。逝は語助である。熱い物を持つのに、 命令を大国に受けるのを恥じるのは、天下に敵がないことを望む うと天の命は我にある。 することができないなら、 のである。大国を師とし、文王を師としないのは不仁である。詩 天の命ずる所を聞く。徳を修め仁を行 自ら強く

支えた。イギリスには及ばないが、フランス、ドイツ、ロシア 師とする」である。日清戦争で遼東半島を得た。ところがロシ や中国に進出したのはこれである。孟子の言う「小国は大国を うとした。産業を興し軍備を整え植民地を得ようとした。朝鮮 も強国であった。日本はこれらの列強にならい、国力を高めよ オセアニアと世界の各地にまたがる広大な植民地がその帝国を であった。その富の源泉は植民地である。アジア、 明治維新の頃、 世界最強の強国、世界最大の大国はイギリス アフリ カ、

> 強力な武器を作りそれで世界を威嚇した。自動車、 立したため、イギリスはますます国力が落ち、 ギリスの国力は落ち、第二次世界大戦後は植民地が相次いで独 国であり、移民しやすく、また優秀な人を高給で雇った。それ アメリカから生まれたものが多い。なぜか。アメリカは移民の まで考えられなかったような製品が次々と出て来た。これらは を作りそれを売りまくって莫大な富を集めた。またその技術で の大国となった。その富の源泉は技術である。 師として、命を受くるを恥ず」である。第一次世界大戦後、 ア、フランス、ドイツの三国が口出しし、遼東半島を清に返さ で世界中の優秀な人がアメリカに集まった。こういう人たちが 々と革新的な製品を作り出した。 エアコン、化学繊維、 国民はこれを屈辱と感じた。孟子の言う「小国は大国を パソコン、 スマートフォンと、 アメリカが最大 いろいろな製品 テレビ、

集まったはずである。 ると日本で次々と技術革新がなされ、 み出されただろう。それを売りまくることで莫大な富が日本に が多いと、世界中の優秀な人が日本に集まったに違いない。 にあふれた国で、 を減税にあて、税を収入の十分の一にする。 なっただろうか。仁に務め、軍備などには金を使わず、 日本が明治維新の頃、当時の大国、イギリス、フランス、ド ロシアにならわず、 犯罪も少なく、 文王にならう政治をしていたらどう しかも税金が安いので実収入 画期的な製品が次々と生 すると日本は慈愛 その金 す

章番号8 章通し番号69 通し番号41~415 章内番号1~5

本文訳

ことができない。」このことを言うのである。 がなす災いはまだ避けることができる。自らなす災いは生きのびる 分が自分の国を攻撃する。その後に人が攻撃する。太甲に言う。「天 家は必ずまず自分がこわす。その後に人が家をこわす。国はまず自 とだ。」人は必ずまず自分が人を侮る。その後に人がこちらを侮る。 と足を洗う。」孔子は言う。「君たち、よく聞きなさい。水が澄んで できるなら、国が滅亡し家が没落することがあろうか。子供が歌う。 に安んじており、災いを利としている。不仁の者と話をすることが いると冠の紐を洗い、水が濁っていると足を洗う。自分からするこ 「滄浪の水が澄んでいると、冠の紐を洗う。滄浪の水が濁っている 孟子は言う。不仁の者とは話をすることができない。危ないもの

通し番号411 章内番号1 章通し番号69 識別番号7・8 1

文

其菑、 亡國敗家之有、 1孟子曰、 5樂其所以亡者、 2不仁者、 3可與言哉、 6不仁而可與言、 4安其危而 7則何 利

> kẽ yǔ yán, 7 zé hé wáng guó baì jiā zhī yoù, weī ér lì qí zāi, 5 lè qí suŏ yǐ wáng zhě, 6 bù rén ér 1 mèng zĭ yuē, 2 bù rén zhě, 3 kĕ yǔ yán zāi, 4 ān qí 不仁者、与に言うべきや、其危うきに安んじて其菑

ければ、則ち何ぞ国を亡ぼし家を敗ること之有らん、 を利とす、其の以て亡ぶ所のものを楽しむ、不仁にして与言うべ孟子曰く、不仁者、与に言うべきや、其危うきに安んじて其菑い

- (1) 蓄い:災い 菑卹患(菑を救い患を卹う)」とある。 菑は災と同じ (朱注) 通し番号300-48朱注に「救
- の目的語の「亡國敗家」を前に出して強調したから、之を置い2)何ぞ国を亡ほし家を敗ること之有らん:「何有亡國敗家」で「有」 之を置い

朱 注

錯亂至於如此、15所以不可告以忠言、16而卒至於敗亡也、 致亡之道也、11不仁之人、12私欲固蔽、 爲危菑、7而反以爲安利也、8所以亡者、9謂荒淫暴虐、 1 菑、 2與災同、 3樂、 4音洛、5○安其危利其菑者、 13失其本心、14故其顚倒 6不知其 10所以

yù gù bì, 13 shī qí běn xīn, 14 gù qí diān daò cuò luàn yĕ, 8 suǒ yǐ wáng zhĕ, 9 wèi huāng yín bào nüè, 1zāi, 2y
ŭ zāi tóng, 3lè, 4yīn luò, 5zú zhì yú baì wáng yĕ zhì yú rú cĭ, 15 suŏ yĭ bù kĕ gaò yĭ zhōng yán, 16 ér 10 suǒ yǐ zhì wáng zhī daò yĕ, 11 bù rén zhī rén, zāi zhě, 6 bù zhī qí wéi weī zāi, 7 ér făn yĭ wéi ān lì o ān qí weī lì qí $12 \ s\bar{i}$

其危菌と爲るを知らずして、反て以て安利と爲すなり、以て亡ぶ 所は、荒淫暴虐にして、以て亡を致す所の道を謂うなり、不仁の 私欲固より蔽い、其本心を失う、故に其顚倒錯乱此如きに至 忠言以て告ぐべからずして、卒に敗亡に至る所以なり、 災と同じ、楽、音は洛、 ○其危に安んじ其菑を利とするは、

①荒淫暴虐:通し番号103-5朱注に「害仁者、凶暴淫虐、滅絶天 害するのが、ここの荒淫にあたると思われる。 害する者、 凶暴淫虐で仁を害するのがここの暴虐で、顚倒錯乱で義を 故謂之賊、害義者、顚倒錯亂、傷敗彝倫、故謂之殘(仁を 顚倒錯乱、彝倫を傷敗す、故に之を残と謂う)」とあ凶暴淫虐、天理を滅絶す、故に之を賊と謂う、義を

(2) 荒淫:まどい乱れる 荒にも淫にも「まどい乱れる」の意味がある。 日 う) 荒、叚借爲妄(荒、叚借して妄と爲す) - 4に「善搏虎、卒爲善士(善く虎を搏つ、卒に善士と爲る)」 淫、亂也(淫は、乱なり) 後に 卒、後也(卒、後なり) 淫、惑也(淫は、惑なり) 迷亂日荒(迷乱荒と 通し番号963

(3)卒に:ついに

朱注訳

菑は、 をもたらすものとすることである。亡ぶ所以は、惑乱、暴虐をな ることができず、 本心を失っている。それでこのように転倒錯乱している。 して滅亡する道である。不仁の人は私欲がもとよりおおい、その るは、それが危なく災いとなることを知らず、反って安らかで利 災と同じ。楽は音は洛である。其危に安んじ其菑を利とす 結局滅亡することになるわけである。

通し番号 412 章内番号2 章通し番号69 識別番号7 8 2

本 文

1有孺子、 5滄浪之水濁兮、 2歌日、 3滄浪之水清兮、 6可以濯我足、 4 可 以 濯我

1 yoǔ rú zǐ, 2 gē yuē, 3 cāng làng zhī shuǐ 6 kẽ yĩ zhuó wŏ zú, 4 kẽ yĩ zhuó wõ yīng, 5 cāng làng zhī shuĭ zhuó xī, qīng xī,

孺子有り、歌いて曰く、滄浪の水清めば(兮)、 べし、滄浪の水濁らば、以て我足を濯うべし、 以て我纓を濯う

(1)孺子:子供 心(今人乍孺子の将に井に入らんとするを見れば、 通し番号185-2に「今人乍見孺子將入於井、 の心有り)」とある。 趙注は「孺子、童子也(孺子、童子なり)」とする。 れば、皆怵惕惻隱へ、皆有怵惕惻隱之

(2) 号:助辞 なり) 一時語勢をとどめる。 兮、 語所稽也 分けい 語の稽る所

(3) 纓:冠のひも (朱注)

能執熱、逝不以濯(誰か能く熱きを執るに、逝に以て濯わざる」 とある。 洗、濯也(洗、 濯なり) 通し番号4

(4)濯う:洗う

2 音郎、 3○滄浪、 4 水名、 5纓、 6冠系也、

朱 注

6 l làng, 2 yīn láng, 3 \circ cāng làng, 4 shu
ĭ míng, 5 guàn xì yĕ,

yīng,

浪、音は郎、○滄浪は、水の名、纓は、冠の系なり、

海 この場合は川の意味 (1)水:水の流れている所、水のたまっている所、つまり、川、池、湖、

(2系:ひも 冠につなぐもの 説文解字は「纓、冠系也(纓、冠系の下ぐべきものなり、系は、係ぐなり、二組以て冠に係ぎ、頤の下係也、以二組係於冠、巻結頤下、是謂纓(冠系は、以て冠に系係也、以二組係於冠、巻結頤下、是謂纓(冠系は、以て冠に系なり)」となっており、段玉裁は「冠系、可以系冠者也、系者、(2系:ひも 冠につなぐもの 説文解字は「纓、冠系也(纓、冠系

注訴

浪は音は郎である。滄浪は河の名前である。纓は冠の紐である。

通し番号41 章内番号3 章通し番号69 識別番号7・8・3

7

矣、5自取之也、1孔子曰、2小子聽之、3清斯濯纓、4濁斯濯足

1 kŏng zĭ yuē, 2 xiaŏ zĭ tīng zhī, 3 qīng sī zhuó yīng, 4 zhuó sī zhuó zú yĭ, 5 zì qŭ zhī yĕ,

②斯ち:すなわち ここに 斯、猶則也(斯、猶則なり) 通し番子は、孔子の弟子なり)」とする。 - 超注は「小子、孔子弟子也(小

朱 注

5此類可見、1言水之淸濁、2有以自取之也、3聖人聲入心通、4無非至理、

山樂市里 1 yán shuǐ zhī qīng zhuó, 2 yoǔ yǐ zì qǔ zhī yĕ, 3 shèng rén shēng rù xīn tōng, 4 wú feī zhì lǐ, 5 cǐ lèi

て心に通ず、至理に非ざる無し、此類見るべし、水の清濁、以て自ら之を取ること有るを言うなり、聖人は声入り

kĕ jiàn,

朱注訳

とができる。 入ってくると心に通じて至理でないものはない。この類を見るこ水の清濁に対し、自らが取ることがあることを言う。聖人は声が

通し番号44 章内番号4 章通し番号69 識別番号7・8・4

本文

後人毀之、5國必自伐、6而後人伐之、1夫人必自侮、2然後人侮之、3家必自毀、4而

1 fū rén bì zì wǔ, 2 rán hôu rén wǔ zhī, 3 jiā bì zì huǐ, 4 ér hòu rén huǐ zhī, 5 guó bì zì fá, 6 ér hòu rén

太甲に曰く、

天の作せる

撃は猶違くべし、

べからず、此を之謂うなり、

(1)太甲:書経の商書の篇名

太甲、

商書篇名

(太甲、

商書の篇名な

り) (通し番号176-14朱注)

孼、

禍也(孼、

禍なり) (通し番号176-16朱注)

後人之を毀る、国必ず自ら伐つ、而して後人之を伐つ、夫人必ず自ら侮る、然る後人之を侮る、家必ず自ら毀る、而し

活、生也(活、生なり)(通し番号176-20朱注)違、避也(違、避なり)(通し番号176-18朱注)

fá zhī,

「毀瓦畫墁(瓦するに毀り墁するに画す)」とある。(1) 毀る:やぶる 毀、敗也(毀、敗なり) 通し番号342-32

朱注

1夫、2音扶、3○所謂自取之者、

1 fũ, 2 yīn fú, 3 \circ suố wèi zì qữ zhī zhě,

へ、音は扶、○謂う所の自ら之を取るものなり、

朱注訳

夫は音は扶である。言う所の自らこれを取るである。

本文

通し番号415

章内番号5

章通し番号69

識別番号7・8

5

可活、6此之謂也、 3猶可違、4自作孼、5不1太甲曰、2天作孼、3猶可違、4自作孼、5不

1 tài jiǎ yuē, 2 tiān zuò niè, 3 yóu keˇ wéi, 4 zì zuò niè, 5 bù keˇ huó, 6 cǐ zhī wèi yeˇ,

朱注

存、6則無以辨於存亡之著、7禍福之來、8皆其自取、1解見前篇、2○此章言、3心存、4則有以審夫得失之幾、5

1 jiế jiàn qián piān, 2 o cǐ zhāng yán, 3 xīn cún, 4 zé yoù yǐ shẽn fū dé shī zhī jǐ, 5 bù cún, 6 zé wú yǐ biàn yú cún wáng zhī zhù, 7 huò fú zhī laí, 8 jiē qí zì

ること無し、禍福の来る、皆其自ら取る、 『stail と宿り、存さざれば、則ち以て存亡の著を弁ずを審らかにすること有り、存さざれば、則ち以て存亡の著を弁ず解前篇に見ゆ、○此章言えらく、心存すれば、則ち以て夫得失の幾

(2)夫:その 夫、指事之辭也 (夫、事を指すのない)前篇:公孫丑章句上 通し番号176-4

ある。 ち07-2に「夫尹公之他端人也(夫尹公之他は端人なり)」と②夫:その 夫、指事之辭也(夫、事を指すの辞なり) 通し番号

无:無 観:見る) 通し番号91-61朱注に「而剖析於幾微之際ず、名以て尋ねるべからず、形以て観るべからざるものなり不可以形観者也(幾は、无を去り有に入り、理有りて未だ形せ、かすか きざし 幾者、去无入有、有理而未形、不可以名尋、

(幾微の際を剖析す)」とある。

(5)著:明らか 著、明也 (著、明なり)

会弁ず:区別する 辨、別也(辨、別なり)

军

るのである。
はいかなものでもわからない。禍福が来るのはみな自分が取っていたがなものでもわからない。禍福が来るのはみな自分が取ってい無を詳らかにすることができる。心が存していないと、存亡が明解説は前篇にある。この章は言う。心が存していると、得失の有

「心が存していると得失の機微を得る、心が存していないと存亡が明らかなものでもわからない。欲や間違った情報で心が乱されると明らかなものでもわからなくなる。国を滅ぼすのに武力はいらない。欲や間違った情報でその心を乱し、心が存しないようにすれば、明らかに滅亡する道であってもわからなくなる。必然の結果として滅亡する。これは一個人の場合も同じである。

章番号9 章通し番号70 通し番号16~42 章内番号1~6

本文訳

このことを言っている 君なら、天下の王になりたくないと思っても天下の王になってしま 駆るのはかわうそである。樹木の茂った林にすずめを駆るのは隼で 集まるようにし、嫌がることはしないことだ。民が仁に帰するのは、 死し滅ぶ。詩経に言う。「どうしてよかろうか。ともに溺れている。」 ることができない。仁に志さないと、 に、三年ものの艾を求めるようなものである。前もって蓄えておか う。今の天下の王になりたいと願う者は、七年も病気をしているの 好む者がおれば、諸侯はその君のために民を駆るだろう。仁を好む ある。湯王、武王に民を駆るのは桀紂である。今、 ば民を得る。民の心を得るには道がある。望む物を与え、望む物が 民を失ったのは、民の心を失ったのである。天下を得るには道があ ないから、三年ものしかないのである。蓄えておかないと、 水が下に流れ、野獣が広野を走るようなものである。深い水に魚を る。民を得れば天下を得る。民を得るには道がある。 孟子が言う。桀紂が天下を失ったのは、民を失ったからである。 一生憂えて辱められ、 天下の君で仁を 民の心を得れ ついに 一生得

通し番号46 章内番号4 章通し番号70 識別番号7・9・1

文

施爾也、 民矣、12得其心有道、13所欲與之聚之、14所惡勿 8斯得天下矣、9得其民有道、10得其心、11斯得 其民者、5失其心也、6得天下有道、7得其民、 1孟子曰、2桀紂之失天下也、3失其民也、4失

1 mèng zǐ yuē, 2 jié zhòu zhī shī tiān xià yĕ, 3 shī qí mín yĕ, 4 shī qí mín zhĕ, 5 shī qí xīn yĕ, 6 dé tiān xià yoǔ daò, 7 dé qí mín, 8 sī dé tiān xià yǐ, 9 dé qí mín yoǔ daò, 10 dé qí xīn, 11 sī dé mín yǐ, 12 dé qí xīn yoǔ daò, 13 suǒ yù yǔ zhī jù zhī, 14 suǒ è wù shī ĕr yĕ, 孟子曰く、桀紂の天下を失なうや、其民を失なうなり、其民を失なうなり、其民を失なうなり、其民を失なうなり、其民を失なうなり、其民を失なうなり、其民を失なうなり、大下を得るに道有り、其民を得れば、斯

の受い・悲らら、『さいを見る』とある。 れば、斯ち天下の民至る)」とある。 15-10に「王無罪歳、斯天下之民至焉(王歳を罪とすること無け()斯ち:すなわち、ここに、斯、猶則也(斯、猶則なり) 通し番号

は施すこと勿き爾なり、なする所は之を与え之を聚む、悪む所る、其心を得るに道有り、欲する所は之を与え之を聚む、悪む所

ち天下を得る、其民を得るに道有り、其心を得れば、斯ち民を得

「民不改聚矣(民改め聚めず)」とある。(2聚む:集める 集、聚也(集、聚なり) 通し番号137-10に

私欲の蔽無くて、能く其性を充たす爾)」とある。 272-9朱注に「堯舜則無私欲之蔽、而能充其性爾(堯舜則ち、 のみ 爾、猶而已也(爾、猶而已のごときなり) 通し番号

朱 注

王扶之而不危、4人情莫不欲逸、5三王節其力而不盡、6此類之傷、10人情莫不欲富、11三王厚之而不困、12人情莫不欲安、13三所惡、7則勿施於民、8鼂錯所謂人情莫不欲壽、9三王生之而不所惡、2去聲、3○民之所欲、4皆爲致之、5如聚斂然、6民之

1 è, 2 qù shēng, 3 o mín zhī suǒ yù, 4 jiē wèi zhì zhī, 5 rú jù liǎn rán, 6 mín zhī suǒ è, 7 zé wù shī yú mín, 8 cháo cuò suǒ wèi rén qíng mò bù yù shòu, 9 sān wáng shēng zhī ér bù shāng, 10 rén qíng mò bù yù fù, 11 sān wáng hòu zhī ér bù kùn, 12 rén qíng mò bù yù an, 13 sān wáng fú zhī ér bù weī, 14 rén qíng mò bù yù yù yì, 15 sān wáng jié qí lì ér bù jìn, 16 cǐ lèi zhī wèi yě,

思、去声、○民の欲する所は、爲に皆之を致すことが、聚斂する悪、去声、○民の欲する所は、則ち民に施すこと勿し、鼂錯謂う所は、が如き然、民の悪む所は、則ち民に施すこと勿し、鼂錯謂う所は、が如き然、民の悪む所は、則ち民に施すこと勿し、鼂錯謂う所は、が如き然、民の悪む所は、則ち民に施すこと勿し、鼂錯謂う所は、が如き然、民の悪む所は、則ち民に施すことが、聚斂する悪、去声、○民の欲する所は、爲に皆之を致すことが、聚斂する

- (1) 聚斂:集める (2)然:なり 也(斂、聚なり) 然、猶也也 決定之詞 (然、猶也のごときなり 聚にも斂にも「集める」の意味がある。 斂、 決定 聚
- (3) 鼂錯:前漢の人 が若き然」とある。 の詞なり) 通し番号234-10に「木若以美然 法家を学び、御史大夫(副丞相)となったが、呉 (木以だ美なる
- (4) 寿:命

楚七国の乱が起き処刑された。

- ⑤三王:禹、湯、文武のこと 文王、武王を合わせて一つと数えてい 公思兼三王、 文武なり) (通し番号499-1朱注) 通し番号499-1に「周 る 三王、禹也、湯也、文武也(三王は、禹なり、 以施四事(周公は三王を兼ねて、以て四事を施す 湯なり、
- (6)厚くす:多くする 通し番号297-44朱注に「又有餘夫之田、以厚野人也(又余夫す:多くする 増やす 厚、猶多也(厚、猶多のごときなり) の田有り、 以て野人を厚くするなり)」とある。
- (8) (7) 逸い困い いましい。 楽さい : とぼしい 困、乏也(困、乏なり)
- こと無ければ、則ち禽獣に近し)」とある。 煖衣、逸居而無教、則近於禽獸(飽食、煖衣、逸居して教える楽 逸、樂也(逸、楽なり) 通し番号308-5に「飽食、
- (9)節す:制限する 号918-3朱注に「愛、謂取之有時、用之有節(愛は、 るに時有り、之を用いるに節有るを謂う)」とある。 節、謂限禁也(節は限禁を謂うなり) 之を取 通し番

嫌うことはしないようにする。

鼂錯は言う。命がほしくない者は 悪は去声である。 いない。三王は人を生かして傷つけない。富がほしくない者はい 民が願うものは、みな集まるようにする。 民が

> 人は安を願わない者はいない。三王は人を助けて危うくしない。 ない。三王は民の所有物を増やし、物が乏しくないようにする。 人は楽を願わない者はいない。三王は民の力を使うのを制限し使 い尽さない。この類を言っている。

通し番号 417 章内番号2 章通し番号70 識別番号7 9 2

本

民之歸仁也、 2猶水之就下、 3獸之走壙

- $1\ \mathrm{min}\ \mathrm{zh\bar{i}}\ \mathrm{gu\bar{i}}\ \mathrm{rén}\ \mathrm{y\check{e}},\ 2\ \mathrm{y\acute{o}u}\ \mathrm{shu\check{i}}\ \mathrm{zh\bar{i}}\ \mathrm{jiu}\ \mathrm{xi\grave{a}},\ 3\ \mathrm{sh\grave{o}u}\ \mathrm{zh\bar{i}}$ zoŭ kuàng yĕ,
- 民の仁に帰するや、猶水の下に就き、獣の壙を走るがごときなり、 (1) 壙:広野(朱注)

朱 注

所欲之在乎此也、 2音奏、3○壙、 4廣野也、 5言民之所以歸乎此、 6以其

其欲する所の此に在るを以てなり、 走、音は奏、○壙、広野なり、言えらく、 1 zoŭ, 2 yīn zoù, 3 $^{\circ}$ kuàng, 4 guăng yẽ yẽ, 5 yán mín zhī suŏ yĭ guī hū cĭ, 6 yĭ qí suŏ yù zhī zaì hū cĭ yĕ, 民の此に帰す所以は、

朱注訳

がほしがるものがここにあるからである 走は音は奏である。壙は広野である。民がここに帰するの は、

通し番号 418 章内番号3 章通し番号70 識別番号7 9 3

5為湯武歐民者、 故爲淵歐魚者、 2獺也、 6桀與紂也、 3為叢歐爵者、 4 鸇 也、

1 gù wèi yuān qū yú zhě, 2 tă yě, 3 wèi cóng qū jué zhòu yĕ, zhě, 4 zhān yě, 5 wèi tāng wŭ qū mín zhě, 6 yŭ

故に淵の爲に魚を敺るものは、獺なり、 鸇なり、湯武の爲に民を歐るものは、 叢の爲に爵を敺るもの 桀と紂なり

(1)淵:深い水 (朱注)

敺る:駆る 歐と駆は同じ (朱注)

- (3) (2) 獺:かわうそ 食肉目イタチ科カワウソ亜科の動物。肉食性であり、 ザリガニ、 カエル、魚などを捕まえて食べる
- (6) (6) (5) 爵:すすめ 爵と雀は同じ (****
 (5) 爵:すすめ 爵と雀は同じ (爵と雀は同じ(朱注)

朱

民

彼而所畏在此也、 9鸇、10諸延反、 1 爲、 16 茂林也、17 鸇、 2去聲、3歐、 11○淵、12深水也、13獺、 18食雀者也、 4與驅同、5獺、6音闥、7爵、8與雀同、 19言民之所以去此、 14食魚者也、 20以其所欲在 15 叢、

suŏ wèi zaì cĭ yĕ, yán mín zhī suŏ yǐ qù cĭ, 20 yǐ qí suŏ yù zaì bǐ ér 11 \circ yuān, 12 shēn shu
ĭ yĕ, 13 tǎ, 14 shí yứ zh
ě yĕ, 1 wèi, 2 qù shēng, 3 qū, 4 yǔ dàn tóng, 5 tă, 6 yīn tà 15 cóng, 16 maò lín yĕ, 17 zhān, 18 shí qiāo zhĕ yĕ, jué, 8 yŭ qiāo tóng, 9 zhān, 10 zhū yán făn, 19

鸇、雀を食うものなり、言えらく、 反、 る所は彼に在りて畏れる所は此に在るを以てなり 去声、敺、駆と同じ、 ○淵、深水なり、獺、 魚を食べるものなり、 獺、音は闥、 民の此を去る所以は、 爵、雀と同じ、 叢、 茂林なり、 鸇、 其欲す

①茂林:樹木の茂った林

恐れるものがここにあるからである。 次のように言う。民がここを去るのは、望むものがむこうにあり である。叢は樹木の茂った林である。鸇は雀を食うものである。 じ。鸇は諸延反である。 爲は去声である。敺は駆と同じ。獺は音は闥である。爵は雀と同 淵は深い水である。 獺は魚を食べるも

通し番号 419 章内番号4 章通し番号70 識別番号7・9

4

本 文

4雖欲無王、 今天下之君、 5不可得已、 2有好仁者、 3則諸侯皆為之歐矣、

ること無からんと欲すと雖も、得べからざるのみ、 今天下の君、仁を好む者有れば、則ち諸侯皆之が爲に敺る、王た 1 jīn tiān xià zhī jūn, 2 yoŭ haò rén zhě, jiê wèi zhī qū yǐ, 4 suī yù wú wàng, 5 bù kĕ dé yĭ, 3 zé zhū hoú

注

1 好、 2爲、3王、 4並去聲、

1 haò, 2 wèi, 3 wàng, 4 bīng qù shēng

爲、 芙 並去声、

(1) 並:みな 「章内朝、 並、皆也(並、皆なり) 並音潮(章内の朝、並音は潮)」とある。 通し番号208-1 朱注に

朱注訳

爲、 王はみな去声である

(2) 荷も - 5に「苟能充之、足以保四海(苟能く之を充たせば、以て四海:もし 一 苟、猶若也(者 ― 狷衤6 こ るべからず 陳久:古く久しい)(伊藤仁斎)

朱 注

或可及、 病已深、 zhě, 6 qián jiǔ yì shàn, 7 fū bìng yǐ shēn, 8 ér yù qiú 1 wàng, 2 qù shēng, 3 \circ ài, 4 caŏ míng, 5 suŏ yĭ jiũ 2 去聲、 12不然、13則病日益深、14死日益迫、15而艾終不可得矣、 8而欲求乾久之艾、9固難卒辦、10然自今畜之、11則猶 3○艾、4草名、5所以灸者、6乾久益善、 7 夫

 qián jiữ zhī ài, 9 gù nán zú bàn, 10 rán zì jīn chù zhī, 14 sĩ rì yì pò, 15 ér ài zhōng bù kẽ dé yĩ, 11 zé yóu huò kẽ jí, 12 bù rán, 13 zé bìng rì yì shēn,

死は日に益迫る、而るに艾終に得べからず、非非 則ち猶及ぶべきこと或り、然らざれば、則ち病は日に益深く、 求めんと欲す、固より卒に辨え難し、然れども今自り之を畜えば、 しければ益善し、夫病已に深し、而して乾くこと久しきの艾を 王、去声、○艾、草の名、以て灸する所のものなり、乾くこと久

(1) 察に:にわかに 卒、急也(卒、急なり)

辦、 具也(辨、具なり)

(3) **): 有り 或、 段借爲有(2) 辦う: ととのえる そなえる 233-8に「夫旣或治之(夫既に之を治めること或り)」とあ 或、叚借爲有(或、叚借して有と爲す) 通し番号

(4)終に:ついに 終、 竟也(終、竟なり) 通し番号874 -15 朱

通し番号420 章内番号5 章通し番号70 識別番号7 9

本 文

爲不畜、 7以陷於死亡、 今之欲王者、 4終身不得、 2猶七年之病求三年之艾也、 5苟不志於仁、 6終身憂辱、 3

1 jīn zhī yù wàng zhě, 2 yóu qī nián zhī bìng qiú sān yú sĩ wáng, 5 goǔ bù zhì yú rén, 6 zhōng shēn yoū rǔ, 7 yǐ xiàn nián zhī ài yĕ, 3 goǔ wéi bù chù, 4 zhōng shēn bù dé,

きなり、 終身憂辱し、以て死亡に陥る、 今の王たるを欲する者は、猶七年の病に三年の艾を求めるがごと 苟畜えざるを爲せば、終身得ず、 苟し仁に志さざれば、

①猶七年の病に三年の艾を求めるがごときなり:七年間病気をしてい 蓄えるを爲さざれば、則ち終に艾を得るべからずして、病亦愈えきか、然れども陳久の艾、前に已に蓄えざるを以てして、今亦 るは、亦猶三年の艾以て、七年の病を灸するがごとし、豈得べ 足らず、 年の艾は、乾の未だ久しからざるものにして、以て之を愈すに 亦不可愈焉(言えらく、七年の病は、其根已に深し、而して三 然以陳久之艾、前已不蓄、而今亦不爲蓄、則終艾不可得、而病 以若所爲、求若所欲、亦猶以三年之艾、灸七年病、豈可得乎、 其根已深、而三年之艾、乾之未久者、不足以愈之、今之諸侯、 えておかないから三年ものしかないのである。 るのに、三年ものの艾を求めるようなものである。前もって蓄 今の諸侯が、若く爲す所を以て、若く欲する所を求め 言七年之病、

注に「終未至於天道(終に未だ天道に至らず)」とある

朱注訳

迫るのに、艾を得ることができない。 た艾を求めてもにわかには手に入れ難い。しかし今より蓄えてお ほど質がよくなる。病気がすでに重くなってから、 王は去声である。艾は草の名である。灸に使う。 くと間に合う。そうしないと病気は日々重くなり、 乾かすのが長い 久しく乾かし 死はますます

通し番号421 章内番号6 章通し番号70 識別番号7 9 6

本 文

詩云、 2其何能淑、 3載胥及溺、 4此之謂也、

wèi yĕ, $1~{\rm sh\bar{i}}$ yún, $2~{\rm q\'i}$ hé néng shū, $3~{\rm za\`i}~{\rm x\bar{u}}$ jí niào, $4~{\rm c\'i}~{\rm zh\bar{i}}$

なり、 詩に云う、其何ぞ能く淑からん、載ち胥及に溺る、 此を之謂う

(1) 淑し:よい (朱注) この淑は「よい」の意味である。 以て夫善治の道を明かにし、以て諸を人に淑くし、以て諸を後得以明夫善治之道、以淑諸人、以傳諸後(善治無ければ、士猶 に伝えることを得る)」とある。 なお現代日本語で淑女と言うが、 通し番号10 13-36 朱注に「無善治、 士猶

(3) 香 (米主) (3) 香 (株主) (米主) (米主)

通し番号91-12に「爰及姜女、 聿來胥宇 (爰に姜

5

(4)及に:及、與也(及、与なり) 女及、聿来たりて胥字る)」とある。 に来り胥字る)」とある。 東記 | 一番号91-12に「爰及姜女、聿來胥宇(爰に姜女及、聿 | 通し番号91-12では及と読んでい | 奥也(及、与なり) | 通し番号91-12では及と読んでい

本文訳

章番号10

章通し番号71

通し番号422~424

章内番号1~3

注

相也、 1 詩、 9言今之所爲、 2大雅桑柔之篇、3淑、4善也、5載、6則也、7胥、 10其何能善、11則相引以陷於亂亡而已、 8

 $1~{\rm sh\bar{i}},~2~{\rm d\grave{a}}$ yặ sãng róu zhī piān, $3~{\rm sh\bar{u}},~4~{\rm sh\grave{a}}$ n yế 5 zaì, 6 zé yĕ, 7 xū, 8 xiàng yĕ, 9 yán jīn zhī suŏ wéi, wáng ér yĭ, 10 qí hé néng shàn, 11 zé xiàng yĭn yĭ xiàn yú luàn

陥るのみ、 らく、今の爲す所、 大雅桑柔の篇、 其何ぞ能く善からん、則ち相引き以て乱亡に 淑、善なり、載、則なり、胥、相なり、 言え

朱注訳

ことか。手を取り合って乱と滅亡に落ち込むだけだ。 相である。次のように言う。今なしていることは、どうしてよい 詩は大雅の桑柔の篇である。 淑は善である。載は則である。胥は

> である。 安全な家にいない。 もに爲すことができない。礼と義を謗ることを言うのを自暴と言 のを自棄と言う。仁は人の安全な家である。義は人の正道である。 う。自分は仁におることができず、義によることができないとする 孟子は言う。自暴の者は話をすることができない。自棄の者はと 正道を捨てて正道を行かない。悲しむべきこと

通し番号 422 章内番号1 章通し番号71 識別番号7 10 1

本

吾身不能居仁由義、 5不可與有為也、 1孟子曰、 2自暴者、3不可與有言也、 6言非禮義、7謂之自暴也、 9謂之自棄也、 4自棄者、 8

9 wèi zhī zì qì yĕ, 4 zì qì zhě, 5 bù kẽ yữ yoǔ wéi yẽ, 6 yán feī lǐ yì, 1 mèng zĭ yuē, 2 zì bào zhě, 3 bù kẽ yǔ yoǔ yán yě 7 wèi zhī zì bào yĕ, 8 wú shēn bù néng jū rén yóu yì,

棄てる者、与に爲すこと有るべからざるなり、言は礼義を非孟子曰く、自ら暴う者、与に言うこと有るべからざるなり、 言は礼義を非る、

之を自ら暴うと謂うなり、吾が身は仁に居り義に由ること能わず、 之を自ら棄てると謂うなり、

(2) 非る:そしる (1)暴う:そこなう 「凶歳、子弟多暴(凶歳は、子弟暴うこと多し)」とある。 「不得而非其上者、非也(得ずして其上を非る者は、非なり)」 暴、虐也(暴、虐なり) 通し番号669-4に 非者、譏也(非は、譏なり) 通し番号78-1に

朱

絶之以不爲、 昏愚之至、 必不能勉也、15程子曰、16人苟以善自治、17則無不可移者、18雖 知仁義之爲美、 爲美而非毀之、 1 暴、 2猶害也、3非、4猶毀也、5自害其身者、6不知禮義之 19皆可漸磨而進也、20惟自暴者拒之以不信、21自棄者 22雖聖人與居、 11但溺於怠惰、12自謂必不能行、13與之有爲、 7雖與之言、8必不見信也、9自棄其身者、 23不能化而入也、24此所謂下愚之不

shēn zhě, 6 bù zhī lǐ yì zhī wéi měi ér feī huǐ zhī 1 bào, 2 yóu hài yẽ, 3 feī, 4 yóu huĭ zhì, 19 jiê kẽ jiàn mó ér jìn yẽ, 20 wéi zì bào zhẽ jù shàn zì zhì, 17 zé wú bù kẽ yí zhě, 18 suī hūn yú zhī 14 bì bù néng miăn yĕ, 15 chéng zĭ yuē, 16 rén goŭ yĭ zhě, 10 yóu zhī rén yì zhī wéi měi, 11 dàn niào yú dài zhī yǐ bù xìn, 21 zì qì zhĕ jué zhī yǐ bù wéi, suī yǔ zhī yán, 8 bì bù jiàn xìn yĕ, 9 zì qì qí shēn 12 zì wèi bì bù néng xíng, 13 yǔ zhī yoǔ wéi. yĕ, 5 zì hài qí . 22 suī

> wèi xià yú zhī bù yí yĕ, shèng rén yǔ jū, 23 bù néng huà ér rù yĕ, 24 cĭ suŏ

る者は、 移らざるなり、 居ると雖も、 拒み以て信ぜず、自ら棄てる者は之を絶ち以て爲さず、聖人与に 至りと雖も、皆漸に磨きて進むこと可なり、惟自ら暴う者は之を 之と爲すこと有れば、必ず勉めること能わざるなり、程子曰く、 爲すを知る、但し怠惰に溺る、自ら必ず行うこと能わずと謂う、 も、必ず信を見ざるなり、自ら其身を棄てる者は、猶仁義の美と 暴、猶害のごときなり、非、 人苟善以て自ら治めれば、則ち移るべからざるもの無し、昏愚の 礼義の美と爲すを知らずして之を非毀す、 化して入ること能わざるなり、 猶毀のごときなり、 此は謂う所の下愚の 自ら其身を害す 之と言うと雖

(1)非毀す:そしる 毀、謗也(毀、謗なり

(2)信:信じること

(3)漸に:しだいに らく、水原本有れば、已まずして漸に進み、以て海に至る)」と491-17朱注に「言水有原本、不已而漸進、以至於海(言え 491-17朱注に「言水有原本、 だんだん 漸、次也(漸、 次なり)

ある。

(4) 磨く: みがく 治石、謂之磨(石を治める、之を磨と謂う)

5下愚の移らざる:『論語』陽貨3に「子曰、 (5)下愚の移らざる:『論語』陽貨3に「子曰、 唯上知與下愚不移

朱注訳

暴は害のようなものである。非は毀のようなものである。 の身を害する者は、礼と義がよいものであることがわからずに、 自らそ

言う所の下愚は移らないである。 この上なく昏愚な者でも、 礼と義を謗る。話をしても礼と義を信じることが見られない。自 人とともにいても、感化されて聖人の道に入ることができない。 言う。人は善で自らを治めると、移ることができない者はいない。 人と事をなしても、仁と義に努めることは必ずできない。程子は らその身を棄てる者は、仁と義はよいものであることを知ってい 自暴の者は拒んで信じない。自棄の者は絶ってなさない。 怠惰に溺れ、自ら行うことがきっとできないと言う。その みなだんだんと磨かれ進むことができ

通し番号 423 章内番号2 章通し番号71 識別番号7・10 2

文

1仁、 2人之安宅也、 3義、 4 人之正路

仁は、 rén, 2 rén zhī ān zhái yĕ, 3 yì, 4 rén zhī zhèng lù yĕ, 人の安宅なり、 義は、人の正路なり、

仁宅已見前篇、 6故曰正路、 2義者、 3 宜也、 4乃天理之當行、 5無人欲之

1 rén zhái yǐ jiàn qián piān, 2 yì zhě, 3 yí tiān lì zhī dāng xíng, 5 wú rén yù zhī xié qū, 6 gù yuē zhèng lù, yĕ, 4 năi

> 朱注訳 して、 仁宅はすでに前篇にある。 人之安宅也(夫仁は、1)前篇:公孫丑章句上 通 人欲の邪曲すること無し、故に正路と曰う、 だから正路と言う。 義は宜である。天理があり人欲の邪で 通し番号191-5に「夫仁、天之尊爵也 天の尊爵なり、人の安宅なり)」とある。

曲がっているものがない。

本

通し番号424

章内番号3

章通し番号71

識別番号7

10

3

曠安宅而弗居、 2舍正路而不由、 3哀哉

3 aī zāi, l kuàng ān zhái ér fú jū, 2 shě zhèng lù ér bù yóu,

安宅を曠しくして居らず、 (1) 曠しくす:むなしくする 正路を舍てて由らず、 (朱注) 哀しいかな、

(2) 舍てる: 捨てる 謂いて、学ぶ所を舍てて以て之に徇うべけんや)」とある。朱注に「豈可謂吾君不能、而舍所學以徇之哉(豈吾君能わずと 舍、 棄也(舍、 棄なり) 1 3 25

朱 注

固有、 8而人自絶之、9是可哀也、 2上聲、3○曠、 4 空也、 5 电 10此聖賢之深戒、 6行也、 7 ○ 此章言道本 11學者所當

1 shě, 2

6 xíng yĕ, 7 o 11 xué zhě suŏ dāng měng shěng yě, zì jué zhī, 9 shì kẽ aī yĕ, 10 cĭ shèng xián zhī shēn jiè, shàng shēng, 3 cĭ zhāng yán daò bĕn gù yoŭ, 8 ér rén o kuàng, 4 kòng yĕ, 5 yóu,

固より有す、而るに人自ら之を絶つ、是れ哀しむべきなり、舍、上声、○曠、空なり、由、行なり、○此章言えらく、送 賢の深い戒めなり、 学ぶ者当に猛省すべき所なり、 由、行なり、 道は本 此聖

(1)本:始め 耳、(然れども志の言う所は、本は先王の世旧俗伝える所は、礼 文小異なり、而るに以て通行すべきことを謂うのみ)」とある。 「然志所言、本謂先王之世舊俗所傳、禮文小異、而可以通行者 本、 始也(本、始なり) 通し番号278-18朱注に

章番号11 章通し番号72 通し番号425 章内番号1

者が猛省すべきことである。

れは悲しむべきことである。これは聖賢の深い戒めであり、

学ぶ

人はもとより道を有している。ところが自ら道を絶っている。こ

曠は空である。

由は行である。

この章は言う。

本文訳

とはたやすい所にあるのに、難しい所に求める。 孟子は言う。道は近きにあるのに、道を遠くに求める。すべきこ 人々が親を愛し年

長の者に譲れば天下は治まる。

通し番号425 章内番号1 章通し番号72 識別番号7

11

1

本

而求諸難、 1孟子曰、 6人人親其親、 2道在爾、 3而求諸遠、 7長其長、 4事在易、 8而天下平、

7 zhăng qí zhăng, 8 ér tiān xià píng, 1 mèng zĭ yuē, 2 daò zaì ĕr, 3 ér qiú zhū yuăn, 4 shì 5 ér qiú zhū nán, 6 rén rén qìng qí qìng,

して天下平かなり、 在り、而るに諸を難きに求む、 孟子曰く、道は爾きに在り、 而るに諸を遠きに求む、事は易きに 人人其親を親し、 其長を長む、

(1)爾い:近い (朱注)

舍は上声である。

(2)親す:愛す えるか)」とある。 人の其兄の子を親すること、其鄰の赤子を親する若く爲すと以爲夷子信以爲人之親其兄之子、爲若親其鄰之赤子乎(夫夷子信に 親、愛也(親、愛なり) 通し番号321 -10に「夫

(3)長:年上の者 号14-42朱注) く父母に事える孝と爲す、 味と、責任者の意味がある。善事父母爲孝、 4) は年上の意味である。諸侯、謂附庸之國、 附庸の国、 不挾長、不挾貴(長を挾まず、貴を挾まず)(通し番号60 長、年長(長、 県邑の長を謂う) (通し番号8-30朱注) 長幼有序(長幼序有り)(通し番号290-14朱 善く兄長に事える悌と爲す)(通し番 年長なり) 長には年上の者の意 善事兄長爲悌(善

233

仁宅已に前篇に見ゆ、義は、宜なり、乃ち天理の当に行くべきに

でここの長は年上の者と取るべきである。 斯民親其上、死其長矣(斯ち民は其上に親しみ、其長に死せん) いるのが一般的であり、父母や兄ほど身近な存在でない。 でなければならない。一番身近な人は同じ家に住んでいる人で 合孟子は「道は近きにあり」と言っており、長は最も身近な者 り)(通し番号279-14朱注)は責任者の意味である。この場 匠人之長(工師は匠人の長なり)(通し番号10 (通し番号116-2) それは父母であり、兄である。責任者は自分の家の外に 冢宰、六卿之長也(冢宰は六卿の長な

(4) 長む:進む めるの心を沮み、其非を飾り諫を拒むの悪を長めんとす)」とあ諫之悪(方且に之が爲に曲げて弁説を爲し、其善に遷り過を改朱注に「方且爲之曲爲辯說、而沮其遷善改過之心、長其飾非拒忠。 長、進益也(長、進益なり) 通し番号244-22

12舍此而他求、13則遠且難、 長在人爲甚邇、 各長其長、17則天下自平矣、 2 邇、 3古字通用、 9親之長之、 4易、 14而反失之、15但人人各親其親、16 10在人爲甚易、11而道初不外是也、 5去聲、6長、7上聲、 8 ○ 親

nán, 14 ér făn shī zhī, 15 dàn rén rén gĕ qìng qí qìng 9 qìng zhī zhăng zhī, 10 zaì rén wéi shèn yì, 11 ér daò 1 ĕr, 2 ĕr, 3 gǔ zì tōng yòng, 4 yì, 5 qù shēng, 6 zhăng chū bù waì shì yĕ, 12 shĕ cĭ ér tā qiú, 13 zé yuăn qiĕ 16 gẽ zhăng qí zhăng, 17 zé tiān xià zì píng yĭ, shàng shēng, 8 o qìng zhăng zaì rén wéi shèn ĕr,

> 其長を長めれば、 ち遠く且難し、而して反て之を失う、 而るに道の初は是を外れざるなり、此を含てて他に求めれば、 だ邇きと爲す、之を親し之を長むは、人に在りて甚だ易きと爲す、 邇、古字通用す、 易、去声、長、 但人人各其親を親し、 上声、○親長人に在りて甚

(4) もほう 専ら (2) 好る:はずれる (3)舍つ:舍、棄也 (舍、棄なり) (1)邇:近い もすること無ければ、則ち但善を爲すに彊め、其をして繼ぐべ但彊於爲善、使其可繼、而俟命於天耳(君の力既に之を如何と 王不泄邇、不忘遠(武王邇きに泄れず、遠きを忘れず)」とある。 ときなり) 才而舍之 (吾何を以て其不才を識りて之を舍つ)」とある。 (人の以て心と爲す所は、是四なるものを外れず)」とある。 通し番号186-16朱注に「人之所以爲心、不外乎是四者 則ち天下自ずから平かなり、 獨、但也(独、但なり) 邇、近也(邇、 通し番号121-21朱注に「君之力旣無如之何、 ほかにする 近なり) 外、猶除也(外、猶除のごときな 通し番号96-2に「吾何以識其不 獨、 通し番号498-1に「武 猶專也(独、猶専のご 則

からしめて命を天に俟つのみ)」とある。

者に譲れば、天下は自ずと治まる。 るのは非常になしやすいことである。しかし道の初めはここから 親や年上の者は非常に身近なものである。 爾は邇であり、古字は通じる。易は去声である。長は上声である。 かえって道を失うことになる。ただ人々がその親を愛し、 である。これをせずに他を求めると、道は遠くなり離れてしまう。 親を愛し年上の者に譲

現代の人は言うかもしれない。 年齢よりも能力を重んじるべきである。年下でも能力があれ 年長の者に譲る必要はない。年下の者が上に立つべきだと

ある。列車に年の若い部長と年長の平の社員が乗っていた。あ

いにく席があいておらず、二人とも立っていた。一つ席があけ

のか、 取れば必ず上になる。また年齢は客観的な事実だから、誰にも 年齢というのは非常に便利な基準なのである。人は必ず年を取 列をつけるのである。では何を基準にして上下をつけるのか。 この人が上だから、下の者は上の者に譲ってください 者が出てくる。これが争いの元になる。 まいだから、どうしてあいつが上になるのだという不平を抱く 目瞭然にAの人が能力があると言えるものでない。基準があ くなるのである。能力で序列をつけると、どの人が能力がある になるのだから、 一目瞭然の基準になる。無能な者、無知な者でも年を取れば上 る。だから年齢で序列をつければ、若い頃は下にいるが、年を うにさせるには、人に序列、つまり上下をつけることである。 始まる。この争いが内乱や戦争の原因になる。人を争わない 人をまったく同列に置くと、自分が上に立とうとして争い Bの人が優れている所もあるというのが、実状である。 一目瞭然に決められない。Aの人が優れている所もあれ 不平を抱く者も少ない。世の中の争いが少な という序

位の低い者には、 である。年齢の高い者を上にしなければならないというもので 人君は年齢が若くても賢人ならば登用するのは、当然のこと しかし位が上の年の若い者も、自分より年長で自分より 自分の職権に関することでない限り譲るので

> に防ぐ優れた考え方である。 ば、年の若い部長は年長の平の社員に席を譲るのである。列車 の席に座ることは部長の権限に関することでないからである。 年齢で人の序列をつけるという儒学の考え方は、 通し番号426 428 戦争を未然

本文訳

章番号12

章通し番号73

章内番号1

3

理で自分を満たそうとするのが、人の道である。 にすることができない。自分にある理は天の道である。自分にある ものは今までにない ようにするのに道がある。 自分が理に従うようにしないと、親に喜ばれない。 とはできない。上に信任されるには道がある。 して動かないものは今までにない。 れないと友に信じられない。親に喜ばれるのに道がある。身に反り 上に信任されない。友に信じられるのに道がある。親に接して喜ば 孟子は言う。 低い地位で上の信任を得られないと、 理に明らかでないと自分が理に従うよう 自分にある理を尽さないで動く 友に信じられないと 自分にある理を尽 自分が理に従う 民を治めるこ

通し番号426 章内番号1 章通し番号73 識別番号7・12

1

文

親有道、 14不明乎善、 7信於友有道、 1 孟子曰、 4獲於上有道、 11反身不誠、 2居下位而不獲於上、 15不誠其身矣、 8事親弗悅、9弗信於友矣、 5不信於友、 12不悅於親矣、 6弗獲於上矣、 3民不可得而治 13誠身有道、 10 悅

8 shì qìng fú yuè, 9 fú xìn yú yoǔ yǐ, 10 yuè qìng yoǔ bù kẽ đé ér zhì yẽ, 4 huô yú shàng yoǔ đaô, 5 bù xìn 1 mèng zĭ yuē, 2 jū xià wèi ér bù huò yú shàng, 3 mín chéng qí shēn yĭ, 13 chéng shēn yoǔ daò, 14 bù míng hū shàn, 15 bù daò, 11 făn shēn bù chéng, 12 bù yuè yú yoŭ, 6 fú huò yú shàng yĭ, 7 xìn yú yoŭ yoŭ daò yú qìng yĭ,

ならず、 ぜられず、 ばれず、身に誠なるに道有り、善に明らかならざれば、其身に誠 れず、友に信ぜられるに道有り、 孟子曰く、 るなり、上に獲られるに道有り、 親を悦ばすに道有り、 下位に居りて上に獲られざれば、民得て治むべからざ 友に信ぜられざれば、上に獲ら 身に反り誠ならざれば、 親に事えて悦ばざれば、 親に覚 友に信

> ①親に事える:親に接する 事は「つかえる」と読む。「親につかえ なり)」(通し番号803-5朱注)と注している。親にもこの注 で朱子は「事、則奉承而不違也(事は、則ち奉承して違わざる る。 通し番号803-3「所以事天也 (以て天に事える所なり)」 る」と言うといかにも封建的な概念で現代の感覚からずれてい わない」ことだと考えると現代でも違和感が少ない。 の意を取り、親に事えるとは「親のすることを受容して親に違

(2)誠:天理の本然 実(朱注) 現代日本語で誠と言うと、嘘をつかないことだが、その意味と 無妄の謂、天理の本然なり)(中井履軒) は少し違う。 て実で僞がなく、天道の本然である(通し番号427-1朱注) 誠者眞實無妄之謂、天理之本然也 誠は理が我にあるものであり、すべ (誠は真実

朱 注

而不致其極哉、19以内則順乎親、20以外則信乎友、 先致其知、15不明乎善、16不誠乎身矣、17學至於誠身、 卽事以窮理、 求諸身、7而其所以爲善之心、8有不實也、9不明乎善、 1獲於上、2得其上之信任也、 22以下則可以得民矣、 11無以眞知善之所在也、12游氏曰、 3誠、4實也、5反身不誠、6反 13欲誠其意、14 21以上則可以 18則安往 10不能

yì, 14 xiān zhì qí zhī, 15 bù míng hū shàn, 16 bù chéng qí suǒ yǐ wéi shàn zhī xīn, 8 yoǔ bù shí yĕ, 9 bù míng 4 shí yĕ, 5 făn shēn bù chéng, 6 făn qiú zhū shēn, 7 ér zhī shàn zhī suŏ zaì yĕ, 12 yóu zhī yuē, 13 yù chéng qí hū shàn, 10 bù néng jí shì yǐ qióng lǐ, 11 wú yǐ zhēn 1 huò yú shàng, 2 dé qí shàng zhī xìn rèn yĕ, 3 chéng

xià zé kẽ yǐ dé mín yĭ, waì zé xìn hū yoŭ, 21 yĭ shàng zé kĕ yĭ dé jūn, 22 yĭ ér bù zhì qí jí zāi, 19 yǐ neì zé shùn h $\bar{\rm u}$ qìng, hū shēn yĭ, 17 xué zhì yú chéng shēn, 18 zé ān wăng 20 yĭ

其意を誠にすることを欲せば、先ず其知を致す、善に明かならざ と能わず、 ならざるは、諸を身に反り求めて、其以て善を爲す所の心、実な てすれば則ち以て民を得るべし、 てすれば則ち友に信、上以てすれば則ち以て君を得るべし、 往くとして其極を致さざらんや、内以てすれば則ち親に順、 れば、身に誠ならず、学びて身を誠にするに至れば、則ち安くに らざる有るなり、善に明かならずは、事に即き以て理を窮めるこ 上に獲らるは、其上の信任を得るなり、誠、実なり、身に反り誠 以て真に善の在る所を知ること無きなり、游氏曰く、 外以 下以

(1)即く:つく 其れ日に新しく又新し)」とある。 即き推し拡めることを知りて、其本然の量を充満すれば、 に「知皆卽此推廣、而充滿其本然之量、則其日新又新(皆此に 就也(即、就なり) 通し番号189-9朱注 則ち

(2) 意:心 我足、謂不以我滿足其意也(我を足れりとせずは、 意を満足せざるを謂うなり)」とある。 意、志也 (意、志なり) 通し番号279-8朱注に「不 我を以て其

朱注訳

反り誠ならざるは、これを身に返り求めて善をなす心が実でな ものがある。善に明かならずは、事について理を窮めることがで 上に獲らるは、上の信任を得ることである。誠は実である。身に

> ことがない。内では親に順い、 ない。学んで身を実にすると、どこへ行ってもその極に到らない きず、善のある所を真に知ることがない。游氏は言う。 て、下は民を得る。 しようとすれば、まず知を致す。善に明らかでないと、身は実で 外では友に信じられ、 上は君を得 心を実に

通し番号427

章内番号2

章通し番号73

識別番号7・

12

2

本

文

1是故誠者、 2天之道也、 3思誠者、 4人之道也、

1 shì gù chéng zhě, 2 tiān zhī daò yě, 3 sī chéng zhě, 4 rén zhī daò yĕ,

是故に誠は、天の道なり、 誠を思うは、 人の道なり

朱 注

1誠者、2理之在我者、3皆實而無僞、 6欲此理之在我者皆實而無僞、7人道之當然也、 4天道之本然也、 5思誠

rán yĕ, zhī zaì wŏ zhĕ jiē shí ér wú wĕi, 7 rén daò 4 tiān daò zhī běn rán yĕ, 5 sī chéng zhĕ, 6 1 chéng zhě, 2 lǐ zhī zaì wǒ zhě, 3 jiē shí ér wú wěi zhī dāng yù cĭ lĭ

誠を思うは、 誠は、理の我に在るもの、皆実にして僞無く、天道の本然なり、 此理の我に在るもの皆実にして僞無く、 人道の当然

(1)本然:もと 然、狀事之詞也(然、事を状すの詞なり)然:もと 本、根也(本、根なり) 本: 基也(本、

を欲するなり、

である。誠を思うは、この理の我にあるものがみな実で偽がなく 誠は理が我にあるものであり、 人道の当然であることを願う。 すべて実で僞がなく、天道の本然

通し番号428 章内番号3 章通し番号73 識別番号7. 12 3

本 文

動者也、 1至誠而不動者、 2未之有也、 3不誠、 4未有能

ယ

bù

至誠にして動かざるものは、未だ之有らざるなり、誠ならずして、 未だ能く動くもの有らざるなり、 chéng, 4 wèi yoŭ néng dòng zhě yě 1 zhì chéng ér bù dòng zhě, 2 wèi zhī yoŭ yĕ,

①至誠にして動かざる:現代日本語で至誠と言うと「非常に誠実で嘘 言ったから、その通りに実行しなければならない」などと思う 意味でない。自分にある天理を尽している人である。「前にこう を一つも言わない」というイメージがある。ここの至誠はその に拘泥して状況に応じて柔軟に変化することができないからで のは、諒とか小信とか言われ好ましくないこととされる。

子曰く、 ある。

君子は亮ならず、執を悪む)」とある。

通し番号783にも、「孟子曰、君子不亮、惡乎執

朱 注

乎子思者、 7悅於親之類是也、8○此章述中庸孔子之言、9見思誠爲脩身之 1至、2極也、3楊氏日、 10而明善又爲思誠之本、11乃子思所聞於曾子、 13亦與大學相表裏、 4動便是驗處、5若獲乎上、6信乎友、 14學者宜潛心焉、 12而孟子所受

友に信じられる、親に悦ばれるの類の若き是れなり、 至、極なり、楊氏曰く、動は便ち是れ験の処なり、上に獲られる、 dà xué xiàng biaŏ lǐ, 14 xué zhě yí qián xīn yān, céng zĭ, 12 ér mèng zĭ suŏ shòu hū zĭ sī zhě, 13 yì yŭ shàn yoù wéi sī chéng zhī běn, 11 năi zĭ sī suŏ wén yú yán, 9 jiàn sī chéng wéi xiū shēn zhī běn, 10 ér míng lèi shì yẽ, 8 \circ cǐ zhāng shù zhōng yōng kŏng zǐ zhī 5ru
ò huò hū shàng, 6 xìn hū yoǔ, 7yu
è yú qìng zhī 1 zhì, 2 jí yĕ, 3 yáng zhī yuē, 4 dòng biàn shì yàn chǔ, ○此章は中

①便ち:すなわち 爲眞盜也(乃ち其類を推し、義の至精至密の処に至りて之を極朱注に「乃推其類、至於義之至精至密之處而極言之耳、非便以集之。」 通し番号614-22

相表裏す、学ぶ者宜しく心を潜むべし、

善を明らかにするを又誠を思うの本と爲すを見る、乃ち子思が曽

子に聞く所にして、孟子が子思に受くる所のものなり、

亦大学と

庸の孔子の言を述べ、誠を思うを身を脩めるの本と爲し、

而して

(2)験:しるし 者は、必ず人に験有るがごときなり)」とある。 に「猶所謂善言天者、必有驗於人也(猶謂う所の善く天を言う 言するのみ、便ち以て真の盗と爲すに非ざるなり)」とある。 驗、効也(験、効なり) 通し番号510-15朱注

(3)此章は中庸の孔子の言を述ぶ:『中庸』にも同様のことを言ってい の道なり、 るが、 有道、反諸身不誠、不順乎親矣、誠身有道、不明乎善、 るに道有り、善に明らかならざれば、身に誠ならず、 朋友に信ぜられざれば、上に獲られず、朋友に信ぜられるに道 獲られざれば、民得て治むべからず、上に獲られるに道有り、 身矣、誠者、天之道也、誠之者、 不獲乎上矣、信乎朋友有道、不順乎親、不信乎朋友矣、順乎親 在下位不獲乎上、民不可得而治矣、獲乎上有道、不信乎朋友、 諸を身に反して誠ならざれば、親に順ならず、 親に順ならざれば、朋友に信ぜられず、親に順なるに道 語句は多少違っている。『中庸』は次のようになっている。 之を誠にするは、 人の道なり) 人之道也(下位に在りて上に 謝は、天 不誠乎

章番号13 章通し番号74 通し番号429 431

章内番号1

3

本文訳

に行くだろうか。諸侯が文王の政を行うならば、 にいた。文王が興ったと聞いて言った。「どうして帰らないことが 天下を治めることになる。 は天下の優れた老人である。優れた老人が文王に帰するのは、天下 と聞いて言った。「どうして帰らないことがあろうか。文王は老い の父が文王に帰するのである。 あろうか。文王は老いた者をよく治めると聞いている。」この二老 た者をよく治めると聞いている。」太公望は紂を避けて東海の海岸 孟子は言う。伯夷は紂を避けて北海の海岸にいた。文王が興った 天下の父が帰すれば、その子はどこ 七年の内には必ず

としている。子思が曽子に聞いたことであり、孟子が子思に受け 修める本であり、善を明らかにするのが、天の道を思う本である 信任される、友に信じられる、親に喜ばれるの類のようなもので 至は極である。楊氏は言う。動くは効果のあることである。上に たものである。 ある。この章は中庸の孔子の言葉を言う。天の道を思うのが身を 大学と表裏をなしている。学ぶ者は心を潜むべき

通し番号 429 章内番号1 章通し番号74 識別番号7 13 1

本 文

乎來、 公辟紂、 作興、5日盍歸乎來、 1孟子曰、 11吾聞西伯善養老者 8居東海之濱、 2伯夷辟紂、 6吾聞西伯善養老者、 9聞文王作興、 3居北海之濱、 4 10日盍歸 7太 文王

1 mèng zĭ yuē, 2 băi yí pì zhòu, 3 jū beĭ haĭ zhī bīn, guī hū laí, 11 wú wén xī bǎi shàn yǎng laŏ zhě, dōng haĭ zhī bīn, 9 wén wén wáng zuò xìng, 10 yuē hé wén xī bǎi shàn yǎng laŏ zhě, 7 tài gōng pì zhòu, 8 jū 4 wén wén wáng zuò xìng, 5 yuē hé guī hū laí, 6 wú

き、 太公紂を辟け、東海の浜に居る、文王作興すると聞き、曰く盍ぞ 帰らざる、 孟子曰く、 日く盍ぞ帰らざる(来)、吾聞く、西伯善く老を養める者と、 伯夷は紂を辟け、 北海の浜に居る、文王作興すると聞

- (1) 辟く: 避ける 辺に屏くなり) 吾聞く、 西伯善く老を養める者と、 辟之言、邊也、屏於一邊也(辟の言、辺なり、 通し番号353-1に「段干木踰垣而辟之(段
- (2) 浜:ほとり とある。 ほとり 水際 濱、涯也(浜、涯な子がら、一木は垣を踰えて之を辟く)」とある。 水辺なり) 通し番号198-3朱注に「陶于河濱(河浜に陶す)」 涯なり) 涯、水邊也(涯、
- (3) 来:催促の辞 通し番号997 用法である。 盍ぞ帰らざる (来))」とある。 陶淵明の帰去来の辞に「歸去來兮」とあるが、 來、 - 2に「孔子在陳曰、盍歸乎來(孔子陳に在りて來、催促之辭(来は、催促の辞なり)(中井履軒) 同じ

(5) (4):文王のこと(朱注)

養める:治める 号89-23朱注に「八家各受私田百畝、 百畝を受け、同じく公田を養める)」とある。 養、 猶治也(養、猶治のごときなり) 而同養公田(八家各私田治のごときなり) 通し番

朱 注

2去聲、 3 0作、 4 興、 5皆起也、 6 盖、 7何不也、 8西

> 非求仕也、 孤獨、19庶人之老、 伯、13太公、14姜姓、15呂氏、16名尚、17文王發政、18必先鰥寡 9卽文王也、10紂命爲西方諸侯之長、11得專征伐、 20皆無凍餒、 21故伯夷、 22太公來就其養、 12故稱西 23

21 gù băi yí, 22 tài gōng laí jiù qí yăng, 23 feī qiú shì 12 gù chēng xī bǎi, 13 tài gōng, 14 jiāng xìng, 15 lǚ zhī, wéi xī fāng zhū hoú zhī zhăng, 11 dé zhuān zhēng fá 7 hé bù yĕ, guă gũ dú, 19 shù rén zhī laŏ, 20 jiē wú dòng nĕi, 16 míng shàng, 17 wén wáng fā zhèng, 18 bì xiān guān 1 pì, 2 qù shēng, 3 o 8 xī băi, 9 jí wén wáng yĕ, 10 zhòu mìng zuò, 4 xìng, 5 jiē qĭ yĕ, 6 hé,

非ざるなり、 と無し、故に伯夷、 王政を発する、必ず鰥寡孤独を先にし、庶人の老、 る、故に西伯と称す、太公は、姜は姓、呂は氏、名は尙なり、文 辟、去声、○作、興、皆起なり、 紂命じ西方の諸侯の長と爲し、 太公来り其養に就く、 盍、何不なり、 征伐を専らにすることを得 仕えることを求めるに 西伯、 皆凍餒するこ 即ち文王

- (2)鰥:老いて妻のない者 ①姓:血筋を表す呼称。氏は家柄を表す呼称。ただし漢代以後混用さ て妻無し鰥と曰う)」とある。 れる。 生に因り以て姓を賜う、之に士を胙いて、之に氏を命ず)天子建德、因生以賜姓、胙之士、而命之氏(天子徳を 通し番号89 - 10に「老而無妻曰鰥
- (3)寡:老いて夫のない者 て夫無し寡と曰う)」とある。 通し番号8-11に「老而無夫日寡(老い

(6) だい 飢える (5)独:老いて子のない者 とある。 て子無し独と曰う)」とある。 其反也、則凍餒其妻子(其反るに比ぶや、則ち其妻子を凍餒す)」 くして父無し孤と曰う)」とある。 餒、飢餓也(餒、 通し番号8-12に「老而無子曰獨(老い 飢餓なり) 通し番号92-5に

比

(4)孤:幼くして父のない者

通し番号8-13に「幼而無父曰孤(幼

猶治也(養、猶治のごときなり)

朱注訳

氏は呂、 ない者、老いて夫のいない者、幼くして父のいない者、老いて子 伯は文王である。紂の命で文王は西方の諸侯の長になり、征伐を 辟は去声である。 入った。仕えるのを求めているのでない。 りすることがなかった。だから伯夷、太公が来て、文王の治下に のない者を先にした。庶民の老いている者はみな飢えたり凍えた 一存ですることができたので、西伯と言った。太公は、姓は姜、 名は尙である。文王が政をするのは、必ず老いて妻の 興はともに起である。盍は何不である。西

通し番号430 章内番号2 章通し番号74 識別番号7・13 2

本 文

之父歸之也、 1二老者、 2天下之大老也、 5天下之父歸之、 3而歸之、 6其子焉往、 4是天下

> zĭ yān wăng, tiān xià zhī fǔ guī zhī yě, 5 tiān xià zhī fǔ guī zhī, 6 1 èr laŏ zhĕ, 2 tiān xià zhī dà laŏ yĕ, 3 ér guī zhī, 4 shì qí

二老は、 するなり、 天下の大老なり、而して之に帰す、是れ天下の父之に帰 天下の父之に帰す、 其子焉くに往かん、

注

常人之老者、8天下之父、9言齒德皆尊、 心、12則天下之心不能外矣、13蕭何所謂養民致賢、14以圖天下者、 15暗與此合、16但其意則有公私之辨、 2於虔反、3○二老、 4伯夷、5太公也、6大老、 17學者又不可以不察也、 10如衆父然、 11旣得其 7言非

biàn, 17 xué zhě yoù bù kế yĭ bù chá yĕ, zhě, 15 àn yữ cĩ hé, 16 dàn qí yì zé yoǔ gōng sī zhī dé qí xīn, 12 zé tiān xià zhī xīn bù néng waì yĭ, yĕ, 6 dà laŏ, 7 yán feī cháng rén zhī laŏ zhĕ, 8 tiān xià 1 yān, 2 yú qián făn, 3 \circ èr laŏ, 4 băi yí, 5 tài gōng 13 xião hé suǒ wèi yăng mín zhì xián, 14 yǐ tú tiān xià zhī fǔ, 9 yán chǐ dé jiē zūn, 10 rú zhòng fǔ rán, 11 jì

るなり う、但し其意則ち公私の弁有り、 謂う所の民を養い賢を致し、以て天下を図るものは、暗に此と合 言う、既に其心を得れば、則ち天下の心外れること能わず、 に非ざるを言う、天下之父は、歯徳皆尊く、衆父の如し(然)を 焉、於虔反、○二老は、伯夷、 太公なり、大老、常人の老なる者 学ぶ者又以て察せざるべからざ 蕭炯

(1) 歯:年齢 黨莫如齒 (郷党歯に如くは莫し)」とある。 齒、 年也(歯、年なり) 通し番号213-18に「郷 七口以上日衆(七

(2)衆父:多くの人の父 衆は「多くの人」の意味。

(3) 然 口以上衆と曰う) 「なり」の意味 然、猶也也、決定之詞(然、猶也のごとき

皆爲致之、如聚斂然(民の欲する所は、爲に皆之を致すことが、 聚斂するが如き然)」とある。 なり、決定の詞なり) 通し番号416-3朱注に「民之所欲、

(4) 外れる:はなれるはず 不外乎是四者(人の以て心と爲す所は、是四なるものを外れず)」 除のごときなり) 通し番号186-16朱注に「人之所以爲心、 れる ほかにする 外、

蕭何:前漢建国の名相

区別 別也(弁、

学ぶ者は察せざるべからず。 るは暗にこれと合う。しかし意図している所に公私の別がある。 れることができない。蕭何が言う所の民を養い賢を致し天下を図 焉は於虔反である。二老は伯夷と太公である。大老は凡人の老い の父のようなことである。天下の父の心を得ると、天下の心は離 た者でないことを言う。天下の父は、年齢も徳も尊く、多くの人

通し番号431 章内番号3 章通し番号74 識別番号7 13

本 文

天下矣、 諸侯有行文王之政者、 2七年之内、 3 必為政於

1 zhū hoú yoŭ xíng wén wáng zhī zhèng zhě, zhī neì, 3 bì wéi zhèng yú tiān xià yĭ, 2 qī nián

諸侯文王の政を行うもの有れば、七年の内、必ず政を天下に爲す、

注

1七年、 2以小國而言也、 3大國五年、

4 zaì qí zhōng yĭ, 1 qī nián, 2 yĭ xiaŏ guó ér yán yĕ, 3 dà guó wŭ

七年、 小国以て言うなり、 大国五年は、 其中に在り、

朱注訳

七年は小国で言う。 大国五年はその中に含まれている。

章番号14 章通し番号75 通し番号432 434 章内番号1 3

本文訳

とができず、 開き、 は極刑にする。諸侯を連合させる者はその次の刑に処する。 る。その罪は死刑にしてもなお不足である。だから戦争に巧みな者 に捨てられる。これは土地を率いて人の肉を食べさせているのであ ことを強いる。土地を争って戦い、死体が野に満ちている。城を争っ 責めてもよい。」これから見ると、 言う。「冉求は私の門人でない。君たち、太鼓を鳴らしてその罪を 人君を富まする者は孔子に捨てられる者である。人君のために戦う 孟子は言う。 土地を民に耕作させる者はその次の刑に処する。 死体が城に満ちている。こういうことをすれば、 税として取り上げる穀物は以前の倍になった。孔子は 冉求が季氏の家臣となった。季氏の施策を改めるこ 人君が仁政を行っていないのに、

通し番号 432 章内番号1 章通し番号75 識別番号7 14 1

本

鳴鼓而攻之可也、 而賦粟倍他日、 1孟子曰、 2求也為季氏宰、 5孔子曰、 6求非我徒也、 3無能改於其德、 7小子 4

> wõ tú yẽ, 7 xiaŏ zǐ míng gữ ér gōng zhī kẽ yẽ, yú qí dé, 4 ér fù sù bèi tā rì, 5 kŏng zĭ yuē, 6 qiú feī 1 mèng zĭ yuē, 2 qiú yĕ wéi jì zhī zaĭ, 3 wú néng gaĭ

孟子曰く、 して粟を賦すること他日に倍す、孔子曰く、 小子鼓を鳴らして之を攻めて可なり、 求や季氏の宰と爲る、 能く其徳を改めること無し、而 求は我徒に非ざるな

(1)ここは、 附益す、 攻めて、可なり)」 之、可也(季氏周公於富む、而るに求や之が爲に聚斂して之を 公、 而求也爲之聚斂而附益之、子曰、非吾徒也、小子鳴鼓而攻 『論語』先進17の次の一文をもとにしている。「季氏富於周 子曰く、吾が徒に非ざるなり、 小子鼓を鳴らして之を

(3) 徳:行為 『論 は風なり、小人の徳は草なり)」とある。 通し番号279-23に「君子之德風也、小人之德草也(君子の徳 『論衡』に「實行爲德(実行徳と爲す)」とある。

(5) 賦。 す (4) 粟:穀物の実 を易え、 - 2に「子不通功易事、以羨補不足、則農有餘粟(子功を通じ事 :税を取る。 蒙を以て不足を補わざれば、則ち農余粟有り)」とある。 粟、嘉穀實也(粟、嘉穀の実なり) 賦なり) 賦、上之所求於下(賦、 通し番号293-17朱注に「賦無定法 上の下に求める所なり) 通し番

(賦は定法無し)」とある。 通し番号279-2に「吾他日未嘗學問(吾他日未

7)攻める:その罪を言って責める (朱注) だ嘗て学問せず)」とある。 実際に軍隊で攻撃するこ

3

朱

攻之、13聲其罪而責之也、8猶取也、9取民之粟倍於他日也、10小子、11弟子也、12鳴鼓而1求、2孔子弟子冉求、3季氏、4魯卿、5宰、6家臣、7賦、

1 qiú, 2 kŏng zǐ dì zǐ răn qiú, 3 jì zhī, 4 lǔ qīng, 5 zaĭ, 6 jiā chén, 7 fù, 8 yóu qǔ yĕ, 9 qǔ mín zhī sù bèi yú tā rì yĕ, 10 xiaŏ zǐ, 11 dì zǐ yĕ, 12 míng gǔ ér gōng zhī, 13 shēng qí zuì ér zé zhī yĕ,

- 2に「集大成也者、金聲而玉振之也(集めて大成するは、金が弟子なり、鼓を鳴らして之を攻むは、其罪を声べ之を責めるなり、猶取のごときなり、民の粟を取ること他日に倍するなり、小子、求、孔子の弟子冉求なり、季氏は魯の卿なり、宰は家臣なり、賦、求、孔子の弟子冉求なり、季氏は魯の卿なり、宰は家臣なり、賦、

(の)べて玉が之を振むなり)」とある。

朱注訴

その罪を言って責めることである。鼓を鳴らして之を攻むは、以前の倍になった。小子は弟子である。鼓を鳴らして之を攻むは、る。賦は取のようなものである。民の穀物を税として取ることが求は孔子の弟子冉求である。季氏は魯の卿である。宰は家臣であ

通し番号43 章内番号2 章通し番号75 識別番号7・14・2

本 文

而食人肉、11罪不容於死、盈野、8爭城以戰、9殺人盈城、10此所謂率土地孔子者也、5況於爲之強戰、6爭地以戰、7殺人1由此觀之、2君不行仁政、3而富之、4皆棄於

1 yóu cǐ guàn zhī, 2 jūn bù xíng rén zhèng, 3 ér fù zhī, 4 jiē qì yú kŏng zǐ zhě yč, 5 kuàng yú wèi zhī qiǎng zhàn, 6 zhēng dì yǐ zhàn, 7 shā rén yíng yĕ, 8 zhēng chéng yǐ zhàn, 9 shā rén yíng chéng, 10 cǐ suǒ wèi lù tǔ dì ér shí rén ròu, 11 zuì bù róng yú sǐ, 此に由り之を観れば、君仁政を行わずして、之を富ますは、皆孔此に由り之を観れば、君仁政を行わずして、之を富ますは、皆孔子に棄てられる者なり、況んや之が爲に戦を強い、地を争い以て戦い、人を殺し野に盈ち、城を争い以て戦い、人を殺し城に盈つるに於てをや、此は謂う所の土地を率いて人肉を食べる、罪は死に容らず、

(1)強う:強いる 強、叚借爲勢(強、叚借して勢と爲す) 勢、迫

(2)盈つ:みちる 盈、充也(盈、充なり) 通し番号366-4に(2)盈つ:みちる 盈、充也(盈、更なり) 通し番号285-4朱注に「天理人欲、不容並立(天理なり) 通し番号285-4朱注に「天理人欲、不容並立(天理なり) 通し番号366-4にと人欲は、並立を容れず)」とある。

5 2

地而食人之肉、10其罪之大、11雖至於死、12猶不足以容之也、子猶惡之、7況爲土地之故而殺人、8使其肝腦塗地、9則是率土1爲、2去聲、3○林氏曰、4富其君者、5奪民之財耳、6而夫

1 wèi, 2 qù shēng, 3 o lín zhī yuē, 4 fù qí jūn zhě, 5 duó mín zhī caí ěr, 6 ér fū zǐ yóu è zhī, 7 kuàng wèi từ dì zhī gù ér shā rén, 8 shǐ qí gān nǎo tú dì, 9 zé shì lù từ dì ér shí rén zhī ròu, 10 qí zuì zhī dà, 11 suī zhì yú sǐ, 12 yóu bù zú yǐ róng zhī yě,

「夫子罕言利(夫子罕に利を言う)」とある。 (夫子罕言利(夫子罕に利を言う)」 通し番号6-24朱注にの弟子、孔子を称して皆夫子と曰う) 通し番号6-24朱注にの弟子、孔子のこと 夫子、本春秋時、先生長者之稱、故孔門弟子、

②其肝脳をして地に塗れしむ:「肝腦塗地」は『史記』劉敬伝に見ら

(3)塗れる:まみれる よごれる 塗、汙也 (塗、汙なり)

朱注訳

ているだけである。しかし孔子はこれさえ憎んだ。土地のために爲は去声である。林氏は言う。その君を富ます者は民の財を奪っ

きく、死刑にしてもなお不足である。れは土地を率いて人の肉を食べさせているのである。その罪は大人を殺し、人の肝臓、脳が土にまみれているのは、当然憎む。こ

大罪である。
大間は昔から戦争をしてきた。近代は第一次世界大戦、第二人間は昔から戦争をしてきた。近代は第一次世界大戦という世界中が戦争になることを経験した。現代である。孟子の言う、土地を率いて人の肉を食べさせているのである。孟子の言うように、これは死刑にしてもなお償いきれないる。孟子の言うように、これは死刑にしてもなお償いきれないる。孟子の言うように、これは死刑にしてもなお償いきれないる。孟子の言うように、これは死刑にしてもなお償いきれない。

通し番号43 章内番号3 章通し番号75 識別番号7・14

3

本文

4任土地者次之、 1故善戰者服上刑、2連諸侯者次之、3辟草萊

1 gù shàn zhàn zhě fù shàng xíng, 2 lián zhū hoú zhě cì zhī, 3 pì caǒ laí, 4 rèn tǔ dì zhě cì zhī, 故に善く戦う者は上刑に服す、諸侯を連ねる者之に次ぐ、草萊 はでき、土地を任ずる者は之に次ぐ、

②草萊を辟き、土地を任ずる者は之に次ぐ:荒地を開き、土地を民に(1)上刑:重刑 趙注は「上刑、重刑也(上刑、重刑なり)」とする。 与え耕作させることが、罪になるのは、耕作する土地が増える 趙注は「上刑、重刑也(上刑、重刑なり)」とする。

(4) star (3) 草萊:荒地 田廢生草、 辟けず)」とある。 通し番号386-5に 謂之萊(田廃れ草を生ず、之を萊と謂う) 「田野不辟 (田野

草萊:荒地 から民の負担になるからである。 田廢生草、

: 土地を民に与え耕作させる (朱注)

朱 注

7如蘇秦、 1辟、 13使任耕稼之責、14如李悝盡地力、15商鞅開阡陌之類也、 2與闢同、3○善戰、 8張儀之類、9辟、10開墾也、11任土地、12謂分土授 4如孫臏、5吳起之徒、6連結諸侯、

1 pì, 2 yữ pì tóng, 3 \circ shàn zhàn, 4 rú sūn bìn, 5 wú lì, 15 shāng yāng kaī qiān mò zhī lèi yĕ, shòu mín, 13 shǐ rèn gēng jià zhī zé, 14 rú lǐ kuī jìn dì zhī lèi, 9 pì, 10 kaī kĕn yĕ, 11 rèn tǔ dì, 12 wèi fēn tǔ qǐ zhī tú, 6 lián jié zhū hoú, 7 rú sū qín, 8 zhāng yí

を尽し、い 結するは、蘇秦、張儀の類の如し、辟、開墾なり、土地を任ずる 土を分け民に授け、耕稼の責を任ぜしむるを謂う、 闢と同じ、○善く戰うは、孫臏、呉起の徒の如し、 商鞅、阡陌を開くの類の如きなり、 李悝地力 諸侯を連

①孫臏:戦国時代の斉の軍師。学友、龐涓に欺かれ両足を切断する刑 が軍師となって韓を救援し、馬陵の戦いで大勝した。 を受けた。13年後に魏が龐涓を将軍として韓を攻めると、孫臏 孫臏兵法

> (3)蘇秦:戦国時代の人。燕、趙、韓、魏、斉、楚の六国の合従を成立 は、兵法書の中で『孫子』 に次ぐものとされる。

(2) 呉起:戦国時代の人。魯や魏に仕え戦功をあげた。その著

させ、秦に対抗した。

④張儀:戦国時代の人。合従を連衡で打ち破った。秦と結んで隣国を 攻める利を説いて、合従から離脱させたのが連衡である。

(5) 土 … 田 土、田也(土、 田なり)

⑥耕稼:耕して植えること 稼は「植える」の意味がある。 注に「始爲耒耜、教民稼穡者也(始めて耒耜を爲り、 を教える者なり)」とある。 **斂**曰穑(種は稼と曰う、 斂は穡と曰う) 通し番号3 民に稼穡 種日稼、

(7)李悝:戦国時代の人。魏の丞相となり、農業生産力の増加をはかり、 魏の富国強兵に貢献した。

(8) 商鞅:戦国時代の人。秦に仕え、 する礎を築いた。 秦を強国にし、 後に秦が天下を統

、阡陌を開く:田の間の道をこわし、 東西以て阡と爲し、南北陌と爲す)西爲阡、南北爲陌(南北を阡と曰い、東西を陌と曰う、西爲阡、南北爲陌(南北を阡と曰い、東西を陌と曰う、西爲阡、東西曰陌、河西爲下、東西曰陌、東西曰所、東西曰所、東西曰所、東西曰 は、東西: ときば、 耕地整理をして田を増やす 河東以東 河東は

(9)

朱注訳

辟は闢と同じ。善く戰うは、孫臏、 る。 ることを言う。李悝が地力を尽し、商鞅が耕地整理をした類であ る。土地を任ずるは、土地を分けて民に与え、耕作の責を負わせ 諸侯を連結するは、蘇秦、 張儀の類のようである。 呉起の徒のようなものである。 辟は開墾であ

本文訳

章番号15

章通し番号76

通し番号435

5 436

章内番号1

ر 2

どうやってその心を隠すことができようか。 中が正しくないと瞳は暗い。その言を聞き、その瞳を見ると、 を隠すことができない。胸中が正しいと瞳は清く明らかである。胸 孟子が言う。 人にあるものの中で瞳ほどよいものはない。 瞳は悪 人は

通し番号435 章内番号1 章通し番号76 識別番号7 15

本 文

能掩其惡、5胸中正、 8則眸子眊焉、 一孟子曰、 2存乎人者、 6 則眸子瞭焉、 3莫良於眸子、 7胸中不正、 4眸子不

moú zĭ maò yān, 6 zé moú zĭ liǎo yān, 7 xiōng zhōng bù zhèng, 1 mèng zĭ yuē, 2 cún hū rén zhě, zĭ, 4 moú zĭ bù néng yăn qí è, 5 xiōng zhōng zhèng, 3 mò liáng yú moú 8

孟子曰く、人に存するものは、眸子於良きは莫し、眸子其悪を掩縛 うこと能わず、 らざれば、 則ち眸子眊し、 胸中正しければ、 則ち眸子瞭かなり、 胸中正しか

(2) 掩う:おおう 権、

る 「蓋歸反蘗梩而掩之((蓋)帰り蘗梩を反して之を掩う)」とあ 掩、 蓋也(掩、 蓋がい ないり 通し番号322-12に

(3) か:明らか(朱注)

(4) 眊し:明らかでない (朱注)

朱 注

之貌、16蓋人與物接之時、17其神在目、 9眸子、10目瞳子也、11瞭、 19不正則神散而昏、 1 眸、 2音牟、 3 瞭、 4音了、 12明也、13眊者、 5 眊、 6音耄、 18故胸中正則神精而明、 14 蒙蒙、 7 ○良、 15目不明 8善也、

míng, 19 bù zhèng zé shén săn ér hūn, shén zaì mù, 18 gù xiōng zhōng zhèng zé shén jīng ér 11 liǎo, 12 míng yĕ, 13 maò zhĕ, 14 méng méng, 15 mù 1 moú, 2 yīn mù, 3 liǎo, 4 yīn liǎo, 5 maò, 6 yīn maò, bù míng zhī maò, 16 gaì rén yǔ wù jiē zhī shí, 17 qí o liáng, 8 shàn yẽ, 9 moú zĭ, 10 mù tóng zĭ yĕ,

則ち神精く明かなり、正しからざれば則ち神散じて昏し、 蓋し人が物と接するの時、其神は目に在り、 の瞳子なり、瞭、明なり、 音は牟、 音は了、 能は、蒙蒙、目明かならずの貌なり、 は、 眊、音は耄、 ○良、 故に胸中正しければ 善なり、 眸子、

(1)瞳子:ひとみ 目の珠子なり) 珠と曰う) 子は小さなものに添えて用いる。 子、 小稱也(子、小の称なり) 凡物之圓者 皆日珠(凡そ物の円きもの、 瞳 目珠子(瞳、 皆

『呉子』

(3) 神:心 魂 神 神、謂精魂(神、精魂を謂う) 蒙蒙、暗也(蒙蒙、暗なり)

得る者有らんとするのみ)」とある。 將有神會而心得之者耳(百世の下、必ず将に神に会い心に之を 生の本なり) 通し番号1013-16朱注に「百世之下、必 神者、生之本也(神

(4) 精し: 澄む 精、潔也(精、 潔なり)

(5)散ず:乱れる 散、雑亂貌(散、雑乱の貌なり)

乞い以て之を求む)」とある。 通し番号540-10に「昏夜乞哀以求之(昏夜に哀を

善である。 眸は音は牟である。瞭は音は了である。

通し番号436 章内番号2 章通し番号76 識別番号7 15 2

る。胸中が正しいと、心は澄み明るい。正しくないと心が乱れて

して目が明るくないさまである。人が物と接する時、

眸子は目のひとみである。瞭は明である。

眊は音は耄である。

良は

能は蒙蒙と 心は目にあ

(1) 匿:かくす

に「藏怒、

謂藏匿其怒(怒を蔵すは、

其怒を蔵匿するを謂う)」

聽其言也、 2觀其眸子、 3人焉廋哉

其言を聴くや、其眸子を観る、人焉んぞ廋さんや、 1 tīng qí yán yě, 2 guàn qí moú zǐ, 3 rén yān sōu

(1) 廋す:かくす (朱注) (是の若きか従者の廋すや)」とある。

通し番号981-2に「若是乎從者之廋也

朱

發、8故幷此以觀、9則人之邪正不可匿矣、 2於虔反、3廋、 4音搜、5○廋、 6匿也、7言亦心之所 10然言猶可以僞爲、

11眸子則有不容僞者、 zhī xié zhèng bù kẽ nì yǐ, 10 rán yán yóu kẽ yǐ wĕi 7 yán yì xīn zhī suố fā, 8 gù bìng c
 i yǐ guàn, 9 zé rén 1yān, 2yú qián făn, 3 sōu, 4yīn sōu, 50 sōu, 6 nì

り、故に此に幷せて以て観れば、則ち人の邪正匿すべからず、 れども言は猶僞以て爲すべし、眸子は則ち僞を容れざるもの有り、 wéi, 11 moú zĭ zé yoŭ bù róng wĕi zhě, 音は搜、○廋、 匿、隱也(匿、隠なり) 匿なり、 言は亦心の発する所な 通し番号551-38朱注

注に「幷燕而增一倍之地也(燕を幷して一倍の地を増すなり)」(弁す:合わす 幷、合也(幷、合なり)(並しず) とある。

朱注訳

りを入れない。 すことができない。 発するものである。 焉は於虔反である。 だから言と瞳を合わせて見れば人の邪正は隠 しかし言は偽って出すことができる。 廋は音は捜である。 廋は匿である。 言も心が 瞳は偽

章番号16 章通し番号77 通し番号437 章内番号1

(1)惟順わざるを恐る:人が従わないのを恐れるから声や笑うさまで恭

を恐れるの句は、暗に故意に恭倹を作すの意を含む)(中井履軒)倹に見せる。 惟恐不順句、暗含故意作恭儉意 (惟順ならざる

本文訳

笑うさまでできることでない。 声や笑うさまで恭しくつつましく見せるが、どうして恭しくつつま ら奪わない。人を侮り人から奪う人君は、人が従わないことを恐れ、 しくなることができようか。恭しく、つつましくなることは、声や 孟子が言う。 恭しい人君は人を侮らない。 つつましい人君は人か

通し番号437 章内番号1 章通し番号77 識別番号7 16 • 1

本

人之君、 可以聲音笑貌爲哉、 1孟子曰、 5惟恐不順焉、 2恭者不侮人、 6惡得為恭儉、 3儉者不奪人、 7恭儉豈 4侮奪

yān, 6 duó rén, 4 wữ duó rén zhī jūn, 1 mèng zĭ yuē, 2 gōng zhě bù wữ rén, 3 jiăn zhě bù wū dé wéi gōng jiǎn, 7 5 wéi kŏng bù shùn gōng jiǎn qǐ kĕ уĭ

は豊声音笑貌以て爲すべけんや、 奪するの君、惟順わざるを恐る、 恭なる者人を侮らず、 倹なる者人から奪わず、 悪ぞ恭倹を爲すを得ん、 人を侮 恭倹

shēng yīn xiào maò wéi zāi,

朱 注

1 悪、 6 偽爲於外也、 2 平聲、 3○惟恐不順、 4言恐人之不順 Ę 5聲音笑貌、

wai yĕ, 1 wū, 2 píng shēng, 3 rén zhī bù shùn jĭ, 5 shēng yīn xiào o wéi kŏng bù shùn, maò, 6 wĕi 4 yán kŏng wéi

言う、 悪、平声、○惟順わざるを恐るは、 声音笑貌は、 偽り外に爲すなり 人の己に順わざるを恐れるを

朱注訳

悪は平声である。惟順わざるを恐るは、人が自分に従わない 恐れることを言う。 声音笑貌は、 偽って外に出すのである。 のを

章番号17 章通し番号78 通し番号438 440 章内番号1 3

本文訳

孟子が言う。「礼です。」淳于髠が言う。「兄嫁が溺れた時、 を引いて救いますか。」孟子が言う。「兄嫁が溺れて手を引いて救わ 淳于髠が言う。「男女が直接物の受け渡しをしないのは礼ですか。」 その手

とするのですか。」とするのですか。」とするのですか。」淳于髠が言う。「今は天下が溺れています。先生うにする)です。」淳于髠が言う。「今は天下が溺れています。先生が救わないのはなぜですか。」孟子が言う。「天下が溺れています。先生れです。兄嫁の手を引いて救うのは権(常道を離れて実状に合うよないのは狼のすることです。男女が直接物の受け渡しをしないのはないのは狼のすることです。男女が直接物の受け渡しをしないのは

通し番号43 章内番号1 章通し番号78 識別番号7・17・1

本文

13嫂溺援之以手者、14權也、 溺不援、10是豺狼也、11男女授受不親、12禮也、5禮也、6日、7嫂溺則援之以手乎、8日、9嫂

1 chún yú kūn yuē, 2 nán nǚ shòu shòu bù qìng, 3 lǐ yú, 4 mèng zǐ yuē, 5 lǐ yĕ, 6 yuē, 7 sǎo niào zé yuán zhī yǐ shoǔ hū, 8 yuē, 9 sǎo niào bù yuán, 10 shì chái láng yĕ, 11 nán nǚ shòu shòu bù qìng, 12 lǐ yĕ, 13 sǎo niào yuán zhī yǐ shoǔ zhĕ, 14 quán yĕ,

は、是れ豺狼なり、男女授受親らせずは、礼なり、嫂溺れ之を援溺れば則ち之を援うに手を以てするか、曰く、嫂溺れて援わざる淳于髠曰く、男女授受親らせず、礼か、孟子曰く、礼なり、曰く、嫂淳于

①男女:この男女には夫婦、親うに手を以てするは、権なり、

(5)豺狼: 豺はドール(アカイロオオカミ)であり、狼はタイリクオオカミは食物目イヌ科ドーカミ(ハイイロオオカミは灰褐色が多い。ドールはタイリクオオカミは灰褐色が多い。ドールはタイリクオオカミは灰褐色が多い。ドールはか電10~21㎏が、タイリクオオカミは灰褐色が多い。ドールは体重10~21㎏が、タイリクオオカミは灰褐色が多い。ドールは体重10~21㎏が、タイリクオオカミは灰褐色が多い。ドールはかるの数が多い。 豺、狼屬、犬聲(豺は、狼の属で、犬の声なり)狼、似犬鋭頭白頬(狼は、犬に似て、鋭い頭に白い頬なり)狼、似犬鋭頭白頬(狼は、犬に似て、鋭い頭に白い頬なり)狼、似犬鋭頭白頬(狼は、犬に似て、鋭い頭に白い頬なり)狼、似犬鋭頭白頬(狼は、犬に似て、鋭い頭に白い頬なり)狼、似犬鋭頭白頬(狼は、犬に似て、鋭い頭に白い頬なり)

朱注

22而往來以取中者也、23權而得中、24是乃禮也、9、16以遠別也、17援、18救之也、19權、20稱錘也、21稱物輕重、齊之辯士、10授、11與也、12受、13取也、14古禮、15男女不親授1與、2平聲、3援、4音爰、5○淳于、6姓、7髠、8名、9

1 yú, 2 píng shēng, 3 yuán, 4 yīn yuán, 5 o chún yú, 6 xìng, 7 kūn, 8 míng, 9 qí zhī biàn shì, 10 shòu, 11 yǔ yĕ, 12 shòu, 13 qǔ yĕ, 14 gǔ lǐ, 15 nán nǚ bù qìng shòu shòu, 16 yǐ yuǎn bié yĕ, 17 yuán, 18 jiù zhī yĕ, 19 quán, 20 chēng chuí yĕ, 21 chēng wù qīng zhòng,

22 ér wăng lai yǐ qǔ zhòng zhě yẽ, 23 quán ér dé zhòng, 24 shì năi lǐ yẽ,

(2)鎌:おもり 錘、重也(錘、重なり) (1)称:はかり 稱、權衡也、俗作秤(称、権衡なり、俗に秤に作る) (**) ***

3)往来:おもりを加えたり減らしたりする 往、去也(往、去なり)

「發而不中(発して中らず)」とある。(4)中る:あたる 中、當也(中、当なり) 通し番号194-3に

朱注訳

りを加えたり減らしたりして当るものを取るのが礼である。おりを加えたり減らしたりして当るものを物の重さとする。おも援は救う。権ははかりのおもりである。物の重さをはかるに、お援は救う。権ははかりのおもりである。受は取である。古の礼で与は平声である。援は音は爰である。淳于は姓であり、髠は名で与は平声である。援は音は爰である。淳于は姓であり、髠は名で

るのは、この考え方の深慮を知らないのである。

古来中国では男女を分けるのを見てすぐに封建的だと非難すむりとある。男女を分けるのを見てすぐに封建的だと非難する。「人里にも「七年、男女不同席」(七年にして、男女席を同記」内則にも「七年、男女不同席」(七年にして、男女席を同記」のは、この考え方の深慮を知らないのである。

一般的に自分に近いものは尊ばず、自分から遠いものを尊ぶ 傾向がある。「従僕に英雄なし」という言葉がある。世間に英雄と言われる人でも、その英雄の世話をしている従僕から見れば をの人が尊ぶ人でも、毎日接している従僕や家族から見れば その欠点ばかりが見えてとても尊ぶ気にならないのである。私 たちは多くの金をかけて遠い国、アメリカやフランスやエジプ たちは多くの金をかけて遠い国、アメリカやフランスやエジプ トに旅行に行く。自分が見たこともないものにはあこがれるのである。

強く結びつこうとする。 強く結びつこうとする。 なら、近づけるのでなく逆に離すのである。離すとかえってる。 あこがれるから強く結びつこうとする。結びつけようとす 男性が自分に遠いものとなる。遠いものだからあこがれが生じ 男女を分けると男性は女性が自分に遠いものとなり、女性は

いる。出生率低下の原因は独身者の増加と晩婚化である。なぜは若い者の数がどんどん減り日本が衰亡することは目に見えてい。当然の結果として出生率が低下する。現代日本の出生率で現代日本は独身の男女が多い。結婚しても結婚する年齢が高

れないのである。従僕に英雄がいないのと同じことである。 ようにしたからである。いつも一緒にいる身近な人にはあこが ないようになったのか。男女を分けず、男女が一緒に成長する である。なぜ男性は女性にあこがれず、 女性は男性にあこがれず、結婚しようとする願望が薄れたから 独身者が増加し晩婚化が進んだのか。男性は女性にあこがれず、 女性は男性にあこがれ

女共学にすると、男女がいつも一緒にいるため女性にあこがれ 多かった。戦後アメリカが日本を男女共学にしたのである。 身者が増え、晩婚化が進む。 たり男性にあこがれたりすることが少なくなる。結果として独 男

ある。 いたのである。 から1949年に子供を生んだ人々は戦前に教育を受けた者で 1949年の出生数は269万6638人である。1947年 る時代があった。この期間に生まれた世代を団塊の世代と言う。 日本には1947年から1949年にベビーブームと言われ 男女別学の教育を受けたから異性にあこがれ強く結びつ

えるべきである。男女を結びつかせるために、男女を遠ざけた のである。 る。古人がなぜ男女を分けたのか。その深慮をもう一度よく考 出生率を上げる簡単な方法がある。男女別学にすることであ

戦前は男子校、女子校があり、男女を分けて教育することが

通し番号439

章内番号2

章通し番号78

識別番号7・17

2

本 文

日、 2今天下溺矣、 3夫子之不援、 4何

1 yuē, 2 jīn tiān xià niào yĭ, 3 fū zĭ zhī bù yuán, 4 hé

日く、 今天下溺る、夫子の援わざる、 何ぞや、

(1) 実子: 先生、 若有不豫色然(夫子不予の色有るが若し(然))」とある。本春秋の時、先生長者の称なり) 通し番号263-3に 長者の尊称 夫子、 本春秋時、 先生長者之稱(夫子、

朱 注

之正道也、 1言今天下大亂、2民遭陷溺、3亦當從權以援之、 4不可守先王

zhī zhèng daò yĕ, dāng cóng quán yǐ yuán zhī, 4 bù kẽ shoǔ 1 yán jīn tiān xià dà luàn, 2 mín zaō xiàn niào, 3 yì xiān wàng

て之を援い、先王の正道を守るべからざるなり、 言えらく、今天下大いに乱る、 民陥溺に遭う、 亦当に権に従い以

(1)陥溺:落とし溺れさせる 1に「彼陷溺其民(彼其民を陥溺す)」とある。 陷、墜也(陥、 墜なり) 通し番号26

朱注訳

次のように言う。 たりしている。権で民を救うべきであり、 天下は大いに乱れ、民は穴に落ち込んだり溺れ 先王の道を守るのは不

可である。

通し番号440 章内番号3 章通し番号78 識別番号7 17

3

文

手、 1日、 6子欲手援天下乎、 2天下溺、 3援之以道、 4嫂溺、 5援之以

援うに手を以てす、 天下溺るれば、之を援うに道を以てす、嫂溺るれば、 yuán zhī yǐ shoǔ, 6 zǐ yù shoǔ yuán tiān xià hū, yuē, 2 tiān xià niào, 3 yuán zhī yĭ daò, 4 săo niào 子は手にて天下を援わんと欲するか、 之を

注

使我以手援天下乎、8○此章言直己守道、9所以濟時、10枉道殉 1言天下溺、2惟道可以救之、3非若嫂溺可手援也、4今子欲援 11徒爲失己、 5乃欲使我枉道求合、6則先失其所以援之之具矣、 7是欲

săo niào kẽ shoŭ yuán yẽ, 4 jīn zĭ yù yuán tiān xià, yǐ jǐ shí, 10 wăng daò xùn rén, 11 tú wéi shī jǐ, tiān xià hū, 8 o cǐ zhāng yán zhí jǐ shoǔ daò, 9 suŏ yǐ yuán zhī zhī jù yǐ, 7 shì yù shǐ wŏ yǐ shoǔ yuán 5 năi yù shǐ wõ wăng daò qiú hé, 6 zé xiān shī qí suŏ 1yán ti
ān xià niào, 2 wéi daò kẽ yĩ jiù zhī, $3~{\rm fe\bar{i}}$ ruò

> なり、 所の具えを失う、是れ我をして手以て天下を援わしめんと欲する をして道を枉げ合うを求めしめんと欲す、 援うべきが若きに非ざるなり、今子天下を援わんと欲す、乃ち我 か、○此章言えらく、 言えらく、天下溺るれば、惟道以て之を救うべし、嫂溺れ手にて 道を枉げ人に殉うは、徒己を失なうことを爲す 己を直にして道を守るは、以て時を済う所 則ち先ず以て之を援う

- (1)枉ぐ:曲げる ざるなり)」とある。 枉、曲也(枉、曲なり) 通し番号578-1に
- (2) 具え: そなえ 意は未だ知るべからず、而して其具えは又我に在り)」とある。 267-8朱注に「然天意未可知、而其具又在我(然れども天の 具、猶備也(具、猶備のごときなり) 通し番号
- (3)済う:救う 0 本心、 汲汲の本心、君を愛し民を沢すの、惓惓の余意を見ゆ)」と歌語、紫紫紫、悠悠、愛君澤民、惓惓之餘意(此章は聖賢が道を行い時を濟う 通し番号262-1 濟、賙救也(済、賙救なり) ・朱注に「此章見聖賢行道濟時、
- (4)動う:従う 殉、 従なり

ある。

朱注訳

救わせようとするのか。 れをすれば天下を救う道具を失う。 に、私に道を曲げ世に合うようにさせようとしている。 が溺れて手で救うようなものでない。今あなたは天下を救うため 次のように言う。 天下が溺ればただ道で救うことができる。兄嫁 道具がなく、 私に手で天下を

この章は言う。 己を直にして道を守るのが今の時代を救うことで

道を曲げて人に従うのは己を失うだけである。

はじめて理想社会に近付く。己に求めずに、ただ社会を変えよ 其心を正す、其心を正さんと欲する者は、先ず其意を誠にす、 国を治めんと欲する者は、先ず其家を斉う、其家を斉えんと欲 明徳を天下に明らかにせんと欲する者は、先ず其国を治む、其 を変えるだけでは、決して理想社会は出現しなかった。孟子は 義国家ソ連が誕生した。中国でも北朝鮮でも共産主義国家が成 社会から遠ざかる。 うとするだけでは、 に格るに在り」。社会を救おうとすれば、社会を変えようとせ 其意を誠にせんと欲する者は、先ず其知を致す、知を致すは物 する者は、先ず其身を修む、其身を修めんと欲する者は、先ず して道を守るは、以て時を濟う所なり」『大学』は言う。 ようとせず、自分に求めようとした。朱子は言う。「己を直に 理想社会をつくるのにどうしようとしたのか。社会体制を変え 指導者の間の抗争と反対勢力の粛清、上層部の腐敗、民衆の苦 立した。共産主義国家になると、理想社会になったのだろうか。 考えた。労働者の政権をつくろうとした。ロシア革命で共産主 共産主義は世の中の仕組みを変えれば理想社会が出現すると 自分に求めるのである。 理想社会からは程遠い現実が報告されている。社会制度 決して理想社会は実現せず、ますます理想 知を致し自分の心を理で満たして 「古の

章番号18 章通し番号79 通し番号44~ 444 章内番号1~4

本文訳

ことを教えるのに、していることは必ずしも正しいとは言えない。』 善を責めると父子が離れる。父子が離れるほど不吉なことはない。」 さなければならない子を害することになる。子は『父は私に正しい はよくない。古は子を換えて教えた。父子の間では善を責めない。 と思う。こうなると父子が害し合うことになる。父子が害し合うの を教える。正しいことをしないと師は責める。親が子を責めると愛 孟子は言う。「自然の勢でできないのだ。教えるのは正しいこと 公孫丑が言う。「君子が自分の子を教えないのはどうしてですか。」

通し番号441 章内番号1 章通し番号79 識別番号7 18 1

本 文

公孫丑曰、 2君子之不教子、 3 何 也

公孫丑曰く、 1 gōng sūn choù yuē, 2 jūn zĭ zhī bù jiāo zĭ, 君子の子を教えざるは、何ぞや、 ယ hé

朱 注

1不親敎也、

1 bù qìng jiāo yĕ,

親ら教えざるなり、

ち是れ父子相夷うなり、

父子相夷えば、

則ち悪し、

(1) 怒:せむ

いかる

怒、責也(怒、責なり) 趙注は「教以正道、

(3) 夫子: もと、 則ち之を責怒

れば、則ち之を責怒す)」とする。

而不得行、則責怒之(教えるに正道以てして、

行うことを得ざ

秋時、先生長者之稱、(夫子、本春秋の時、先生長者の称) (夫子:先生、長者の尊称だが、この場合は父のこと 夫子、

夫子、

(1)親ら:みずから 号438-2に「男女授受不親(男女授受親らせず)」とある。 親、猶自也(親、猶自のごときなり) 通し番

自分から教えない。

通し番号 442 章内番号2 章通し番号79 識別番号7 18 2

文

子教我以正、9夫子未出於正也、 行、5繼之以怒、6繼之以怒、7則反夷矣、 1孟子曰、2勢不行也、 11父子相夷、12則惡矣、 3教者必以正、 10則是父子相夷 4以正不 8夫

zĭ xiàng yí, 12 zé è yĭ, wèi chū yú zhèng yĕ, 10 zé shì fǔ zǐ xiàng yí yĕ, zhèng, 4 yĭ zhèng bù xíng, 5 jì zhī yĭ nù, 6 jì zhī 1 mèng zĭ yuē, 2 shì bù xíng yĕ, 7 zé făn yí yĭ, 8 fū zĭ jiāo wŏ yĭ zhèng, 9 fū zĭ 3 jiào zhě bì yĭ 11 уĭ

れず、之に継ぐに怒以てす、之に継ぐに怒以てすれば、則ち反て夷。 孟子曰く、勢行われざるなり、教えは必ず正以てす、正以て行わ 夫子我に教えるに正以てす、夫子未だ正に出でざるなり、 則

朱 注

道、10而夫子之身未必自行正道、 傷其子矣、7父旣傷其子、8子之心又責其父曰、9夫子教我以正 1 夷、 2傷也、3教子者、 4本爲愛其子也、5繼之以怒、6則反 11則是子又傷其父也、

daò, 11 zé shì zĭ yoù shāng qí fǔ yĕ, zhèng daò, 10 ér fū zǐ zhī shēn wèi bì zì xíng zhèng zĭ, 8 zĭ zhī xīn yoù zé qí fǔ yuē, 9 fū zĭ 5 jì zhī yǐ nù, 6 zé făn shāng qí zǐ yǐ, 7 fǔ jì shāng qí 1 yí, 2 shāng yĕ, 3 jiāo zĭ zhĕ, 4 bĕn wèi ài qí zĭ yĕ, jiāo wŏ yĭ

ける、子の心又其父を責めて曰く、夫子我に教えるに正道を以て 夷、傷なり、子に教えるは、本は其子を愛する爲なり、 又其父を傷つけるなり、 す、而るに夫子の身未だ必ずしも自ら正道を行わず、 に怒を以てすれば、則ち反て其子を傷つける、 父既に其子を傷つ 之に継ぐ

朱注訳

夷は傷である。 子に教えるのは、 もとは自分の子を愛するためで

子はその心の中でまた父を責めて思う。「父は私に正しい道を教 えた。父は自らは必ずしも正しい道を実行していない。」これは ある。教えて責めれば自分の子を傷つける。父は子を傷つけた。

子もまた父を傷つけるのである。

通し番号 443 章内番号3 章通し番号79 識別番号7 18

3

本

本

古者易子而敎之、

古は子を易えて之を教える、 1 gu zhě yì zĭ ér jiāo zhī,

(1)易う:換える - 3に「以小易大(小以て大に易う)」とある。 交換する 換、 易也(換、易なり) 通し番号40

朱

1易子而敎、 2所以全父子之恩、 3而亦不失其爲敎

shī qí wéi jiaò, 1 yì zǐ ér jiāo, 2 suŏ yǐ quán fǔ zǐ zhī ēn, 3 ér yì bù

子を易えて教えるは、 わざる所以なり、 父子の恩を全くして、 亦其教えを爲すを失

(1)恩:おもいやり に「父子主恩 (父子恩を主とす)」とある。 恩者仁也(恩は仁なり) 通し番号21 6

朱注訳

こともできるからである。

通し番号44 章内番号4 章通し番号79 識別番号7

18

4

1父子之閒不責善、 2責善則離、 3離則不祥莫大

xiáng mò dà yān, 1 fǔ zǐ zhī jiān bù zé shàn, 2 zé shàn zé ĭ, ယ lí zé bù

からざるは焉より大なるは莫し、 父子の間は善を責めず、善を責めれば則ち離る、 離るれば則ち祥

(2) 焉:これ (1)祥し:よい 好む者有れば、 Ħれば、下必ず焉より甚だしき者有り)」とある。通し番号279-21に「上有好者、下必有甚焉 祥、善也(祥、 善なり) 下必有甚焉者

注

10 巨 謂爭者、7非責善也、8當不義則爭之而已矣、9父之於子也如何、 1 責善、 11當不義、 2朋友之道也、 12則亦戒之而已矣、 3○王氏曰、 4父有爭子、 5何也、6所

1 zé shàn, 2 péng yoù zhī daò yĕ, 3 o wáng zhī yuē, 4 fǔ yoǔ zhēng zǐ, 5 hé yĕ, 6 suǒ wèi zhēng zhě, ~1 feī

zhī ér yĭ yĭ, zhī yú zǐ yẽ rú hé, 10 yuē, 11 dāng bù yì, zé shàn yẽ, 8 dāng bù yì zé zhēng zhī ér yĭ yĭ, 9 fǔ 12 zé Yì

之を争めるのみ、父の子に於けるや如何、曰く、不義に当れば、 則ち亦之に戒ぐるのみ、 善を責むるは、 謂う所の争は、善を責むるに非ざるなり、不義に当れば則ち 朋友の道なり、 ○王氏曰く、父に争子有り、 何ぞ

(1)父争子有り:孝経にある言葉である。孝経には「父有爭子、 ち身不義に陥らず、故に不義に当れば、則ち子以て父に争めざ陷於不義、故當不義、則子不可以不爭於父(父争子有れば、則子有り:孝経にある言葉である。孝経には「父有爭子、則身不 るべからず)」とある。

争、 諫也(争、 諫なり)

(3) 戒ぐ:告げる 番号8-2に「大戒於國 (大いに国に戒ぐ)」とある。 戒、警也、告也(戒、警なり、告なり)) 通し

朱注訳

子ありとはどういうことか。諫めるというのは、善を責むること 善を責めるのは、 あるべきか。 でない。不義に当ると諫めるだけである。父は子に対してはどう 不義に当ると子に言うだけである。 友人の間の道である。王氏は言う。父に諫める

すれば、 がよいようなイメージがある。子供が少しでも間違ったことを 厳父慈母という言葉があるように、父は子に対して厳しい 厳しく叱責するのが、よいしつけのように考えられて 0

> 章番号19 る。父子の間で一番大事なものは愛情である。愛情を損なわな うなことをすれば、親子関係が大きく破綻し大きな不幸が訪れ という西洋の諺はまったくの間違いである。子供を鞭で打つよ 接することは決して子供を甘やかすことでない。Spare the だけ子供に注意する。孟子のここの指摘は一般的に信じられて ば愛を損うからである。不義と言える大きな過ちがあった時に rod and spoil the child. (鞭を惜しむと、子供はだめになる) いる。しかし孟子は父は子に善を責めないと言う。善を責めれ い家庭教育なのである。 いる家庭教育に大きな修正を迫るものである。子供にやさしく ために、小さな不善で子供をうるさく責めない。これが正し 通し番号45 448

本文訳

章通し番号80

章内番号1

いろあるが、 ことができた者を私は今まで聞いたことがない。尽すことにはいろ を私は聞いている。自分の義を失ってしまっているのに、 が大きいことである。自分の義を失わずに親に尽すことができた者 いことである。守ることで何が大きいことか。自分の義を守ること 孟子が言う。 親に尽すのが尽すことの本である。守ることにはいろ 自分の義を守るのが守ることの本である。 尽すことで何が大きいものか。 親に尽すことが大き 曽子が曽皙 親に尽す

256

子を換えて教えるのは、父子の間の思いやりを全くして、 教える

と可である。 0) のである。これはいわゆる体を養うことである。曽子のようにする かれると無いと答えた。曽子にそれを食べることを進めようとした 下げようとする時に誰に与えるか聞かなかった。余りがあるかと聞 曽皙が死に曽元が曽子を養った。曽元も必ず酒肉を出したが、 えるのか聞いた。余りがあるかと聞かれると、必ずあると答えた。 を養うには必ず酒肉を出した。膳を下げようとする時は必ず誰に与 心を養うと言うべきである。親に尽すのは曽子のようにする 膳を

通し番号445 章内番号1 章通し番号80 識別番号7. 19 1

本 文

5守身為大、6不失其身、 聞之矣、 1孟子曰、 9失其身、 2事孰爲大、 10而能事其親者、 3事親爲大、 7而能事其親者、 4守孰為大、 11吾未之聞 8吾

1 mèng zĭ qí shēn, 10 ér néng shì qí qìng zhě, 11 wú wèi zhī wén shēn, 7 ér néng shì qí qìng zhě, 8 wú wén zhī yĭ, 9 shī 4 shoŭ shú wéi dà, 5 shoǔ shēn wéi dà, yuē, 2 shì shú wéi dà, 3 shì qìng wéi dà 6 bù shī qí

孟子曰く、 事える孰れか大と爲す、親に事える大と爲す、 守る孰

> 者は、吾未だ之を聞かざるなり、 に事える者は、吾之を聞く、其身を失ないて、 れか大と爲す、 身を守る大と爲す、其身を失わずして、能く其親 能く其親に事える

(1)身:自分 道以て身に殉わしむ、天下道無ければ、身以て道に殉わしむ)」「天下有道、以道殉身、天下無道、以身殉道(天下道有れば、自分 我 身、我也(身は我なり) 通し番号912-2に

朱 注

辱親、 6雖日用三牲之養、7亦不足以爲孝矣、

sān shēng zhī yăng, 7 yì bù zú yĭ wéi xiào yĭ, yĕ, 4 yī shī qí shēn, 5 zé kuī tǐ rữ qìng, 6 suī rì 1 shoù shēn, 2 chí shoù qí shēn, 3 shǐ bù xiàn yú bù yì yòng

ると雖も、 亦以て孝と爲すに足らず、

(1)虧う:そこなう 塞し間無し)」とある。 作爲して以て之を害する所無ければ、則ち其本体虧けずして充 10朱注に「而又無所作爲以害之、則其本體不虧而充塞無閒矣(又 かく 虧、損也(虧、 損なり) 通し番号153

②日に三牲の養を用いると雖も:これは『孝経』に出てくる。 り)」とある。 の除かざれば、 では「三者不除、 日に三牲の養を用いると雖も、 雖日用三牲之養、猶爲不孝也 猶不孝と爲すな

1 守身、 2持守其身、 3 使不陷於不義也、 4一失其身、 5則虧體

其身を失えば、則ち体を虧い親を辱める、 身を守るは、其身を持守し、不義に陥らざらしめるなり、一たび 日に三牲の養いを用い

(三なるも

(3) 三牲:牛、 (牛、羊、豕を牲と曰う) 豕 この場合はご馳走のこと 失 美 豕、 日牲

朱注訳

身を守るは、その身を守り不義に陥らないようにする。一たび身 お不孝である。 を失うと体をそこない親を辱める。牛、羊、豚で親を養うともな

朱注訳

(1)済う:ととのう

整也(斉、

整なり

通し番号446 章内番号2 章通し番号80 識別番号7 19 2

治まる。

ては順になる。

自分が正しいと、家が整い、

国が治まり、

天下が

年上の者に対し

親に尽して孝であれば、君に対しては忠になり、

5守身、 孰不為事、 6守之本也、 2 事親、 3事之本也、 4孰不為守

1 shú bù wéi shì, 2 shì qìng, 3 shì zhī bĕn yĕ, 4 shú wéi shoŭ, 5 shoŭ shēn, 6 shoŭ zhī běn yě, bù

孰れか事えると爲さざらん、親に事えるは、事えるの本なり、 れか守ると爲さざらん、身を守るは、守るの本なり、

朱

6國治、 事親孝、 7而天下平、 2則忠可移於君、 3順可移於長、 4身正、5則家齊、

1 shì qìng xiào, 2 zé zhōng kẽ yí yú jūn, 3 shùn kẽ yí xià píng, yú zhăng, 4 shēn zhèng, 5 zé jiā qí, 6 guó zhì, 7 ér tiān

身正しければ、 親に事え孝なれば、則ち忠は君に移るべし、 則ち家斉い、 国治まりて、天下平らかなり、 順は長に移るべし、

文

若曾子、 日亡矣、 9必有酒肉、10將徹、 5問有餘、 1曾子養曾晳、 17則可謂養志也、 14將以復進也、15此所謂養口體者也、 6必日有、 2必有酒肉、 7曾皙死、8曾元養曾子、 11不請所與、 3 將徹、 12問有餘、 4必請所與 13 16

zhì yĕ, yăng koŭ tĭ zhě yĕ, xī sǐ, 8 céng yuán yăng céng zǐ, 9 bì yoǔ jiǔ ròu, 4 bì qĭng suŏ yŭ, 5 wèn yoŭ yú, 6 bì yuē yoŭ, 7 1 céng zĭ yăng céng xī, 2 bì yoŭ jiŭ ròu, 3 jiāng chè 13 yuē wáng yĭ, 14 jiāng yĭ fù jìn yĕ, 15 cĭ suŏ wèi 10 jiāng chè, 11 bù qĭng suŏ 16 ruò céng zĭ, 17 zé kĕ

章通し番号80

識別番号7

19

3

yŭ, 12 wèn yoŭ yú, céng

曽子が曽皙を養う、必ず酒肉有り、将に徹せんとし、必ず与える と謂うべきなり、 が曽子を養う、必ず酒肉有り、将に徹せんとし、与える所を請わ 所を請う、余有るやを問えば、必ず有りと曰う、曽晳死す、曽元 り、此謂う所の口体を養う者なり、曽子の若きは、則ち志を養う 余有るやを問えば、亡しと曰う、将に以て復進めんとするな

徹す:取り去る 亡、無也(亡、無なり) . 除なり)

而饋孔子蒸豚(陽貨孔子の亡きを矙いて孔子 通し番号354 6に「陽

食必有酒肉、13食畢將徹去、14必請於父曰、15此餘者與誰、 但能養父母之口體而已、24曾子則能承順父母之志、25而不忍傷之 父問此物尙有餘否、17必曰有、18恐親意更欲與人也、19曾元不請 7名點、8曾子父也、9曾元、10曾子子也、 養、 2去聲、3復、 20雖有言無、21其意將以復進於親、22不欲其與人也、 4扶又反、5○此承上文事親言之、6曾皙、 11曾子養其父、 12 每 16 或

shàng wén shì qìng yán zhī, 6 céng xī, 7 míng diăn, 1 yăng, 2 qù shēng, 3 fù, 4 fú yoù făn, 5 \circ 11 céng zĭ yăng qí fǔ, 12 měi shí bì yoǔ jiǔ ròu, 13 shí bì jiāng chè qù, 14 bì qĭng yú fǔ yuē, 15 cĭ yú zhĕ yǔ céng zĭ fŭ yĕ, 9 céng yuán, 10 céng zĭ zĭ cĭ chéng yĕ,

> chéng shùn fũ mũ zhī zhì, 25 ér bù rĕn shāng zhī yĕ, yăng fǔ mǔ zhī koǔ tǐ ér yǐ, 24 céng zǐ yoù, 18 kŏng qìng yì gēng yù yǔ rén yĕ, 19 céng yuán shéi, 16 huò fǔ wèn cǐ wù shàng yoǔ yú pǐ, 17 bì yuē fù jìn yú qìng, 22 bù yù qí yǔ rén yĕ, 23 cĭ dàn néng bù qĭng suŏ yŭ, 20 suī yoŭ yán wú, 21 qí yì jiāng yĭ 復、扶又反、○此は上文の親に事えるを承け、 之を言

父母の志に承順して、之を傷つけることを忍びざるなり、 を欲せざるなり、此但能く父母の口体を養うのみ、 しと言う、其意将に以て復親に進めんとし、 否やを問うこと或れば、必ず有りと曰う、恐らくは、親の意更に 必ず父に請いて曰く、此余りは誰に与えん、父此物尚余り有るや 父を養うは、食の毎に必ず酒肉有り、食畢り将に徹去せんとす、 う、曽晳、名は点、曽子の父なり、曽元、曽子の子なり、曽子其 人に与えんと欲するなり、 曽元与える所を請わず、 其を人に与えること 曽子則ち能く 有ると雖も無

- 去声:現代中国語では yǎngと第三声(上声)に発音するため、 第三声でピンインをつける
- (2) 罪る:終わる とある。 「公事畢、然後敢治私事(公事畢る、然る後敢て私事を治む)」 畢、終也(畢、終なり) 通し番号299-6に
- (3)更に:さらに 道無し)」とある。 号393-5朱注に「二端之外、更無他道(二端の外、更に他の 更、再也、復也(更、再なり、復なり)

養は去声である。復は扶又反である。これは前文の親に尽すこと ると答えた。おそらく親はさらに人に与えようと思っていたのだ ものは誰に与えましょうか。」父が余りがあるかと聞くと必ずあ 食事が終わり膳を下げようとする時、必ず父に尋ねた。「余った である。曽子がその父を養うのは、食のたびに必ず酒肉を出した。 を受けて言う。曽晳は名は点で曽子の父である。曽元は曽子の子 の心を傷つけるのが忍びないのである。 れは父母の体を養っているだけだ。曽子は父母の心に従い、父母 いと言った。親にまた進めようと考え人に与えたくなかった。こ 曽元は誰に与えるのかを聞かなかった。余りがあってもな

通し番号448 章内番号4 章通し番号80 識別番号7 19 4

本

事親若曾子者、 2可也

親に事えること曽子の若き者は、可なり、 1 shì qìng ruò céng zĭ zhě, 2 kẽ yẽ

可謂至矣、 身所能爲者、 言當如曾子之養志、2不可如曾元但養口體、3程子曰、4子之 9而孟子止曰可也、 5皆所當爲、6無過分之事也、7故事親若曾子、 10豈以曾子之孝爲有餘哉、 8

> yoŭ yú zāi, mèng zĭ zhĭ yuē kĕ yĕ, 10 qĭ yĭ céng zĭ zhī xiào wéi shì yẽ, 7 gù shì qìng ruô céng zĭ, 8 kẽ wèi zhì yĭ, 9 ér suǒ néng wéi zhě, 5 jiē suǒ dāng wéi, 6 wú guò fēn zhī yuán dàn yăng koŭ tǐ, 3 chéng zǐ yuē, 4 zǐ zhī shēn 1 yán dāng rú céng zĭ zhī yăng zhì, 2 bù kẽ rú céng

と曽子の若くして、至れると謂うべし、而るに孟子止可と曰うな 爲すべき所にして、 如くすべからず、程子曰く、子の身能く爲す所のものは、 言えらく、当に曽子の志を養う如くすべし、曽元の但口体を養う 豊曽子の孝以て余有りと爲さんや、 分に過ぐるの事無きなり、故に親に事えるこ 皆当に

- (1) 止: ただ 子止楊墨を闢く)」とある。 通し番号367-20朱注に「故孟子止闢楊墨 (故に孟
- (2)余:残り て掇拾す)」とある。 「今之禮書、皆掇拾於煨燼之餘(今の礼書は、皆煨燼の余に於 餘、殘也(余、残なり) 通し番号603-26朱注に

朱注訳

曽子が心を養うようにすべきであり、 言っているが、曽子の孝が足らない所があろうか。 曽子のようであれば、至れりと言うべきである。孟子はただ可と は、みななすべきであり、分に過ぎることはない。親に尽すのが してはいけないと言う。程子が言う。子がなすことができるもの 曽元がただ体を養うように

章番号20 章通し番号81

通し番号449

章内番号1

本文訳

まる。 、一でないと正しくないことはない。一たび人君を正すと国は治人でないと、人君の心の非を正すことはできない。人君が仁になれば、仁でないことはない。人君が表であれば、義でないことはない。大君が仁になれ

通し番号49 章内番号1 章通し番号81 識別番号7・20・1

本文

隻、7号E莫FE、3一E島市國足兵、大人為能格君心之非、5君仁莫不仁、6君義莫不1孟子曰、2人不足與適也、3政不足閒也、4惟

義、7君正莫不正、8一正君而國定矣、

I mèng zǐ yuē, 2 rén bù zú yǔ shì yĕ, 3 zhèng bù zú jiàn yĕ, 4 wéi dà rén wéi néng gé jūn xīn zhī feī, 5 jūn rén mò bù rén, 6 jūn yì mò bù yì, 7 jūn zhèng mò bù zhèng, 8 yī zhèng jūn ér guó dìng yǐ,

ざる莫し、君義なれば義ならざる莫し、君正なれば正ならざる莫なり、惟大人能く君心の非を格すことを爲す、君仁なれば仁なら孟子曰く、人は与て適むるに足らざるなり、政は聞るに足らざる

し、一たび君を正して国定まる、

ある。 に「不足與有爲可知矣(与て爲す有るに足らず、知るべし)」と()与て:與、猶以也(与、猶以のごときなり) 通し番号4-8朱注

(2)適む:谷める(朱注) 朱子はこの適と次の間を人君を咎め、謗ると取っている。しかし賢人を登用すること、よい政治をすること取っている。しかし賢人を登用すること、よい政治をすること、人君が仁で義になれば国は治まる、ただし人君を仁と義にするには、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。超注はに、大人の徳が必要である、と言っているのである。

部之(但言語以て間ること無くて之を卻く)」とある。 (3)間る:謗る(朱注) 通し番号612-4朱注に「但無以言語閒而

心を拡充し、其非心を格す所なり)」とある。 以擴充其善心、而格其非心(孟子が人君と言えば、皆以て其善以権す:正す(朱注) 通し番号引-36朱注に「孟子與人君言、皆所

朱注

格其君心之不正、24以歸於正、25而國無不治矣、26大人者、27大9非也、10格、11正也、12徐氏曰、13格者、14物之所取正也、159非也、16格其非心、17愚謂閒字上亦當有與字、18言人君用人之非、15元是過額、2音謫、3閒、4去聲、5○趙氏曰、6適、7過也、8閒、

德之人、28正己而物正者也、29○程子曰、30天下之治亂、31繫乎人君之仁與不仁耳、32心之非、33即害於政、34不待乎發之於外也、 其邪心、39心旣正、40而後天下之事可從而理也、41夫政事之失、 其邪心、39心旣正、40而後天下之事可從而理也、41夫政事之失、 其邪心、47後復有其事、48將不勝其更矣、49人人而去之、50 後復用其人、51將不勝其去矣、52是以輔相之職、53必在乎格君心 之非、54然後無所不正、55而欲格君心之非者、56非有大人之德、 57則亦莫之能也、

1 shì, 2 yīn zhí, 3 jiàn, 4 qù shēng, 5 \circ luàn, 31 jì hū rén jūn zhī rén yǔ bù rén ĕr, 32 xīn zhī 12 xú zhī yuē, 13 gé zhě, 14 wù zhī suŏ qu zhèng yĕ 36 mén rén yí zhī, 37 mèng zĭ yuē, zhèng zhě yě, 29 o chéng zĭ yuē, 30 tiān xià zhī zhì 26 dà rén zhě, 27 dà dé zhī rén, 28 zhèng jĭ ér wù bù zhèng, 24 yĭ guī yú zhèng, 25 ér guó wú bù zhì yĭ, zú guò zhé, 20 xíng zhèng zhī shī, 21 bù zú feī jiàn, dāng you yu zì, 18 yán rén jun yòng rén zhī feī, 19 bù 15 shū yuē, 16 gé qí feī xīn, 17 yú wèi jiàn zì shàng yì wéi yoǔ dà rén zhī dé, 23 zé néng gé qí jūn xīn zhī xī zhě mèng zĭ sān jiàn qí wáng ér bù yán shì, 33 jí hài yú zhèng, 34 bù dài hū fā zhī yú waì yě xīn, 39 7 guò yĕ, 8 jiàn, 9 feī yĕ, 10 gé, 11 zhèng yĕ, xīn jì zhèng, 40 ér hòu tiān xià zhī shì kĕ 38 wŏ xiān gōng qí zhaò zhī yuē,

cóng ér lǐ yế, 41 fū zhèng shì zhī shī, 42 yòng rén zhī feī, 43 zhī zhě néng gēng zhī, 44 zhí zhě néng jiàn zhī, 45 rán feī xīn cún yān, 46 zé shì shì ér gēng zhī, 47 hòu fù yoǔ qí shì, 48 jiāng bù shèng qí gēng yǐ, 49 rén rén ér qù zhī, 50 hòu fù yòng qí rén, 51 jiāng bù shèng qí qù yǐ, 52 shì yǐ fǔ xiàng zhī zhí, 53 bì zaì hū gé jūn xīn zhī feī, 54 rán hòu wú suǒ bù zhèng, 55 ér yù gé jūn xīn zhī feī zhě, 56 feī yoǔ dà rén zhī dé, 57 zé yì mò zhī néng yě,

む、 適、 政事の失、 を攻む、心既に正し、而して後天下の事従いて理すべきなり、夫になる。 に三見して事を言わず、門人之を疑う、孟子曰く、我先ず其邪心 於て害あり、之を外に発することを待たざるなり、 天下の治乱、 らざるを格し、以て正に帰す、而して国治らざること無し、大人 間するに足らず、惟大人の徳有れば、則ち能く其君の心の正しか らく、人君人を用いるの非、過謫するに足らず、政を行うの失、非 格、正なり、徐氏曰く、格は、物が正を取る所なり、書に曰く、其非 り、将に其更に勝えざらんとす、人人に之を去り、 なる者は、大徳の人、己を正して物正しき者なり、○程子曰く、 心を格す、愚謂えらく、間の字の上亦当に与の字有るべし、言え 音は謫、間、去声、○趙氏曰く、適、過なり、 然れども非心存すれば、則ち事事に之を更め、 将に其去に勝えざらんとす、 人を用いるの非、 人君の仁と不仁に繋がるのみ、心の非は、即ち政に 知者能く之を更め、直者能く之を諫 是を以て輔相の職は、 昔者孟子斉王 後に復其人を 後に復其事有 閒、非なり、 必ず君

4年という短い期間では、人に気に入られることをしようとし ちの利益になる政治をして、たくさん献金してもらおうとする。 するように有権者が気に入る政治をしようとする。また大金持 プになった者はどういう政治をするだろうか。次の選挙で当選 る。また選挙にはかなりの費用がかかる。こういう状況でトッ

国家百年の計に立った政治などはとてもできない。

いうのは必ず反対する者が出て来る。

河のここに橋をかけよう

政治と

亦之を能くすること莫きなり、 心の非を格さんと欲する者は、大人の徳を有つに非ざれば、 心の非を格すことに在り、然る後正しからざる所無し、 而して君 則ち

- 去声: てる」 と第一声(平声)である。 の意味の時も第四声になる。「あいだ」の意味の時は jiān 「謗る」の意味の時は jiàn と第四声 (去声)である。
- (2)過: 咎める 其心則何過哉(然れども其心則ち何を過めるかな)」とある。咎める 過、責也(過、責なり) 通し番号86-37朱注に 然
- 3)其非心を格す:周書の冏命にある。 非心:道でない心 心には道、道理の意味がある。
- 讁に作る) :そしる 非も間も「そしる」の意味がある。 謫、責也(謫、責なり)
- (7)繋がる:つながる 通し番号891-11朱注に「言人之居處、 譏なり) 閒、非也(間、 繋、因、皆連接也(繋、因、皆連接なり) 非なり) 所繋甚大(言えらく、
- (8) む:治める 注に「蓋因其本心之明、 人の居処、繋る所甚だ大なり)」とある。 ・ 理、正也(里、・・・ 現の其学ぶ所の蔽を攻む)」とある。以て其学ぶ所の蔽を攻む)」とある。以て其本心の明に因以の其が少ない。 過し番号323-12朱
- (10) (9)
- (11)勝える:勝、堪也(勝、 て其一分を取らんと欲す)」とある。 則王喜、 以爲能勝其任也(工師大木を得れば、 ・ 堪なり) 通し番号104-則ち王喜 師得

以て能く其任に勝えると爲すなり)」とある。

(6) (5)過適:せめる 或いは道に作る) がある。 とがめる 過、責也(過、責なり) 過も適も「せ 謫、或作讁(謫、 非者、譏也(非 心、或作道(心、 或の意味

む:改める 注に「欲更稅法、二十分而取其一分(稅法を更め、二十分:注に「欲更稅法、二十分而取其一分(稅法を更め、二十分:注。」 乗、改也(更、改なり) 通し番号772--二十分にし

また与の字があるべきである。次のように言う。人君が人を用い を取る。書経に言う。心の非を正す。私が思うに、間の字の上に 間は非である。格は正である。徐氏は言う。格は物が正しいもの 適は音は謫である。間は去声である。趙氏は言う。適は過である。 君を正しいものにする。人君の心が正しいと国は治まらないこと る非は責めるに足らない。政の失敗は謗るに足らない。ただ大人 である。 の徳があると、君の心の正しくないものを正すことができて、 大人は徳の大きい人であり、己を正し物が正しくなる者

君の心の非を正そうとする者は、大人の徳を持っていないとでき 思うと、孟子は言った。「私は王の邪心を正している。 程子は言う。 除き尽すことができない。だから君を補佐する職になれば、君の ることができる。しかし心に非があると、多くのことを改めても 敗、人を用いる非は、知者が改めることができ、 くなれば、天下のことはそれにより正すことができる。」政の失 子は斉王に三回会ったが、 ると、心の非が外に出てくるのを待たずに政に害がある。昔、孟 いるべきでない人を除いても、また用いるべきでない人を用いる。 また改めることが出て来る。改め尽すことができない。多くの用 天下の治乱は人君の仁と不仁にかかる。 君の心が正しくなれば、 政のことを言わなかった。門人が変に 正しくないものがない。 実直な者が諫め 心に非があ 心が正し

章番号21 きない。 とすれば、それより上流の人は、どうして自分の所にかけてく まらない。現代の制度ではトップは制度上正しくなることがで うな安定した地位がどうしても必要である。 ることができない。こういうことができるには、世襲の王のよ 選挙で選ばれる不安定なトップでは、人の反対を押し切ってす 基き、人の反対を押し切ってする人である。ところが4年毎に にかけてくれないのかと反対する。優れた指導者は遠慮深謀に れないのかと反対する。それより下流の人もどうして自分の所 や金持ちに媚ることだけをするようになる。 プを選ぶ制度では、安定した地位がないため、どうしても大衆 ップが正しければ国は治まる。トップが正しくなれば国は治 よって国が治まることはない。 章通し番号82 45O 孟子が言うように 現代の選挙でト ッ

選挙であり、 者がトップを選びそのトップが政治をするという体制になっ 満がつのる。その不満が爆発したのが市民革命である。 能な王でも逆らうと殺されるから従わざるを得ない。しかし金 はここの市民にならない。王制は世襲制である。王の子が王に 選んでいる。 補者は金が集まるように行動する。事実上裕福な者がトップ いかと言うかもしれない。しかし選挙には金が必要であり、候 た。これが現代の選挙でトップを選ぶ制度である。 のにどうしてこんな無能な王に従わなければならないのかと不 を持っている裕福な者は、自分のほうが王よりずっと能力ある なる。すると立派な王も出て来るが、無能な王も出て来る。無 お金持ちのことである。現代の平均的な収入のサラリーマンで うに思っている人が多いが、ここの市民は民衆のことでない フランス革命や名誉革命のような市民革命を民衆の革命のよ 裕福な者がトップを選んでいるのではないではな 現代は普通 裕福な

本文訳

通し番号

章内番号

現代では選挙でトップに選ばれても任期が4年くらいであ

ているのに謗られることがある。 孟子は言う。思いもよらずに誉められることがある。 全きを求め

265

通し番号450 章内番号1 章通し番号82 識別番号7・

21

1

本

文

孟子曰、 2有不虞之譽、 3有求全之毀

1 mèng zĭ yuē, 2 yoŭ bù yú zhī yù, 3 yoŭ qiú quán zhī

孟子曰く、虞らざるの誉有り、 全きを求めるの毀り有り

虞る:はかる

(2) 鷺: ほめられること (集者) - 7朱注に「好名之人、矯情干譽(名を好むの人は、情を矯り誉はめられること 譽、稱也(誉、称なり) 通し番号941 を干む)」とある。

毀り:謗り 者は、礼義の美と爲すを知らずして之を非毀す)」とある。に「自害其身者、不知禮義之爲美而非毀之(自ら其身を害する 毀、 **誇也(毀、謗なり)** 通し番号422-5朱注

朱

之言、 不虞之譽、7求免於毀、8而反致毀、9是謂求全之毀、10言毀譽 15不可以是輕爲進退、 11未必皆實、12脩己者、13不可以是遽爲憂喜、 2度也、 3呂氏曰、 4行不足以致譽、 14觀人者、 6是謂

5 ér ŏu dé yù, 6 shì wèi bù yú zhī yù, huĭ, 8 ér făn zhì huĭ, 9 shì wèi qiú quán zhī huĭ, 1 yú, 2 dù yĕ, 3 lǚ zhī yuē, 4 xíng bù zú yĭ zhì yù 10 yán huĭ yù zhī yán, 11 wèi bì jiē shí, 12 xiū jĭ zhě 7 qiú miăn yú

> kẽ yĩ shì qīng wéi jìn tuì, 13 bù kẽ yĩ shì jù wéi yoū xĩ, 14 guàn rén zhě, 15 bù

らず、 憂喜を爲すべからず、 未だ必ずしも皆実ならざるを言う、 るに反て毀を致す、是れ全きを求めるの毀りと謂う、 を得る、是れ虞らざるの誉と謂う、 虞、度なり、 呂氏曰く、 人を観るは、 行以て誉を致すに足らず、 毀りを免れることを求む、 是を以て軽く進退を爲すべか 己を脩めるは、 是を以て遽に 而るに偶誉 毀誉の言、

(1) 偶:たまたま (孟子の言、 豊に偶然るのみかな)」とある 通し番号33-45朱注に 「孟子之言、 **豈偶然而已哉**

(2) 邊に:にわかに (然れども或者其本を脩めずして、遽に之に勝たんと欲せば、注に「然或者不脩其本、而遽欲勝之、則未必能勝、而適以取界 す)」とある。 則ち未だ必ずしも勝つこと能わずして、適に以て禍を取らんと 遽、疾 遽、 疾なり) 則未必能勝、而適以取禍 通し番号4

朱注訳

これを全きを求めるの毀りと言う。ほめたり誇ったりする言葉は 誉だけで軽々しく人を進めたり退けたりしてはいけない。 毀誉ですぐに憂えたり喜んだりしてはいけない。人を見るのは毀 必ずしも実に当たるものでないことを言う。己を修めるのは人の られないようにすることを求めているのに、かえって謗られる。 虞は度である。呂氏は言う。 いのに、誉を受けることがある。これを虞らざるの誉と言う。謗 していることは誉を受けるほどでな

章番号22 章通し番号83 通し番号451 章内番号1

本文訳

からである。 孟子は言う。 人が軽々しく言うのは、 それを実行しようとしな

通し番号451 章内番号1 章通し番号83 識別番号7 22 • 1

孟子曰、 2人之易其言也、 3無責耳矣、

孟子曰く、人の其言に易かなるは、責無きのみ、 a wú zé ĕr zhī yì qí yán yĕ, 3 wú zé ĕr уĭ,

(1)易か:おろそか て害あるは決然として易かにすべからざるを知ること此の如 朱注に「又知其害於政事之決然而不可易者如此(又其政事に於 し)」とある。 易、忽也(易、忽なり) 通し番号157-35

②責:負債 言ったことを後に実行するのを負債としている。 債之本字、義實相通、言人若持左券、責於其後、則必不能易言 易かにすること能わず、惟此無し、故に人多く言を易かにする 言えらく、 矣、惟無此、 左券:割符の左半分) 人若し左券を持ち、其後に責あれば、則ち必ず言を 故人多易言也(責は、債の本字、義は実に相通ず、 (中井履軒)

朱

子之學、 耳、5蓋常人之情、6無所懲於前、7則無所警於後、8非以爲君 2去聲、3○人之所以輕易其言者、 9必俟有責、 10而後不敢易其言也、 4以其未遭失言之責故 11然此豈亦有爲而言

zé, 10 ér hòu bù găn yì qí yán yĕ, 11 rán cĭ qĭ jĭng yú hòu, rén zhī qíng, 6 wú suŏ chéng yú qián, 7 zé wú suŏ zhě, 1 yì, 2 qù shēng, 3 4 yĭ qí wèi zaō shī yán zhī zé 8 feī yĭ wéi jūn zĭ o rén zhī suŏ zhī xué, 9 bì sì уĭ gù ĕr, 5 qīng yì gaì cháng qí yán yì yoŭ

亦爲にすること有りて之を言うか、 後敢えて其言を易かにせざるを爲すに非ざるなり、 則ち後に警える所無し、以て君子の学は、必ず責有るを俟ちて、 ざる故を以てするのみ、 易、去声、○人の其言を軽易する所以は、 wèi ér yán zhī yú, 蓋し常人の情、 前に懲れる所無ければ、 其未だ失言の責に遭わ 然れば此は豊

(1)軽易:軽くおろそかにする 易は「おろそか」の意味がある。 忽也(易、忽なり) 易、

(2)懲れる:恐れる 警、戒也 懲、恐也(懲、 恐なり

(3)警える:備える

(4) 俟つ:待つ ら化するを俟つを謂うなり)」とある。 に「養、謂涵育薫陶、俟其自化也(養は涵育薫陶し、 俟、待也 (俟、待なり) 通し番号47 其自ず 7-5朱注 か

(5) 豊: それ 発語の辞 し番号277-21朱注に 贵 「豈曾子嘗誦之、以告其門人歟(豈曽子 猶其也 (豊、猶其のごときなり)

嘗て之を誦い、以て其門人に告ぐるか)」とある。

朱注訳

軽々しくしないのではない。これは何かのために言ったのだろう に備えない。君子の学は失言を責められることがあるから言を 易は去声である。 たことがないからである。凡人は前に恐れることがないと、後ろ 人が言葉に軽々しいのは、まだ失言を責められ

章番号23 章通し番号84 通し番号452 章内番号

本文訳

孟子は言う。

人の病気は好んで人の師となることである。

通し番号452 章内番号1 章通し番号84 識別番号7・ 23 1

孟子曰、 2人之患、 3在好為人師

孟子曰く、人の患、好んで人の師と爲ることに在り、 1 mèng zĭ yuē, 2 rén zhī huàn, 3 zaì haò wéi rén shī,

①人の師となるのがよくないと言っているのでない。好んで人の師と なることはよくないと言っているのである。病根は「好んで」

朱 注

貪なり)) (中井履軒)

人の師と爲るべくして師と爲る、亦何の害ぞ 吝、

患也、 而應之可也、7若好爲人師、 1好、2去聲、3○王勉曰、 8則自足而不復有進矣、 4學問有餘、 5人資於己、 9此人之大 6不得已

rén zhī dà huàn yĕ, haò wéi rén shī, 8 zé zì zú ér bù fù yoŭ jìn yĭ, 9 cĭ yú, 5 rén zī yú jǐ, 6 bù dé yǐ ér yīng zhī kĕ yĕ, 7 ruò 1 haò, 2 qù shēng, 3 \circ wáng mi
ăn yuē, 4 xué wèn yoŭ

ら足りて復進むこと有らず、 て之に応ずるは可なり、若し人の師と爲ることを好めば、 好、去声、○王勉曰く、 学問余有り、 此は人の大患なり、 人己に資る、 已むを得ずし 則ち自

(1)資る:取る に「不資其勢而利其有(其勢を資らずして其有を利とす)」とある:取る 資、取也(資、取なり) 通し番号605-9朱注 る。 取也(資、取なり)

朱注訳

取ろうとするなら、やむを得ずにそれに応じるのは可である。人 は人の大患である。 の師になることを好めば、自らに満足して進むことがない。これ 好は去声である。王勉は言う。己の学問に余りがあり、 人が己に

章番号24 章通し番号85 通し番号45~455 章内番号1

本文訳

うのももっともだ。」楽正子が言う。「宿屋がまだ決まっていません 子が言う。「昨日です。」孟子が言う。「昨日来たのなら私がこう言 でした。」孟子が言う。「君は宿屋が決まってから師に会うと聞いて おっしゃるのですか。」孟子が言う。「君が来たのはいつだ。」楽正 いるのか。」楽正子は言う。「私に罪があります。」 「私にも会いに来たのか。」楽正子は言う。「先生はどうしてそう 楽正子は子敖に従い斉に行く。楽正子は孟子に会う。孟子は言う。

通し番号453 章内番号1 章通し番号85 識別番号7 24 1

本

楽正子子敖に従い斉に之く、 1 lè zhèng zǐ cóng yú zǐ

王驩の字なり、

1樂正子從於子敖之齊

áo zhī qí,

朱 注

1子敖、 2 王驩字、

1 zĭ áo, 2 wáng huān

子敖、

朱注訳

3

子敖、 王驩の字である。

通し番号454 章内番号2 章通し番号85 識別番号7・ 24 2

日、 13不亦宜乎、14日、15舍館未定、16日、 8日、9昔者、 1樂正子見孟子、 5先生何爲出此言也、6曰、7子來幾日矣、 18舍館定、 10日、 19然後求見長者乎、 2孟子曰、 11昔者、12則我出此言也、 3子亦來見我乎、 17子聞之

に見ゆるを求めるか、 館未だ定まらず、曰く、 何爲ぞ此言を出すや、 楽正子孟子に見ゆ、孟子曰く、 く、昔者ならば、則ち我此言を出すや、亦宜ならざるか、曰く、含 15 shè guăn wèi dìng, 16 yuē, 17 zĭ wén zhī yĕ, zhě, 12 zé wõ chū cĭ yán yě, 13 bù yì yí hū, 14 yuē, 6 yuē, 7 zĭ laí jĭ rì yĭ, 8 yuē, 9 xī zhĕ, 10 yuē, 11 xī jiàn wǒ hū, 4 yuē, 5 xiān shēng hé wéi chū cǐ yán yě, guăn dìng, 19 rán hòu qiú jiàn zhăng zhẽ hū, zhèng zĭ jiàn mèng zĭ, 2 mèng zĭ yuē, 3 zĭ yì laí 日く、子来る幾日ぞ、日く、昔者なり、 子之を聞くや、 子亦来り我に見うか、 舎館定まり、 日く、 然る後長者 18 shè

亦何害(好の字是れ病根なり、驕吝実ちて相長む、然らずしてにある。 好字是病根矣、驕吝實相長、不然可爲人師而爲師、

(1)亦:何かの用事があり来たついでに孟子の所にも行ったのである。 み、言えらく、楽正子別に営爲有るなり、而して亦来り我に見是れ他人が来り見い、樂正子亦来り見うなり、此は然らざるの緊接す、上の子の字と連ならず、若子の字と連なるものならば、 言樂正子別有營爲也、而亦來見我耳(亦の字、下の来り見うと 字、若與子字連者、是他人來見、而樂正子亦來見也、此不然已、 くのを遅らせたのである。 をする時に孟子の所に行けばよいと楽正子は考え孟子の所へ行 所の近くで楽正子がしなければならない用事があり、その用事 本来なら孟子の所にすぐに行くべきなのだが、何か孟子がいる (中井履軒) 亦字、與下來見緊接矣、 不連上子

(2) 昔者:昨日 (朱注) 辞するに病を以ってする)」とある。 通し番号209-3に「昔者辭以病(昔者は

(3) 舍館:宿屋 以て館を仮るべし)」とある。 舍 (中二十畝以て廬舍と爲す)」とある。 行所解止之處(舍、行き解止する所の処なり 休止と同義なり)) 旅館 舍にも館にも「宿屋」の意味がある。 通し番号286-31朱注に 可以假館(交は鄒君に見えることを得ば、 館、舍(館は、舍なり)(通し番号 通し番号731-2 「中以二十畝爲廬 解、 與休止同義

(4)長者:師 此長者は師を以て云えり(中村惕斎

朱

以此責之、 身之罪大矣、 8孟子所不與言者、9則其人可知矣、10樂正子乃從之行、11其失 長 2上聲、 12又不早見長者、 3○昔者、 4前日也、 13則其罪又有甚者焉、14故孟子姑 5 館、 6客舍也、 7王驩、

> yŭ yán zhě, 9 zé qí rén kẽ zhī yĭ, 10 lè zhèng zĭ năi 5 guăn, 6 kè shè yĕ, 7 wáng huān, 8 mèng zĭ suŏ bù 1 zhăng, 2 shàng shēng, 3 \circ 14 gù mèng zĭ gū yĭ cĭ zé zhī, zaŏ jiàn zhăng zhě, 13 zé qí zuì yoù yoǔ shèn zhě yān, cóng zhī xíng, 11 qí shī shēn zhī zuì dà yĭ, 12 yoù bù xī zhě, 4 qián rì yĕ,

其身を失うの罪大なり、又早く長者に見えず、 わざる所の者なり、則ち其人知るべし、楽正子乃ち之に従い行く、 しきもの有り、故に孟子姑く此を以て之を責む、 前日なり、 館、客舍なり、 王糠がん 則ち其罪又に甚だ 孟子与に言

(2)身:自分 す)」とある。 「守孰爲大、 我 守身爲大(守る孰れか大と爲す、 身、 我也 (身は我なり) 通し番号445-4に 身を守る大と爲

(4) 姑く:しばらく (3) 文に:さらに 山、蓋し魯の城東の高山なり、 861-2朱注に「東山、蓋魯城東之高山、 又、猶更也(又、猶更のごときなり) 姑、且也(姑、且なり) 太山は則ち又に高し)」とある。 通し番号321 而太山則又高矣(東

35

朱注に「但其施之之序、姑自此始耳(但其之を施すの序、姑く 此自り始めるのみ)」とある。

朱注訳

子は子敖に従って行った。これは自分の身を失っており、 子が話をしない人だからその人となりは知ることができる。楽正 長は上声である。 昔者は前日である。 館は宿屋である。 王驩は孟 その罪

だから孟子はこのように責める。 は大きい。さらに早く師に会わなければ、その罪はさらに大きい

其れ能く是の若きか、世強弁して非を飾り、

諫を聞き愈甚だし

き者有り、又楽正子の罪人なり、

①勇:意志の果敢なこと

勇、

志之所以敢也

(勇、

志の以て敢なる

通し番号455 章内番号3 章通し番号85 識別番号7·24 3

(2) 意:ますます

所なり)

注に「順而爲之辭、則其過愈深矣(順いて之が辞を爲せば、

愈、益也(愈、益なり)

通し番号244

--11 朱

則

ち其過ち愈深し)」とある。

本 文

日、 2克有罪

l yuē, 2 kè yoŭ zuì,

日く、 克罪有り、

(1) 克:楽正子の名 克、樂正子名(克、楽正子の名)(通し番号127

又樂正子之罪人也、 善而篤信之、5其能若是乎、 | 陳氏曰、 2樂正子固不能無罪矣、3然其勇於受責如此、 6世有強辯飾非、7聞諫愈甚者、 **4**非好 8

rén yĕ, feī, 7 wén jiàn yù shèn zhě, 8 yoù lè zhèng zĭ zhī zuì xìn zhī, 5 qí néng ruò shì hū, 6 shì you qiang biàn shì 3 rán qí yŏng yú shòu zé 1 chén zhī yuē, 2 lè zhèng zĭ gù bù néng wú zuì yĭ, rú cǐ, 4 feī hào shàn ér dǔ

陳氏曰く、 るに勇なること此如し、善を好みて驚く之を信ずるに非ざれば、 楽正子固より罪無きこと能わず、然れども其責を受く

朱注訳

強弁して非を飾り、 ることが篤くないと、このようにすることができようか。 られそれをすぐに受ける志がこのようにある。善を好み善を信じ 陳氏は言う。楽正子はもとより罪がないことはない。 いう人は楽正子の罪人である。 諫言を受けてさらにひどくなる者がいる。こ しかし責め 世には

章番号25

章通し番号86

通し番号456

章内番号1

本文訳

ためだ。私は君が古の道を学んで飲食だけするとは思わなかった。」 孟子が楽正子に言う。「君が子敖に従って来たのは、ただ飲食の

通し番号456 章内番号1 章通し番号86

識別番号7·25·

1

本

文

孟子謂樂正子曰、 4我不意子學古之道、 2子之從於子敖來、 5而以餔啜也、 徒餔啜

5 ér yĭ bū chuò yĕ, 1 mèng zĭ wèi lè zhèng zĭ yuē, 2 zĭ zhī cóng yú zĭ áo laí, 3 tú bū chuò yĕ, 4 wŏ bù yì zĭ xué gŭ zhī daò,

孟子楽正子に謂いて曰く、子の子敖に従い来るは、 我は、子が古の道を学びて、以て餔啜すると意わざるなり、 徒舗啜する

(2) (1) 意う: 思う: 思う 餔が食で啜が飲(朱注)

・・艮・・ 意 民念也(意 思念なり) 通し番号613-39・・艮・・ 意 民念也(意 思念なり) 通し番号613-39 爲すのみ)」とある。 意、思念也 (意、思念なり) 通し番号61

而切責之、 也、9啜、 2博孤反、 10飲也、 3 啜、 11言其不擇所從、12但求食耳、13此乃正其罪 4昌悅反、5○徒、 6但也、

bù zé 6 dàn yế, 7 bũ, 8 shí yế, 9 chuỏ, 10 yĩn yế, 11 yán qí $1\ \mathrm{b\bar{u}},\ 2\ \mathrm{b\acute{o}}\ \mathrm{g\bar{u}}$ făn, $3\ \mathrm{chu\acute{o}},\ 4\ \mathrm{ch\bar{a}ng}$ yu
è făn, 5zuì ér qiè zé zhī, suǒ cóng, 12 dàn qiú shí ĕr, 13 cĭ năi zhèng qí 0 tú,

> 餔、 ち其罪を正して切に之を責む、 り、言えらく、其従う所を択ばざるは、但食を求めるのみ、 博孤反、啜、昌悦反、○徒、但なり、 餔、食なり、 啜、 飲な 此乃

朱注訳

餔は博孤反である。啜は昌悦反である。徒は但である。 けであると言う。これはその罪を正して切に責める。 ある。啜は飮である。 従う所を択ばないのは、 ただ食を求めるだ 餔は食で

育を受けたのである。単に飲食のために教育を受けることが 料のために会社に就職するなら、 学校、高校、大学と十二年以上の教育を受けて来た。それで給 る。会社に就職する前に長い間教育を受けて来た。小学校、中 めに就職するなら、これは飲食のために就職したのと同じであ あってはならないはずである。 から高給を出せばたくさんの人がやって来る。 会社に就職するのは給料をもらうのが これは飲食のために長い間教 *一つの しかし給料のた 目的である。

章番号26 章通し番号87 通し番号45~458 章内番号1

本文訳

子は告げたようなものだとする。 である。舜が親に告げずに娶ったのは子孫が絶えるためである。君 孟子は言う。不孝に三つある。子孫が絶えるのが一番大きな不孝

通し番号457 章内番号1 章通し番号87 識別番号7 26 1

1孟子曰、 2不孝有三、3無後爲大、

孟子曰く、 1 mèng zĭ yuē, 2 bù xiào yoŭ sān, 3 wú hòu wéi dà, 不孝に三有り、 後無き大と爲す、

也、 1趙氏曰、 11三也、12三者之中、13無後爲大、 6家貧親老、7不爲祿仕、8二也、9不娶無子、 2於禮有不孝者三事、 3謂阿意曲從、 4陷親不義、5 10絶先祖

ā yì qū cóng, 4 xiàn qìng bù yì, 5 yī yĕ, 6 jiā pín qìng 1 zhaò zhī yuē, 2 yú lĭ yoǔ bù xiào zhě sān shì, 3 wèi xiān zǔ sì, 11 sān yĕ, 12 sān zhĕ zhī zhōng, 13 wú hòu laŏ, 7 bù wéi sì shì, 8 èr yĕ, 9 bù qŭ wú zĭ, 10 jué

wéi dà,

2

親を不義に陥れるは、一なり、家貧しく親老い、禄仕を爲さざる なるものの中で、後無きを大と爲す、 は、二なり、娶らずして子無く、先祖の祀を絶つは、 趙氏曰く、礼に於て不孝は三事有り、謂えらく、意に阿り曲従し、 三なり、

(1) 阿る:おもねる とも、必ず私の好む所に阿りて之を空誉せず)」とある。朱注に「假使汙下、必不阿私所好而空譽之(仮に汙下ならしむ 隨也(阿、 随なり) 通し番号1

(2)禄仕:禄のために仕える

朱注訳

趙氏は言う。 の中で子がないことを一番大きな不孝とする。 結婚しないで子がなく先祖を祭ることが絶えることである。三つ ているのに、仕えて禄をもらおうとしないことである。三つめは 従い親を不義に陥れることである。二つめは家が貧しく親が老い 礼においては不孝は三つある。 一つは親におもねり

通し番号458 章内番号2 章通し番号87 識別番号7 26 2

本

舜不告而娶、 2為無後也、 3君子以爲猶告也、

1 shùn bù gaò ér qu, 2 wèi wéi yóu gaò yĕ, wú hòu yĕ, 3 jūn zĭ уĭ

と爲すなり、と爲すなり、後無き爲なり、君子以て猶告ぐるがごとき

5

1為無之爲、2去聲、3○舜告焉、4則不得娶、5而終於無後矣、6告者禮也、7不告者權也、8猶告、9言與告同也、10蓋權而得中、11則不離於正矣、12○范氏曰、13天下之道、14有正有權、15正者萬世之常、16權者一時之用、17常道人皆可守、18權非體道者、正者萬世之常、16權者一時之用、17常道人皆可守、18權非體道者、15不能用也、20蓋權出於不得已者也、21若父非瞽瞍、22子非大舜、23而欲不告而娶、24則天下之罪人也、

1 wèi wù zhī wèi, 2 qù shēng, 3 o shùn gaò yān, 4 zé bù dé qũ, 5 ér zhōng yú wú hòu yǐ, 6 gaò zhě lǐ yĕ, 7 bù gaò zhě quán yĕ, 8 yóu gaò, 9 yán yǔ gaò tóng yĕ, 10 gaì quán ér dé zhòng, 11 zé bù lí yú zhèng yǐ, 12 o fàn zhī yuē, 13 tiān xià zhī daò, 14 yoǔ zhèng yoǔ quán, 15 zhèng zhĕ wàn shì zhī cháng, 16 quán zhĕ yī shí zhī yòng, 17 cháng daò rén jiē kĕ shoǔ, 18 quán feī tǐ daò zhĕ, 19 bù néng yòng yĕ, 20 gaì quán chū yú bù dé yǐ zhĕ yĕ, 21 ruò fǔ feī gǔ sŏu, 22 zǐ feī dà shùn, 23 ér yù bù gaò ér qǔ, 24 zé tiān xià zhī zuì rén yĕ,

同じを言うなり、蓋し権にして中るを得れば、則ち正から離れず、無きに終る、告ぐるは礼なり、告げざるは権なり、猶告は、告と為無の為、去声、〇舜告ぐれば、則ち娶ることを得ず、而して後

則ち天下の罪人なり、若父瞽瞍に非ず、子大舜に非ずして、告げずして娶らんと欲せば、いること能わざるなり、蓋し権は已むを得ざるものに出ずるなり、明の用、常道は人皆守るべし、権は道を体する者に非ざれば、用時の用、常道は人皆守るべし、権は一を持ちるでしている。

木注訳

為無の爲は去声である。舜が親に言えば娶ることができず子孫が爲無の爲は去声である。舜が親に言えば娶ることができる。権は一時には、正と権がある。常道は人はみな守ることができる。権は一時には、正と権がある。正は万世変わらないものである。権は一時には、正と権がある。正は万世変わらないものである。権は一時には、正と権がある。常道は人はみな守ることができる。権は道を得ている者でないと用いることができない。権はやむを得ないことから出て来る。父が瞽瞍で子が舜でないのに、親に告げずに娶るうとすれば天下の罪人である。

ある。私たちの今の社会では、自分が楽しく暮らすことが重んが減少しようとしている。女性が働いても安心して出産できるが減少しようとしている。女性が働いても安心して出産できるがしまっとしている。女性が働いても安心して出産できるがします。 現代日本は出生率の低下に苦しんでいる。子供が少なく人口

じられている。おいしいものを食べ、よいものを着て、よい家 良な者は結婚せよ」とあり、結婚を重んじる考え方がある。こ 落ちるのである。イスラム圏は出生率が高い。コーランには「善 は大変な親不孝だという考え方は微塵もない。それで出生率が 考え方だと子供は邪魔なのである。子供を育てるには手間がか に住み、おもしろおかしく一日を過そうとしている。そういう ないのは、 の考え方が出生率が高い一因になっているのだろう。「子孫が らない。現代の日本には、孟子の頃のような子孫を絶やすこと いものを食べることもよいものを着ることも減らさなければな かかる。だから子供がおれば、自分が使えるお金が減り、 かるから、 日本の出生率の向上は望みにくい。 自分の時間を奪われる。子供は教育費がずいぶんと 大きな親不孝だ」という考え方がまた復活しない うま 限

に舞う。

通し番号45 章内番号1 章通し番号88 識別番号7・27

1

本 文

從兄是也、1孟子曰、2仁之實、3事親是也、4義之實、5

1 mèng zǐ yuē, 2 rén zhī shí, 3 shì qìng shì yĕ, 4 yì zl shí, 5 cóng xiōng shì yĕ,

孟子曰く、仁の実、親に事える是れなり、義の実、兄に従う是れ

章番号27 章通し番号88 通し番号45~40 章内番号1~2

本文訳

か。やめることができないなら、知らずに足がこれを踏み手がこれである。楽しめば生じる。生じればどうしてやめることができようとである。智の実はこの二つを知って去らないことである。礼の実孟子は言う。仁の実は親に尽すことである。義の実は兄に従うこ

朱油

意亦猶此也、 自心之發、9最爲切近而精實者、10有子以孝弟爲爲仁之本、11其 自心之發、9最爲切近而精實者、10有子以孝弟爲爲仁之本、11其 5故仁義之道、6其用至廣、7而其實不越於事親從兄之閒、8蓋 1仁主於愛、2而愛莫切於事親、3義主於敬、4而敬莫先於從兄、

1 rén zhǔ yú ài, 2 ér ài mò qiè yú shì qìng, 3 yì zhǔ yú jìng, 4 ér jìng mò xiān yú cóng xiōng, 5 gù rén yì zhī daò, 6 qí yòng zhì guǎng, 7 ér qí shí bù yuè yú shì qìng cóng xiōng zhī jiān, 8 gaì liáng xīn zhī fā, 9 zuì wéi qiè jìn ér jīng shí zhě, 10 yoǔ zǐ yǐ xiào dì wéi wéi rén zhī běn, 11 qí yì yì yóu cǐ yě,

楽則の楽、

音は洛、

悪、平声、

○斯二者は、親に事え、

に従うを指して言う、知りて去らず、則ち之を見ること明かにし

ずは、

うの意、油然として自ずから生ず、草木の生ずる意有るが如きな

和順従容として、勉強する所無きを謂う、親に事え兄に従

節文、品節文章を謂う、

楽しめば則ち生

て、

之を守ること固し、

2故より:もとより 故、猶本也(故、猶本のごときなり) 『而人倫尤切於身(而るに人倫尤も身に切なり)』とある。 (1切:身近 切、近也(切、近なり) 通し番号494-10朱注に

3有子孝弟以て仁を爲すの本と爲す:『論語』學而2の次の一文〕故より:もとより 故、猶本也(故、猶本のごときなり)

(3)有子孝弟以て仁を爲すの本と爲す:『論語』學而2の次の一文を言っている。「有子曰、其爲人也孝弟、而好犯上者鮮矣。不好犯上、而好作亂者未之有也、君子務本、本立而道生、孝弟也者、其爲仁之本與(有子曰く、其人と爲りや孝弟、而して上を犯すを好む者兼だ之む者鮮し。上を犯すを好まず、而して乱を作すを好む者未だ之む者鮮し。上を犯すを好まず、而して乱を作すを好む者未だ之れる。「有子ざるなり、君子は本を務む、本立ちて道生ず、孝弟なるや、其仁を爲すの本か)」

分注記

意味である。 意味である。 有子が孝弟を仁をなすの本としたのはまた同じ 用途はもとよりこの上なく広い。しかしその実は親に尽し兄に従 になり実になる。 が出て来るのは、近いことで最も精 になり実になる。 愛は親に尽すほど身近なものはない。 に義の道の

通し番号46 章内番号2 章通し番号88 識別番号7・27・2

本文

之、11手之舞之、矣、8生則惡可已也、9惡可已、10則不知足之蹈文斯二者是也、5樂之實、6樂斯二者、7樂則生1智之實、2知斯二者弗去是也、3禮之實、4節

1 zhì zhī shí, 2 zhī sī èr zhě fú qù shì yě, 3 lǐ zhī shí, 4 jié wén sī èr zhě shì yě, 5 yuè zhī shí, 6 lè sī èr zhě, 7 lè zé shēng yǐ, 8 shēng zé wū kĕ yǐ yĕ, 9 wū kĕ yǐ, 10 zé bù zhī zú zhī dǎo zhī, 11 shoǔ zhī wǔ zhī, 12 shoù zhī wǔ zhī, 13 shoù zhī wǔ zhī, 13 shoù zhī wǔ zhī, 14 shoù zhī wǔ zhī, 15 shoù zhī wǔ zhī, 16 shoù zhī wǔ zhī, 17 shoù zhī wǔ zhī, 18 shí, 2 zhī shi, 2 zhī shi, 2 zhī shi, 3 lǐ zhī shí, 2 zhī shi, 3 lǐ zhī shí, 4 zhī shi, 5 zhī shí, 5 zhī shi, 5 zhī shi, 6 lè sī èr zhě, 5 zhē, 5 zhī shi, 6 lè sī èr zhě, 2 zhī shi, 5 zhī shí, 6 lè sī èr zhě, 5 zhē, 5

⑴節文:区別しほどよくしあやをなす(朱注) 通し番号300-58くんば、則ち足の之を踏み、手の之に舞うを知らず、楽しめば則ち生ず、生ずれば則ち悪ぞ已むべけんや、悪ぞ已むべ

なるものを節文する是れなり、楽の実、斯二なるものを楽しむ、

る。 (1)節文:区別しほどよくしあやをなす(朱注) 通し番号300-58

朱注

12謂品節文章、13樂則生矣、14謂和順從容、15無所勉強、16事親事親從兄而言、8知而弗去、9則見之明、10而守之固矣、11節文、1樂斯、2樂則之樂、3音洛、4惡、5平聲、6○斯二者、7指

30 ér shoù zhī gù, 31 rán hòu jié zhī mì, 32 ér lè zhī zhī daò, 28 jiē yuán yú cĭ, 29 rán bì zhī zhī míng shoŭ wữ zú dão ér bù zì zhī yĭ, 25 ° cĭ zhāng yán 20 18 16 yĭ, 14 wèi hé shùn cóng róng, 15 wú suŏ miăn qiăng ér 22 suǒ wèi wū kĕ yĭ yĕ, 23 qí yoù chéng, 24 zé zhì yú 0 jié wén, 12 wèi pĭn jié wén zhāng, 13 lè zé fú qù, 9 zé jiàn zhī míng, 10 ér shoù zhī gù yĭ, rú caŏ mù zhī yoǔ shēng yì yĕ, 19 jì yoǔ shēng yì shì qìng cóng xiōng zhī yì, 17 yóu rán zì shēng qìng cóng xiōng, 26 liáng xīn zhēn qiè, 27 tiān xià Sī, sī èr zhě, 7 zhĭ shì qìng cóng xiōng ér yán, 8 zhī qí chàng maò tiaó dá, 21 zì yoǔ bù kĕ 2 lè zé zhī lè, 3 yīn luò, 4 wū, 5 píng shēng è zhě, shēng

の、西山香子4-9未主こ「比がらざるもの有り、謂う所の悪ぞ已むべけんやなり、其又に盛なからざるもの有り、謂う所の悪ぞ已むべけんやなり、其又に盛なれば、則ち手舞い足踏みて自ら知らざるに至る、○此章言えらく、我に事え兄に従うは、良心が真で切なり、天下の道、皆此を原と親に事え兄に従うは、良心が真で切なり、天下の道、皆此を原と然る後之を節すること密かにして、之を楽しむこと深きなり、然る後之を節すること密かにして、之を楽しむこと深きなり、然る後之を節すること密かにして、之を楽しむこと深きなり、明に生ずる意有れば、則ち其暢茂、條達し、自ずから遏るべり、既に生ずる意有れば、則ち其暢茂、條達し、自ずから遏るべり、既に生ずる意有れば、則ち其暢茂、條達し、自ずから遏るべり、既に生ずる意有れば、則ち其暢茂、條達し、自ずから遏るべり、既に生ずる意有れば、則ち其暢茂、條達し、自ずから遏るべい。

- 言盡法制品節之詳(此言は法制品節の詳を尽す)」とある。 節、猶適也(節、猶適のごときなり) 通し番号14-69朱注に「此11品節:区別しほどよくする 品、謂階格也(品、階格を謂うなり)
- ②文章:あやをなす 青と赤のあやが文で、赤と白のあやが章である。
- ③従容:ゆったりとしたさま 従容・道(従容として道に中る)」通し番号972-4朱注に「従容中道(従容として道に中る)」とある。
- 意を満足せざるを謂うなり)」とある。 我足、謂不以我滿足其意也(我を足れりとせずは、我を以て其(4)意:心 意、志也(意、志なり) 通し番号279-8朱注に「不
- 55mk:ひとりでに起こるさま) ゆうぜん
- (6)暢茂:伸び茂る 暢茂、長盛也(暢茂、長盛なり)(通し番号307-5に「草木暢茂(草木暢茂す)」とある。
- の意味がある。 條、小枝也(條、小枝なり)(7條達: 木の枝が伸びるように四方にのび通ずる 條には「木の枝」
- 注に「遏人欲於横流(人欲を横流に於て遏む)」とある。(8)遏む:止める 遏、止也(遏、止なり) 通し番号365-10朱

(10)良心:善心 (9) 又に:さらに 子の事を引きて、以て見うべきの節を明かにするなり)」とある。 354-7朱注に「此又引孔子之事、以明可見之節也(此又に孔 良心者、本然之善心、卽所謂仁義之心也(良心は、 又、猶更也 (又、猶更のごときなり) 通し番号

ときなり)」とある。 於木也(其以て其良心を放つ所の者、亦猶斧斤の木に於るがご 本然の善心、 通し番号678-3に「其所以放其良心者、亦猶斧斤之 即ち謂う所の仁義の心なり) (通し番号678-

(12) (11) 切: 真: 近い 近と 真、偽之反也(真、偽の反なり)

「哀痛迫切(哀痛迫切す)」とある。 原、本作源(原、本源に作る) 切、 近也(切、近なり) 通し番号322-41朱注に 48-6朱

(14)(13)注に「其原蓋出於此(其原蓋し此に出ず)」とある。 通し番号1

密か:細か 泛く之を言う、子と爲るは則ち愈に密かなり)」とある。 10朱注に「爲人、蓋泛言之、爲子則愈密矣(人と爲るは、細か 密、疏之對也(密、疏の対なり) 通し番号4 通し番号4 蓋し

楽斯、 楽しめば則ち生ずは、やわらぎ、従い、ゆったりしており、強い 舞い足が踏んでも知らないようになる。 悪ぞ已むべけんやということである。さらに盛んになると、手が 起こる。草木に生じる心があるようなものである。生じる心があ て努めることがないことを言う。親に尽し兄に従う気持は自然に 明らかで守ることが固い。節文は区別しあやをつけることを言う。 尽すと兄に従うことを指して言う。知って去らないと見ることが 伸び茂り四方に伸びる。自ずから止めることができない。 楽則の楽は音は洛である。悪は平声である。斯二者は親に

> ずこれを明らかに知りこれを固く守って後に、これを節すること り身近なことである。天下の道はみなこれを源とする。それで必 この章は言う。親に尽し兄に従うことは、真心から出ることであ が細かくこれを楽しむことが深くなる。

章番号28 章通し番号89 通し番号461 462 章内番号1 ر 2

本文訳

親に順でないと子となることができない。舜は親に接する道を尽し が喜んで天下の父子というものが定まった。これを大孝と言う。 るのは舜だけである。親の心を得ないと人となることができない。 て父の瞽瞍は喜んだ。瞽瞍が喜んで天下はそれに感化された。瞽瞍 んで自分に帰するのを見ることが草を見るようである。これができ 孟子が言う。天下は大いに悦んで自分に帰そうとする。 天下が悦

通し番号461 章内番号1 章通し番号89 識別番号7. 28 1

本

1孟子曰、 可以為人、 4猶草芥也、 8不順乎親、 2天下大悅而將歸己、 5惟舜爲然、 9不可以為子、 6不得乎親、 3視天下悅而歸 7 不

hū qìng, 9 bù kẽ yĭ wéi zĭ, rán, 6 bù dé hū qìng, 7 bù kẽ yǐ wéi rén, 8 bù shùn tiān xià yuè ér guī jĭ, 4 yóu caŏ jiè yĕ, 1 mèng zĭ yuē, 2 tiān xià dà yuè ér jiāng guī jĭ, 3 shì 5 wéi shùn wéi

に帰するを視ること、猶草芥のごときなり、惟舜然りと爲す、 に得られざれば、以て人と爲るべからず、親に順ならざれば、 孟子曰く、天下大いに悦びて将に己に帰さんとす、天下悦びて己 て子と爲るべからず、 以 親

(1) 草芥:草 は草である。中村惕斎は「草芥とは共に草なり、 代では「あくた」の意味で使われるからである。芥の元の意味、:草 そのまま読めば「草、あくた」かと思う。これは芥が現 る者を云う」と注す。 芥、 草也(芥、草なり) 至りて軽賤な

之一、 子則愈密矣、 4曲爲承順、5以得其心之悅而已、6順則有以諭之於道、7心與 三舜視天下之歸己如草芥、2而惟欲得其親而順之也、3得者、 8而未始有違、 9尤人所難也、10爲人、 11蓋泛言之、 12 爲

shùn, 5 yĭ dé qí xīn zhī yuè ér yĭ, 6 shùn zé yoŭ yĭ 9 yóu rén suǒ nán yě, 10 wéi rén, 11 gaì fàn yán zhī, yù zhī yú daò, 7 xīn yǔ zhī yī, 8 ér wèi shǐ yoǔ wéi, yù dé qí qìng ér shùn zhī yĕ, 3 dé zhĕ, 4 qū wéi chéng 1 yán shùn shì tiān xià zhī guī jǐ rú caŏ jiè, 2 ér wéi wéi zĭ zé yù mì yĭ,

> 論くこと有り、心は之と一にして、未だ始めより違うこと有らず、 爲るは則ち愈に密かなり、 尤も人の難とする所なり、 以て其心の悦ぶことを得るのみ、順なれば則ち以て之を道に於て 親を得て之に順なることを欲するなり、得は、曲に承順を爲し、 言えらく、舜天下の己に帰するを視ること草芥の如くして、 人と爲るは、蓋し泛く之を言う、

(1)之:親をさす

(2) 曲に:つぶさに 之を発明し、 通し番号695-19に「程子又發明之、曲盡其指 曲に其指を尽す)」とある。 曲、猶小小之事也(曲、猶小小の事のごときな

(5) (4) (3) 愈影だいなく に・・・さらに 諭、 導也 (諭、導なり)

聞き愈に甚だしき者有り)」とある。 注に「世有強辯飾非、 愈、益也(愈、益なり) 聞諫愈甚者(世強弁して非を飾り、 通し番号455-6朱

(6)密か:細か -31朱注に 「然後節之密、而樂之深也(然る後之を節すること密「然後節之密、而樂之深也(然る後之を節すること密」 之を楽しむこと深きなり)」とある。 密、疏之對也(密、 疏の対なり)

朱注訳

る。 これは人が最も難とすることである。 ことがある。心は親と一であり、始めから違っていることはない。 るようであり、ただ親の心を得て親に順なることを願った。得は 次のように言う。舜は天下が自分に帰するのを見ることが草を見 つぶさに従い親の心が悦ぶことを得る。 子と爲るはさらに細かい。 人と爲るは、 順であれば親を道に導く 広く言ってい

(1)頑:愚か

頑、愚也(頑は愚なり)

頑者、無知覺(頑は、知

ŋ

に「頑夫廉、懦夫有立志(頑夫は廉、懦夫は志を立てること有覚ること無し)(通し番号588-10朱注) 通し番号588-17

通し番号462 章内番号2 章通し番号89 識別番号7・ 28 2

本

文

7此之謂大孝、 而天下化、5瞽瞍氐豫、 1舜盡事 報之道、 2 而 瞽瞍医豫、 6而天下之為父子者定、 3瞽瞍低豫、 4

天下化す、瞽瞍予びを底して、天下の父子爲る者定まる、此を之 舜親に事えるの道を尽して、

瞽瞍

予びを底す、 大孝と謂う、 sŏu zhĭ yù, 4 ér tiān xià huà, 5 1 shùn jìn shì qìng zhī daò, 2 ér tiān xià zhī wéi fǔ zǐ zhě dìng, 7 cǐ zhī wèi dà xiào, gữ sốu zhĭ yù, 6 gŭ sŏu zhĭ yù, 3 瞽瞍予を低して、 gŭ ér

瞽瞍:舜の父 (朱注)

(2)予び:喜び楽しむ (朱注) 助(吾王予まざれば、 吾何以て助からん)」 通し番号81-13に とある。 「吾王不豫、 吾 何以

(3) 底す:致す (朱注)

朱 注

爲子者、 悅樂也、 格姦、 於是莫不勉而爲孝、 底、 13亦允若是也、14蓋舜至此而有以順乎親矣、15是以天下之 2之爾反、3○瞽瞍、4舜父名、5底、6致也、7豫、 16知天下無不可事之親、17顧吾所以事之者未若舜耳、 9 瞽瞍至頑、 19至於其親亦厎豫焉、 10嘗欲殺舜、 11至是而底豫焉、 20則天下之爲父者、 12書所謂不 8 21 18

> 39惟如此而後、40天下之爲父子者定、 瞽瞍厎豫者、33盡事親之道、34共爲子職、35不見父母之非而已、 位之意、26所謂定也、27爲法於天下、 亦莫不慈、22所謂化也、23子孝父慈、 36昔羅仲素語此云、37只爲天下無不是底父母、38了翁聞而善之曰、 一家之孝而已、30此所以爲大孝也、31○李氏曰、 43常始於見其有不是處耳、 24各止其所、 41彼臣弑其君、 28可傳於後世、 32舜之所以能使 25而無不安其 29非止一身 42子弑其父

suǒ yǐ shì zhī zhě wèi ruò shùn ĕr, 18 yú shì mò bù zhě, yoǔ yǐ shùn hū qìng yǐ, 15 shì yǐ tiān xià zhī wéi zǐ 6 zhì yĕ, 7 yù, 8 yuè lè yĕ, 9 gĭ sŏu zhì wán, 10 cháng 1 dǐ, 2 zhī ĕr făn, 3 o gữ sŏu, 4 shùn fữ míng, 5 zhĭ, 35 bù jiàn fǔ mǔ zhī feī ér yǐ, 36 xī luō zhòng sù yǔ zhĭ yù zhĕ, 33 jìn shì qìng zhī daò, 34 gòng wéi zĭ zhí, yī jiā zhī xiào ér yĭ, 30 cĭ suŏ yĭ wéi dà xiào yĕ, yú tiẫn xià, 28 kẽ chuán yú hòu shì, 29 feī zhǐ yī shēn wú bù ān qí wèi zhī yì, 26 suŏ wèi dìng yĕ, 27 wéi fă miăn ér wéi xiào, 19 zhì yú qí qìng yì zhǐ yù yān, bù gé jiān, 13 yì yŭn ruò shì yĕ, 14 gaì shùn zhì cĭ ér yù shā shùn, 11 zhì shì ér zhǐ yù yān, 12 shū suŏ wèi wèi huà yĕ, 23 zĭ xiào fǔ cí, 24 gĕ zhĭ qí suŏ, 25 ér 20 zé tiān xià zhī wéi fǔ zhě, 21 yì mò bù cí, 22 suŏ yún, 37 zhĭ wéi tiān xià wú bù shì dĭ fǔ mǔ, lì zhī yuē, 32 shùn zhī suŏ yì néng shì gũ sŏu 16 zhī tiān xià wú bù kĕ shì zhī qìng, 17 38 liăo gù wú

shì chǔ ĕr, jūn, 42 zĭ shì qí fǔ zhě, 43 cháng shǐ yú jiàn qí yoǔ bù 40 tiān xià zhī wéi fǔ zǐ zhě dìng, 41 bǐ chén shì qí wēng wén ér shàn zhī yuē, 39 wéi rú cĭ ér hòu,

無しと爲す、ヹ 謂う所の化なり、子は孝、父は慈、各其所に止まる、而して其 天下の父子爲るもの定まる、彼臣其君を弑し、子其父を弑する者 爲す所以なり、 舜の若からざるのみと、是に於て勉めて孝を爲さざる莫し、其親 うべからざるの親無きを知る、顧うに、吾以て事える所の者未だ 書謂う所の姦に格らず、亦允じ若う、是れなり、蓋し舜此に至 瞽瞍至りて頑なり、嘗て舜を殺さんと欲す、是に至りて予を底す、 見ざるのみ、昔、 後世に伝うべし、一身一家の孝に止まるに非ざるのみ、此大孝と 位に安らかにせざるの意無し、謂う所の定なり、法を天下に爲し、 亦豫を底すに至る、 りて以て親に順なること有り、 常に其是なるざる処有るを見ることに於て始まるのみ、 之爾反、○瞽瞍、舜の父の名、底、致なり、予、悦楽なり、 親に事えるの道を尽し、子爲るの職を共み、父母の非を 了翁聞きて之を善しとして曰く、惟此如くして後、 ○李氏曰く、舜の能く瞽瞍をして豫を底さしめる 羅仲素此を語りて云く、只天下不是底るの父母 則ち天下の父爲る者、 是を以て天下の子爲る者、 亦慈ならざる莫し、 天下事が

> (2) 姦に格らず: 『書経』虞書の堯典からの引用

(4)亦允じ若う:『書経』虞書の大禹謨にある「瞽亦允若(瞽亦允じ若) に「知性則物格之謂(性を知るは則ち物格るの謂なり)」とある。 (3)格る:至る う)」からの引用 至也(格、 至なり) 通し番号802-19朱注

(5) た 信じる 允、信也(允、信なり)

若う:したがう 若、 段借爲順(若、 段借して順と爲す)

(7)顧う:思う 顧、念也(顧、念なり)

(8)止まる:とどまる ず)」とある。 番号295-18朱注に「其貢亦不止什一矣(其貢亦什一に止まら 止、猶居也(止、猶居のごときなり)

10職:つとめ 9子爲るの職を共む:萬章章句上 也争、 とある。 之失伍、言其失職(子の伍を失なうは、 猶爲のごときなり)) 職、謂守與任(職、守り任を与すを謂う 通し番号542-18の引用である。 通し番号224-3朱注に「子 其職を失なうを言う)」 與、猶爲

(11)共む:つつしむ 共、叚借爲恭(共、 不善 段借して恭と爲す

(豊彼民を暴うことを得んや)」とあ 通し番号552-9に「豈得暴彼民

朱注訳

親に順であった。これがために天下の子はみな尽すことのできな ととし従う」とあるのがこれにあたる。舜は親がこのようでも、 た。ここに至って喜んだ。書経に「姦に至ることがない。」「まこ は悦楽である。瞽瞍は至って愚かである。かつて舜を殺そうとし 底は之爾反である。瞽瞍は舜の父の名である。 底は致である。 予

い親は天下にいないことがわかった。自分が尽す親のことを考えてみるに舜の親のようでない。これがために努めて孝をなさないことがない。その親が喜びを致すことになる。そうすると天下の父はまた子に慈愛を抱かない者はない。いわゆる化である。子ががない。いわゆる定である。天下の見本となり後世に伝えることができ、自分や自分の家の孝に留まらない。それで大孝となす。本氏は言う。舜が瞽瞍が喜ぶようにできたのは、親に接す道を尽し、子の務めを慎み、父母の非を見なかったからである。昔、羅仲素は言った。「天下に至って不善の父母はいない。」了翁はこれをよい言として言った。「ただこのようにした後に天下の父子たるものが定まる。臣がその君を殺し、子がその父を殺すのは、父母に不善があるとする所から始まる。」

儒学は親に対する孝を非常に重んじる。親に孝にすれば単に 親子の間が良好になるだけでなく、天下が治まるとする。舜の 親子の間が良好になるだけでなく、天下が治まるとする。舜の はならないのである。

介護が必要になれば、すぐに介護老人保健施設(老健)や特別られない。子供は年のいった親の面倒を見ようとしない。親に現代は孝は重んじられない。学校教育でも孝はほとんど教え

養護老人ホーム(特養)に入れようとする。

現代では親に孝にすることと政治とはまったく別のことであると考えられている。親に孝など尽さなくても、政治活動に励ると考えられている。親に孝など尽さなくても、政治活動に励とに対しまるなら、どんなに政治活動をしても国は治まるとを怠るなら、どんなに政治活動をしても国は治まらないと儒とを怠るなら、どんなに政治活動をしても国は治まらないとに対しては親に孝にすることと政治とはまったく別のことであ